

# 医師不足・偏在改善計画の進捗状況 (令和元年度)

～ みんなで築こう！秋田の医療を ～



令和2年8月

秋田県

# 目 次

	ページ
1 医師不足・偏在改善計画（平成24年11月策定）について	1
2 全県の病院における診療科ごとの医師数の推移 （平成23年度（基準値）→令和元年度（現状値））	2
3 年次計画医師数・医師の現状値・年次計画医師数達成率の推移 （二次医療圏別）	3
4 年次計画医師数・医師の現状値（二次医療圏別・診療科ごと）	9
5 年次計画医師数・医師の現状値（診療科別・二次医療圏ごと）	14
6 秋田県における初期臨床研修医（1年目）及び3年目の定着率の推移	19
7 重点推進方策のアクションプランの取り組み状況	
（1）若手医師の地域循環型キャリア形成システムの構築 ～システムの構築支援から受入体制の整備に向けて～	23
（2）県外からの研修医の確保と初期臨床研修制度の改善 ～初期研修医から後期研修医までの確保・定着に向けて～	26
（3）女性医師への更なる支援 ～ライフステージに応じた女性医師の支援に向けて～	30
（4）（1）～（3）を支える取組	32

<参考> 「医師・歯科医師・薬剤師調査・統計」の状況について

# 医師不足・偏在改善計画の進捗状況

## ～みんなで築こう！秋田の医療を～

### 1 医師不足・偏在改善計画（平成24年11月策定）について

- (1) 計画期間について
  - ・ 「医師数・患者数等医療需要調査」\*<sup>1</sup>（平成23年5月）の結果を基に推計された必要医師数\*<sup>2</sup>と供給医師数\*<sup>3</sup>が合致すると見込まれる平成34～37年までを計画期間として決めました。
- (2) 計画最終年（平成37年）の目標医師数の設定について
  - ・ 「医師の充足状況調査」\*<sup>4</sup>（平成23年10月）により、平成23年の目標医師数\*<sup>5</sup>を設定しました。
  - ・ 必要医師数の経年変化率を平成23年の目標医師数から順次乗じて、平成37年の目標医師数を設定しました。
- (3) 年次計画医師数の設定について
  - ・ 平成23年の医師の現状値\*<sup>6</sup>に、供給医師数の対前年増加数を順次加え、各年の年次計画医師数としました。なお、年次計画医師数は、二次医療圏・診療科ごとに設定しました。
  - ・ 供給医師数の対前年増加数は、各二次医療圏・診療科における医師不足率（現状値／目標医師数）に応じて按分した上で医師の現状値に加算しました。
  - ・ よって、年次計画医師数は、計画最終年に目標医師数を達成するための目安となり、また、今後増加した医師が、どの地域の、どの診療科で勤務すると課題解決につながるのかという指標の一つとなるものです。
- (4) 進捗状況の報告について
  - ・ 平成25年度においては、厚生労働省により隔年で実施される「医師・歯科医師・薬剤師調査」の結果（平成24年データ）が公表されたので、主にその内容を分析し、報告しました。
  - ・ 平成26・28・30年度においては、「医師の充足状況調査」（各年10月）の結果を基に、年次計画医師数の達成状況について、報告しました。
  - ・ 平成27・29年度は、「医師の充足状況調査」（各年10月）の結果を基に、年次計画医師数の達成状況について報告するとともに、「医師・歯科医師・薬剤師調査」の結果（平成26・28年データ）が公表されたので、その内容を分析して報告しました。

---

\*1 「医師数・患者数等医療需要調査」・・・県内の患者の受療動向、医療圏域、疾病構造等の医療需要や、医師の労働時間、診療患者数等の実態を把握する目的で実施。

\*2 必要医師数・・・\*1の調査により算出した将来患者数、医師一人当たりの診療可能患者数を基に算定。\*1の調査は、対象患者を各住所地に戻した上で、当該住所地を含む各二次医療圏で一定の医療が完結することを前提としているため、後述の「目標医師数」には採用していない。

\*3 供給医師数・・・厚生労働省が実施している「医師・歯科医師・薬剤師調査」の平成20年調査結果を基準に、地域枠医学生数の将来推計等を加味したもの。

\*4 「医師の充足状況調査」・・・県内の病院を対象に、各病院の診療科ごとの医師の充足状況を把握するため、年2回（4月・10月）実施している県独自の調査。

\*5 目標医師数・・・\*4の調査における常勤医師、非常勤医師、更に必要とする医師の合計

\*6 医師の現状値・・・\*4の調査における常勤医師、非常勤医師の合計数。

## 2 全県の病院における診療科ごとの医師数の推移(平成23年度(基準値)→令和元年度(現状値))

区分	全県			大館・鹿角			北秋田			能代・山本			秋田周辺			由利本荘・にかほ			大仙・仙北			横手			湯沢・雄勝		
	H23 (基準値)	R1 (増減)	年次計画 医師数 (比較)	H23 (基準値)	R1 (増減)	年次計画 医師数 (比較)	H23 (基準値)	R1 (増減)	年次計画 医師数 (比較)	H23 (基準値)	R1 (増減)	年次計画 医師数 (比較)	H23 (基準値)	R1 (増減)	年次計画 医師数 (比較)	H23 (基準値)	R1 (増減)	年次計画 医師数 (比較)	H23 (基準値)	R1 (増減)	年次計画 医師数 (比較)	H23 (基準値)	R1 (増減)	年次計画 医師数 (比較)			
総数	1,299	1,303 ▲4	1,462 ▲159	145	141 ▲4	163 ▲22	34	35 ▲1	40 ▲5	106	102 ▲4	125 ▲23	531	546 ▲15	593 ▲47	156	144 ▲12	180 ▲36	130	133 ▲3	154 ▲21	133	148 ▲15	140 ▲8	64	54 ▲10	67 ▲13
内科	450	435 ▲15	521 ▲86	58	47 ▲11	66 ▲19	7	8 ▲1	10 ▲2	37	30 ▲7	45 ▲15	197	194 ▲3	222 ▲28	57	48 ▲9	67 ▲19	33	41 ▲8	44 ▲3	46	54 ▲8	49 ▲5	15	13 ▲2	18 ▲5
小児科	63	68 ▲5	65 ▲3	6	7 ▲1	7 ▲0	2	2 ▲0	2 ▲0	4	4 ▲0	4 ▲0	29	33 ▲4	29 ▲4	8	6 ▲2	9 ▲3	4	8 ▲4	4 ▲4	8	6 ▲2	8 ▲2	2	2 ▲0	2 ▲0
精神科	131	134 ▲3	141 ▲7	10	15 ▲5	10 ▲5	5	3 ▲2	6 ▲3	10	9 ▲1	10 ▲1	57	59 ▲2	60 ▲1	11	11 ▲0	17 ▲6	20	17 ▲3	20 ▲3	13	16 ▲3	13 ▲3	5	4 ▲1	5 ▲1
外科	164	167 ▲3	184 ▲17	15	14 ▲1	17 ▲3	5	6 ▲1	6 ▲0	13	14 ▲1	17 ▲3	57	66 ▲9	65 ▲1	24	20 ▲4	26 ▲6	18	16 ▲2	21 ▲5	20	23 ▲3	20 ▲3	12	8 ▲4	12 ▲4
脳神経外科	55	56 ▲1	61 ▲5	8	7 ▲1	9 ▲2	2	1 ▲1	2 ▲1	3	3 ▲0	3 ▲0	22	25 ▲3	25 ▲0	6	6 ▲0	6 ▲0	7	7 ▲0	9 ▲2	3	4 ▲1	3 ▲1	4	3 ▲1	4 ▲1
整形外科	109	101 ▲8	119 ▲18	14	14 ▲0	14 ▲0	3	4 ▲1	3 ▲1	11	10 ▲1	13 ▲3	39	36 ▲3	43 ▲7	13	13 ▲0	16 ▲3	9	9 ▲0	10 ▲1	12	9 ▲3	12 ▲3	8	6 ▲2	8 ▲2
産婦人科	60	58 ▲2	61 ▲3	8	7 ▲1	9 ▲2	2	2 ▲0	2 ▲0	5	5 ▲0	5 ▲0	23	21 ▲2	23 ▲2	7	8 ▲1	7 ▲1	6	6 ▲0	6 ▲0	6	6 ▲0	6 ▲0	3	3 ▲0	3 ▲0
皮膚科	19	23 ▲4	21 ▲2	3	3 ▲0	3 ▲0	1	1 ▲0	1 ▲0	2	3 ▲1	2 ▲1	7	6 ▲1	9 ▲3	3	4 ▲1	3 ▲1	1	4 ▲3	1 ▲3	1	1 ▲0	1 ▲0	1	1 ▲0	1 ▲0
泌尿器科	50	54 ▲4	53 ▲1	5	5 ▲0	6 ▲1	2	2 ▲0	2 ▲0	6	4 ▲2	6 ▲2	17	22 ▲5	19 ▲3	5	6 ▲1	5 ▲1	7	7 ▲0	7 ▲0	4	6 ▲2	4 ▲2	4	2 ▲2	4 ▲2
眼科	24	23 ▲1	31 ▲8	4	3 ▲1	5 ▲2	1	1 ▲0	1 ▲0	2	2 ▲0	3 ▲1	7	7 ▲0	10 ▲3	3	3 ▲0	3 ▲0	2	2 ▲0	3 ▲1	3	3 ▲0	4 ▲1	2	2 ▲0	2 ▲0
耳鼻咽喉科	31	34 ▲3	32 ▲2	3	3 ▲0	3 ▲0	2	1 ▲1	2 ▲1	2	4 ▲2	2 ▲2	10	11 ▲1	11 ▲0	4	3 ▲1	4 ▲1	4	4 ▲0	4 ▲0	3	4 ▲1	3 ▲1	3	4 ▲1	3 ▲1
リハビリテーション科	29	26 ▲3	33 ▲7	4	6 ▲2	4 ▲2	0	0 ▲0	0 ▲0	3	3 ▲0	3 ▲0	11	10 ▲1	13 ▲3	2	2 ▲0	2 ▲0	7	3 ▲4	9 ▲6	1	1 ▲0	1 ▲0	1	1 ▲0	1 ▲0
その他	114	124 ▲10	140 ▲16	7	10 ▲3	10 ▲0	2	4 ▲2	3 ▲1	8	11 ▲3	12 ▲1	55	56 ▲1	64 ▲8	13	14 ▲1	15 ▲1	12	9 ▲3	16 ▲7	13	15 ▲2	16 ▲1	4	5 ▲1	4 ▲1

秋田県では、県内の病院を対象に、各病院の診療科ごとの医師の充足状況を把握するため、年2回(4月と10月)、県独自の調査を実施しています。  
 この表は、令和元年10月(平成23年10月)の調査結果を基に作成しています。  
 この表に記載される医師数は常勤医師数と非常勤医師数(常勤換算)の合計値であり、秋田周辺医療圏では秋田大学医学部附属病院に勤務する医師を除外し、更に全県の初期研修医を除外した上で、各二次医療圏における病院の診療科ごとの医師数を集計しています。

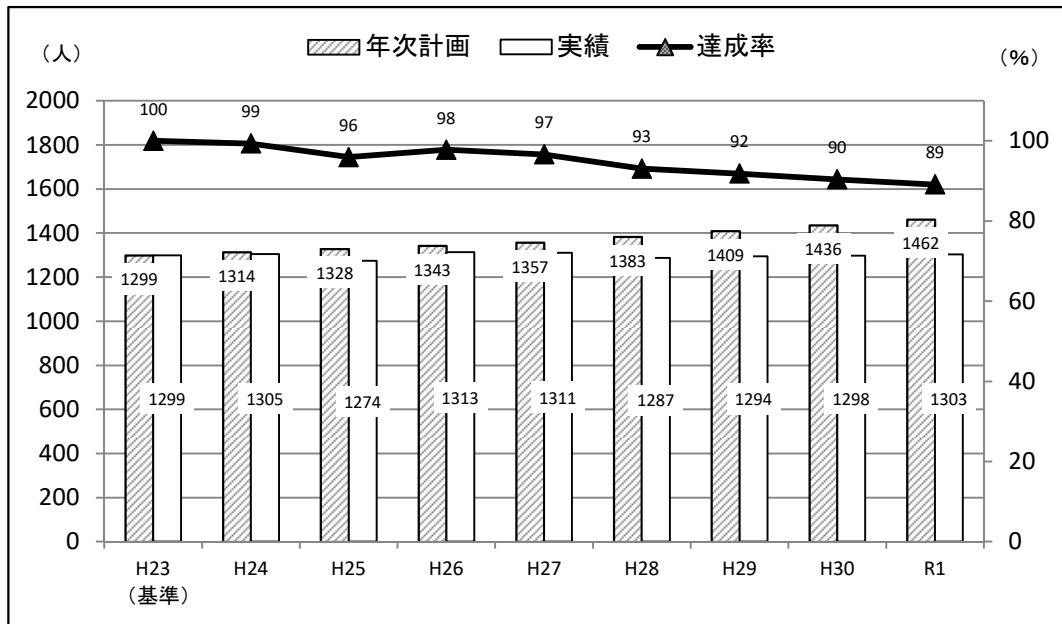
※1 診療科目については、次のとおり整理集約した上で分類します。

内科	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、神経内科、糖尿病内科、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、感染症内科、総合診療
精神科	精神科、心療内科
外科	外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科
産婦人科	産婦人科、産科、婦人科
その他	形成外科、美容外科、小児外科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、救急科

※2 現状値は、常勤医師及び非常勤医師(常勤換算)の合計値とし、合計値の1未満を切り上げて表示しています。  
 ※3 初期研修医は、特定の診療科に属しないので、除きます。  
 ※4 H23年10月(75病院)からR1年10月(68病院)まで、調査対象となる医療機関は、7病院(大里病院(鹿角市)、能代南病院(能代市)、秋田共立病院(秋田市)、秋田県成人病医療センター(秋田市)、湯雄医師会病院(湯沢市)、渡部病院(湯沢市)、京病院(能代市))減少しています。

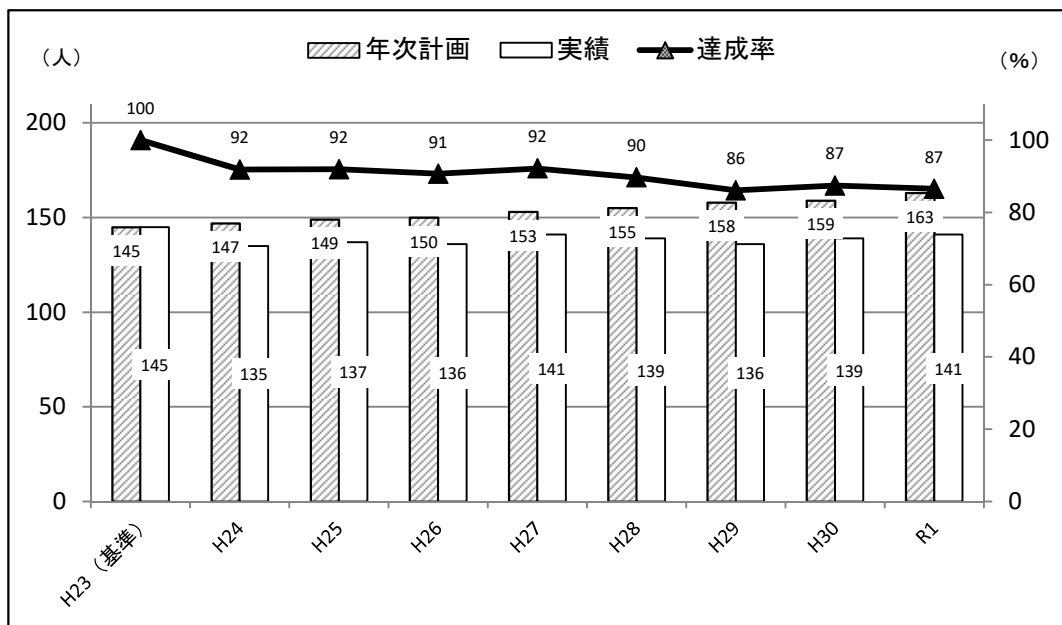
### 3 年次計画医師数・医師の現状値・年次計画医師数達成率の推移（二次医療圏別）

#### (1) 全県



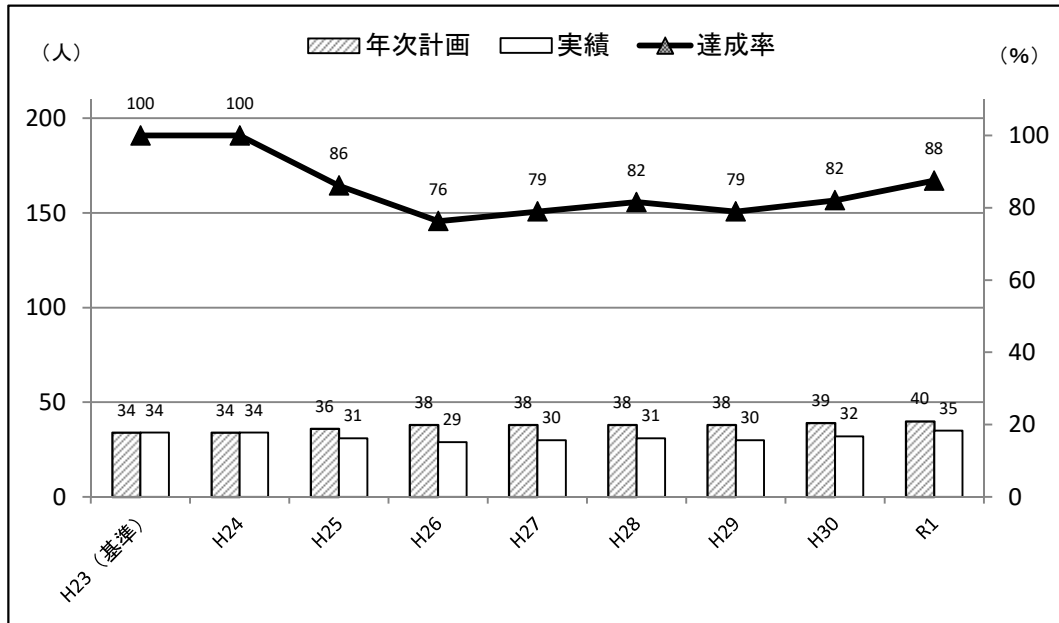
- 令和元年調査では、前回調査から医師数が増加（5人）しましたが、年次計画医師数達成率はほぼ横ばい（-1ポイント）でした。

#### (2) 大館・鹿角



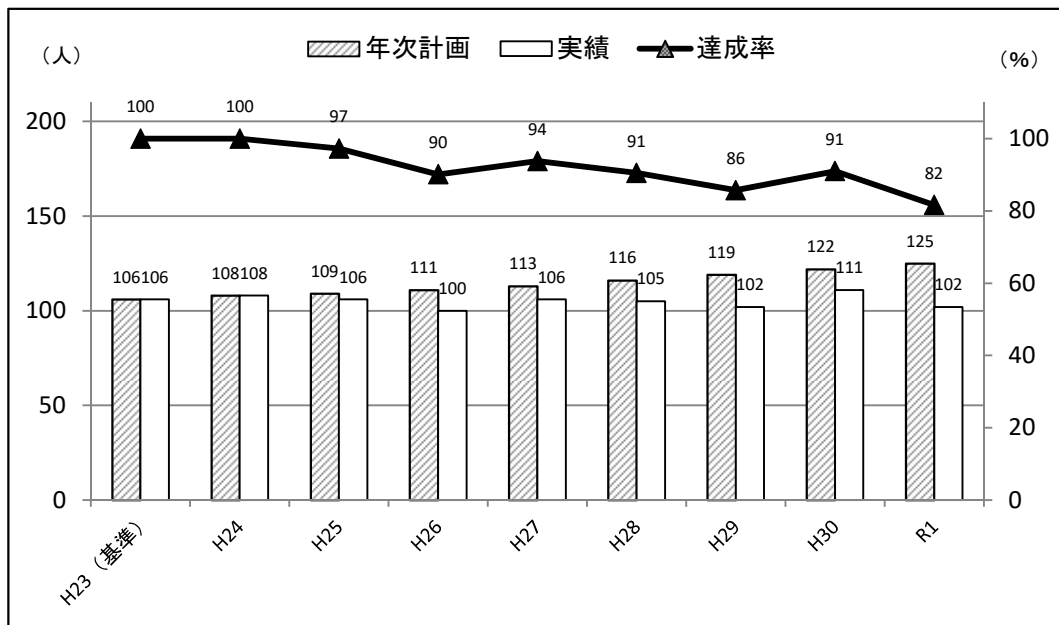
- 令和元年調査では、前回調査から医師数が増加（2人）しました。

(3) 北秋田



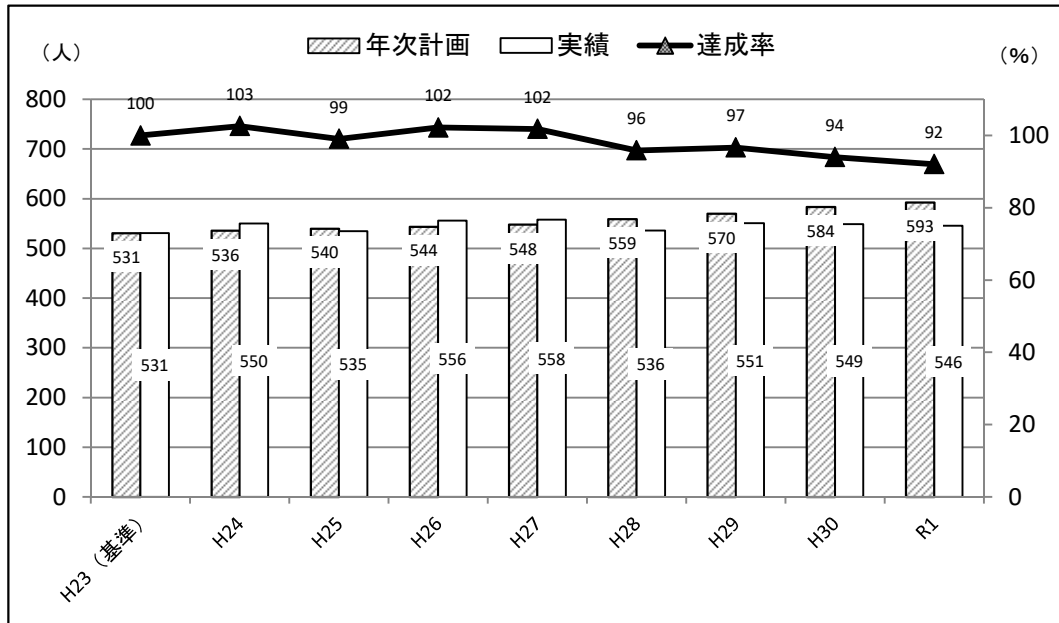
- 令和元年調査では、前回調査から医師数が増加（3人）し、年次計画医師数達成率は上昇（6ポイント）しました。

(4) 能代・山本



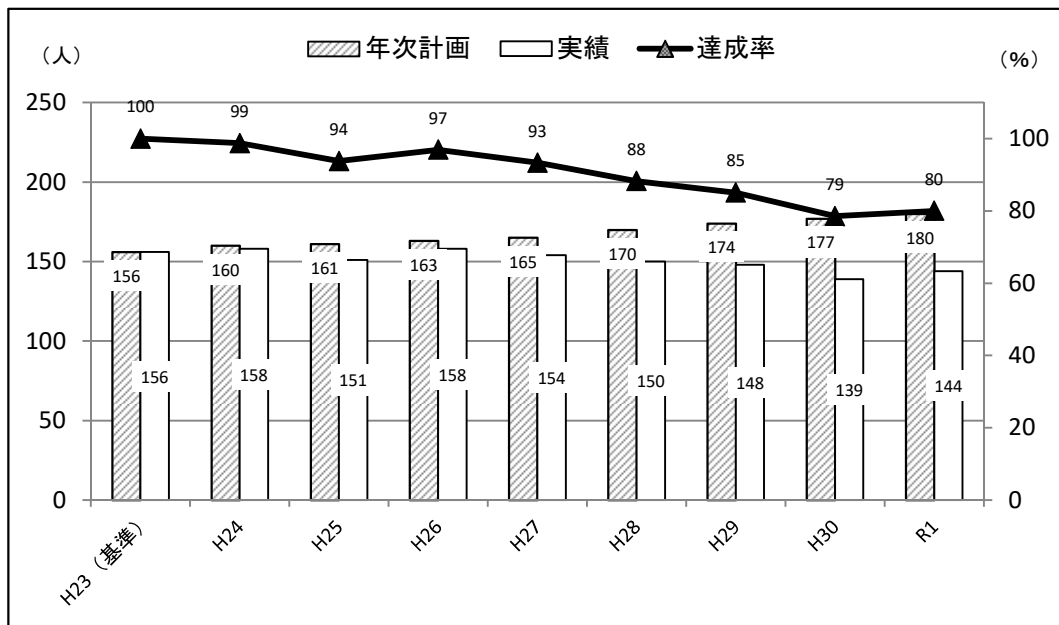
- 令和元年調査では、前回調査と医師数は9名減少し、年次計画医師数達成率は減少（9ポイント）しました。

(5) 秋田周辺



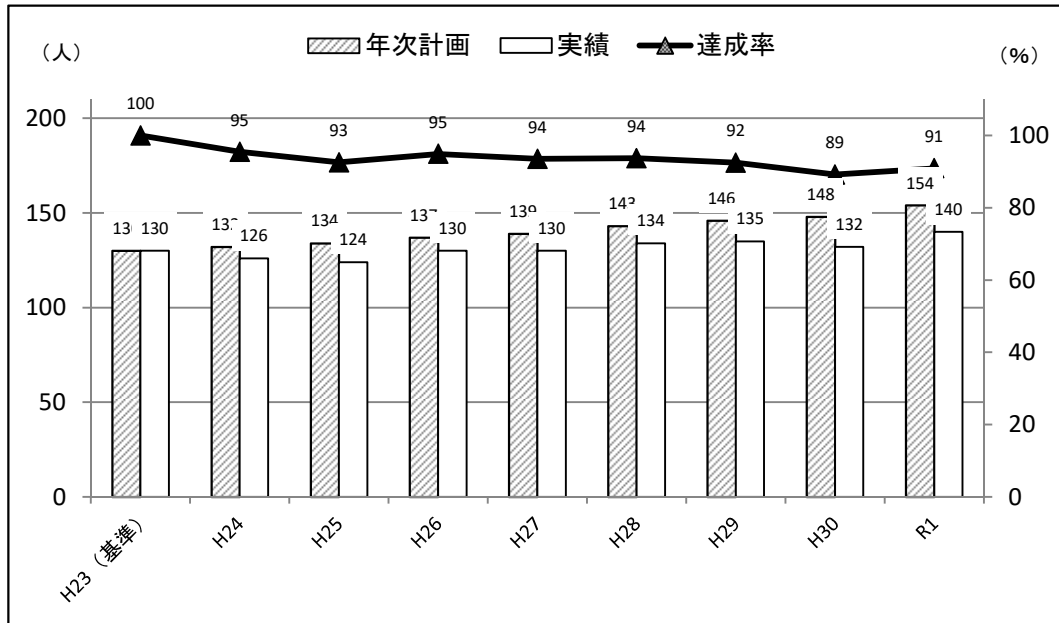
- 令和元年調査では、前回調査から医師数が減少（△3人）し、年次計画医師数達成率は下降（△2ポイント）しました。

(6) 由利本荘・にかほ



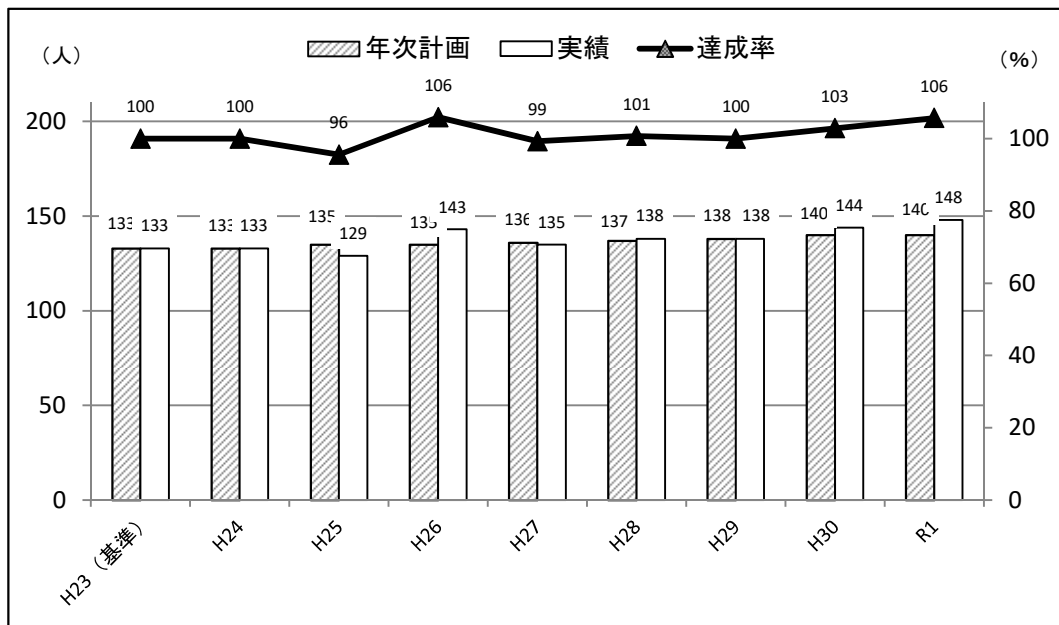
- 令和元年調査では、前回調査から医師数が増加（5人）し、年次計画医師数達成率は上昇（1ポイント）しました。

(7) 大仙・仙北



- 令和元年調査では、前回調査から医師数が増加（8人）し、年次計画医師数達成率は上昇（1ポイント）しました。

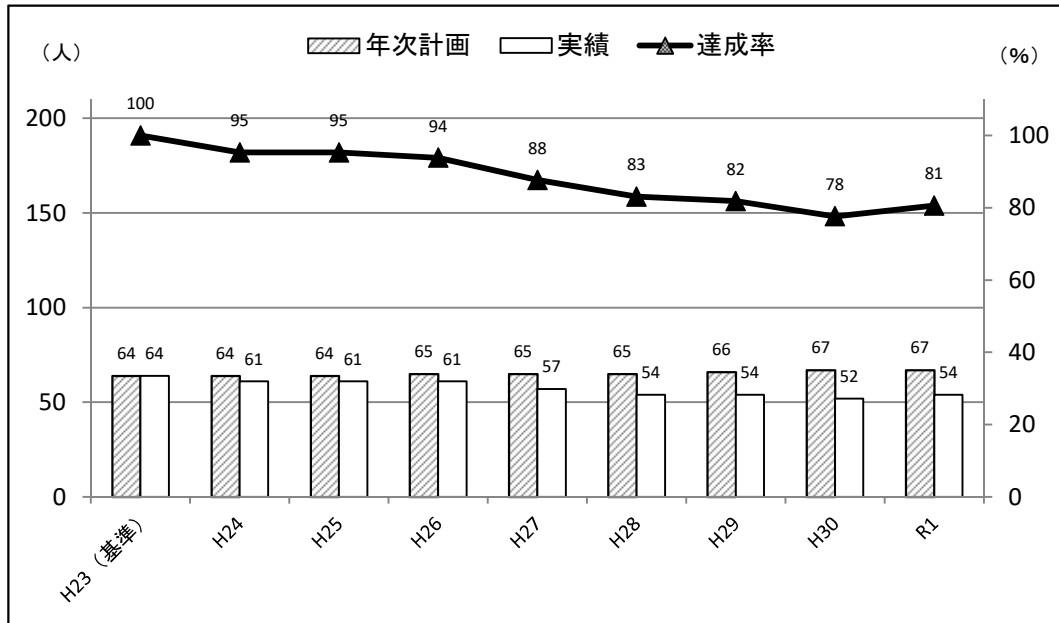
(8) 横手



- 令和元年調査では、前回調査から医師数が増加（4人）し、年次計画医師数達成率は上昇（3ポイント）しました。



(9) 湯沢・雄勝



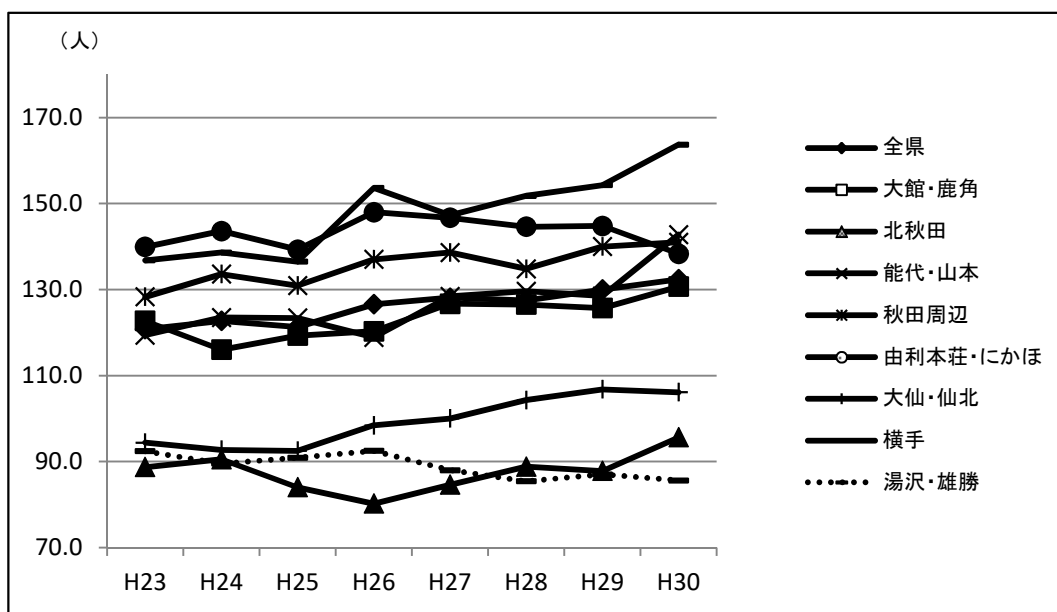
- 令和元年調査では、前回調査から医師数が増加（2人）し、年次計画医師数達成率は上昇（3ポイント）しました。

(令和元年)

二次医療圏	年次計画医師数	医師数現状値	差	年次計画達成率
大館・鹿角	163	141	▲ 22	87%
北秋田	40	35	▲ 5	88%
能代・山本	125	102	▲ 23	82%
秋田周辺	593	546	▲ 47	92%
由利本荘・にかほ	180	144	▲ 36	80%
大仙・仙北	154	133	▲ 21	86%
横手	140	148	8	106%
湯沢・雄勝	67	54	▲ 13	81%
計	1,462	1,303	▲ 159	89%

- 令和元年調査時点で年次計画医師数を達成している二次医療圏は、横手(106%)です。

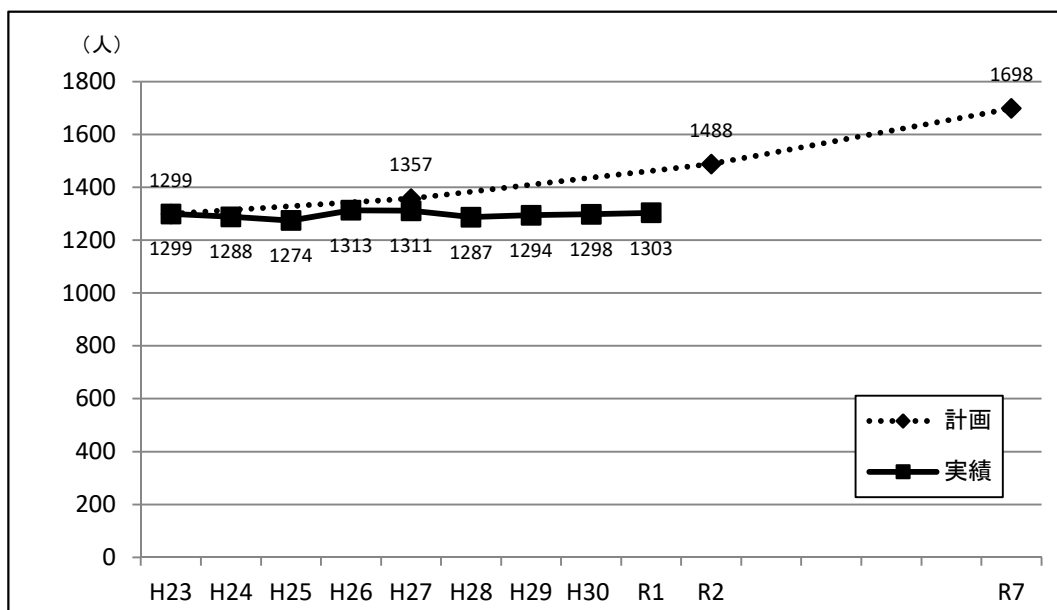
〈参考〉二次医療圏別人口10万人対医師数（医師の充足状況調査による病院勤務医）の推移



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	人口減少率
全県	120.8	122.7	121.3	126.6	128.1	127.5	130.0	132.4	134.9	1.5%
大館・鹿角	122.7	116.0	119.3	120.3	126.7	126.5	125.7	130.7	134.7	1.6%
北秋田	88.7	90.5	84.0	80.2	84.6	88.8	87.8	95.6	107.2	2.4%
能代・山本	119.4	123.5	123.4	118.9	128.4	129.6	128.5	142.8	134.2	2.2%
秋田周辺	128.3	133.6	130.9	137.0	138.6	134.8	140.0	141.0	141.6	1.0%
由利本荘・にかほ	139.9	143.6	139.3	148.0	146.7	144.6	144.8	138.3	145.4	1.5%
大仙・仙北	94.4	92.7	92.5	98.4	100.0	104.3	106.8	106.1	108.8	1.8%
横手	136.8	138.6	136.5	153.6	147.3	151.8	154.3	163.7	171.1	1.7%
湯沢・雄勝	92.4	89.5	90.9	92.5	88.0	85.4	87.0	85.6	90.9	2.2%

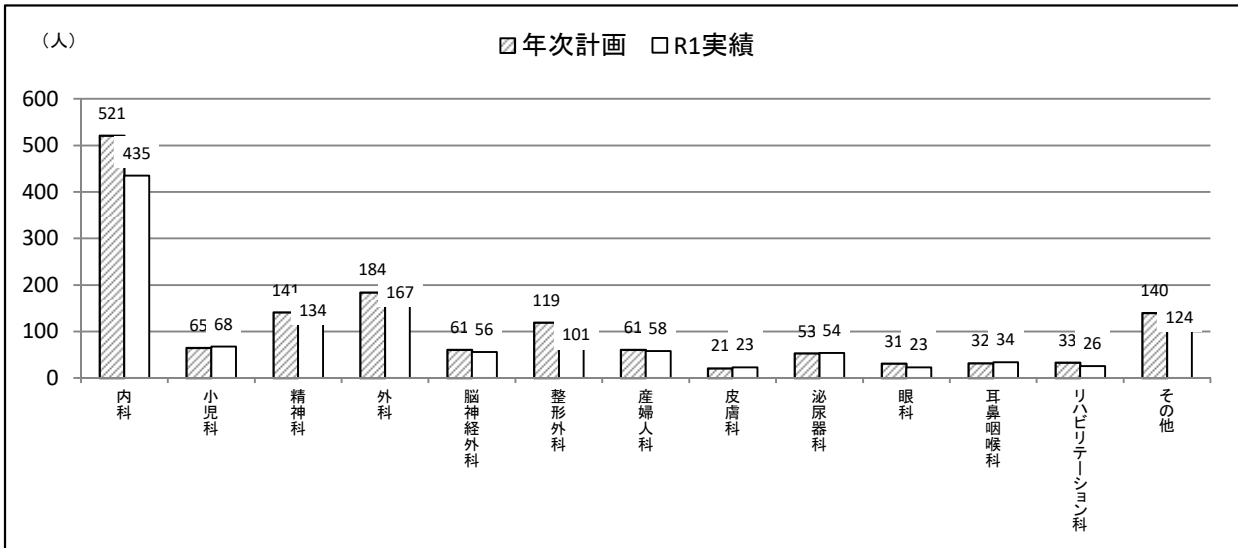
※人口減少率はH30とR1の減少率

〈参考〉年次計画医師数と実績の推移



#### 4 年次計画医師数・医師の現状値（二次医療圏別・診療科ごと）

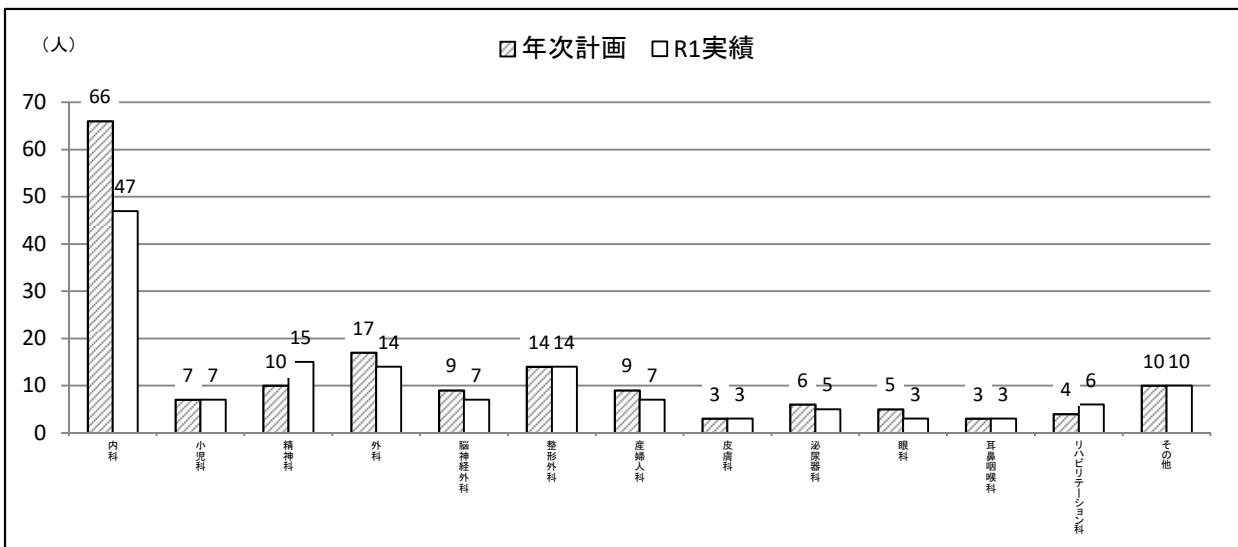
##### (1) 全県



診療科	内科	小児科	精神科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	その他
年次計画	521	65	141	184	61	119	61	21	53	31	32	33	140
R1実績	435	68	134	167	56	101	58	23	54	23	34	26	124
達成率	83.5%	104.6%	95.0%	90.8%	91.8%	84.9%	95.1%	109.5%	101.9%	74.2%	106.3%	78.8%	88.6%

- ・ 県全体で年次計画医師数に達している診療科は、小児科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科で、年次計画医師数達成率が最も高いのは皮膚科（109.5%）です。
- ・ 年次計画医師数に達していない診療科は、内科、精神科、外科、脳神経外科、整形外科、産婦人科、眼科、リハビリテーション科で、年次計画医師数達成率が最も低いのは眼科（74.2%）です。

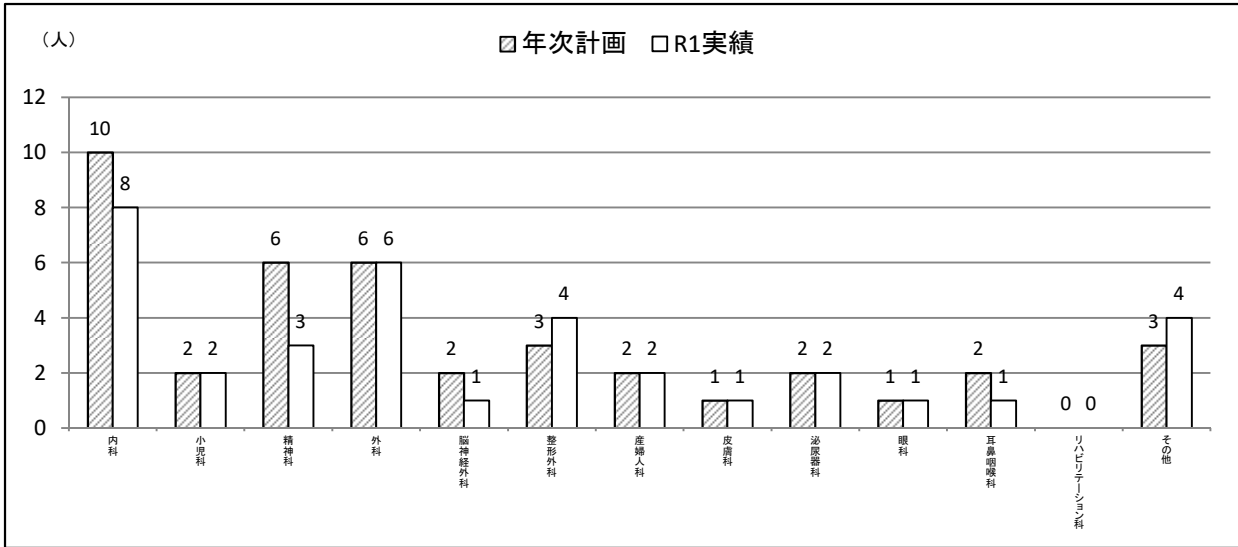
##### (2) 大館・鹿角



診療科	内科	小児科	精神科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	その他
年次計画	66	7	10	17	9	14	9	3	6	5	3	4	10
R1実績	47	7	15	14	7	14	7	3	5	3	3	6	10
達成率	71.2%	100.0%	150.0%	82.4%	77.8%	100.0%	77.8%	100.0%	83.3%	60.0%	100.0%	150.0%	100.0%

- ・ 大館・鹿角医療圏で年次計画医師数に達している診療科は、小児科、精神科、整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科で、年次計画医師数達成率が最も高いのは、精神科及びリハビリテーション科（150.0%）です。
- ・ 年次計画医師数に達していない診療科は、内科、外科、脳神経外科、産婦人科、泌尿器科、眼科で、年次計画医師数達成率が最も低いのは眼科（60.0%）です。

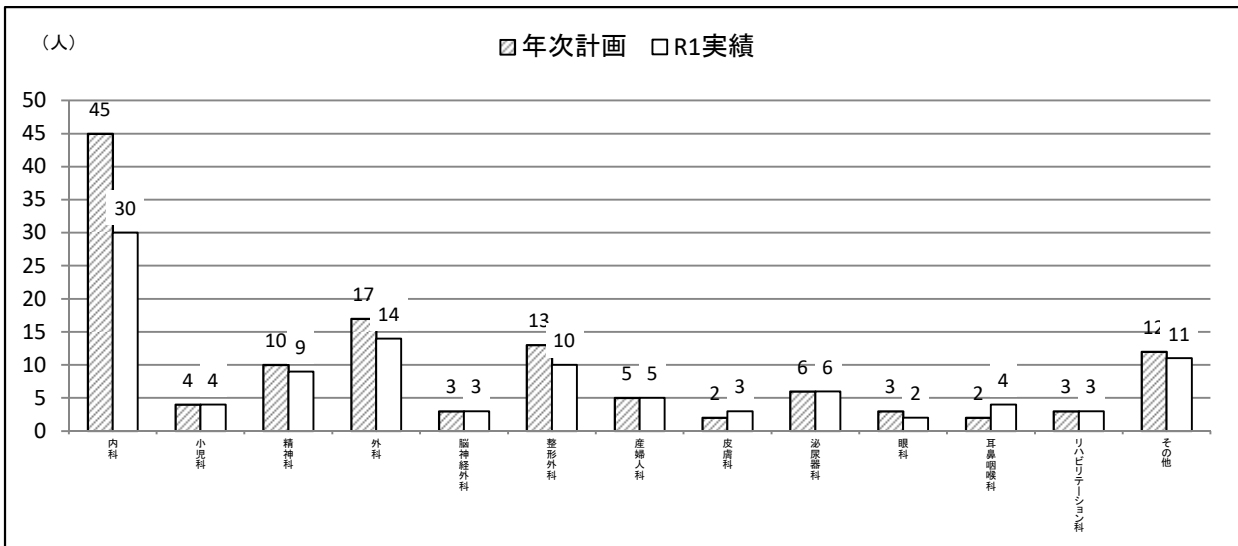
(3) 北秋田



診療科	内科	小児科	精神科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	その他
年次計画	10	2	6	6	2	3	2	1	2	1	2	0	3
R1実績	8	2	3	6	1	4	2	1	2	1	1	0	4
達成率	80.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	133.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	-	133.3%

- 北秋田医療圏で年次計画医師数に達している診療科は、小児科、外科、整形外科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科で、年次計画医師数達成率が最も高いのは、整形外科（133.3%）です。
- 年次計画医師数に達していない診療科は、内科、精神科、脳神経外科、耳鼻咽喉科で、年次計画医師数が最も低いのは、脳神経外科、耳鼻咽喉科（50.0%）です。

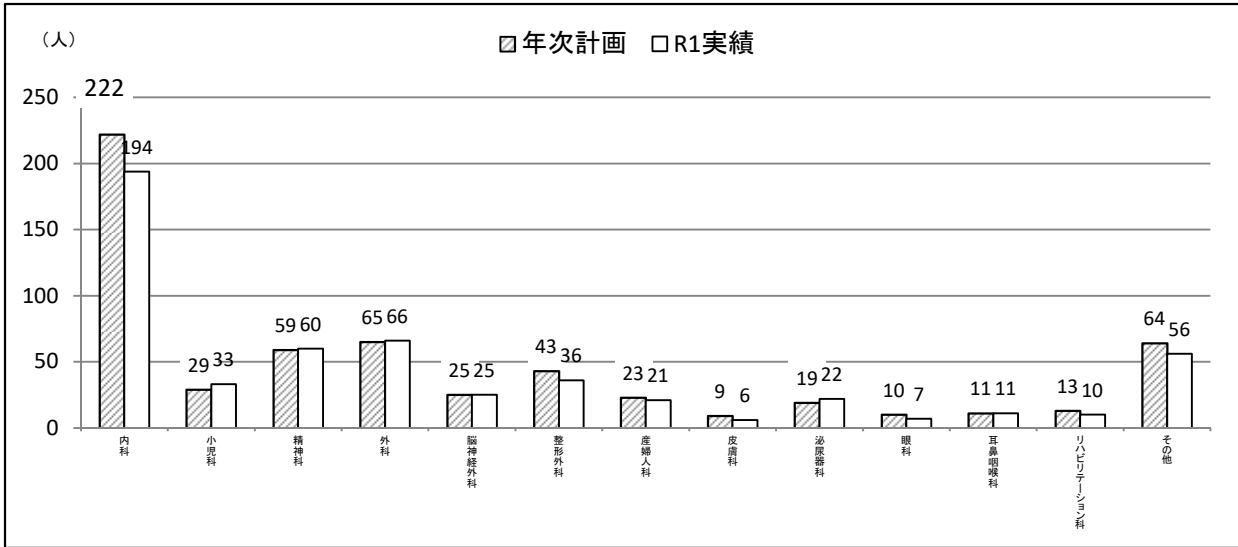
(4) 能代・山本



診療科	内科	小児科	精神科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	その他
年次計画	45	4	10	17	3	13	5	2	6	3	2	3	12
R1実績	30	4	9	14	3	10	5	3	6	2	4	3	11
達成率	66.7%	100.0%	90.0%	82.4%	100.0%	76.9%	100.0%	150.0%	100.0%	66.7%	200.0%	100.0%	91.7%

- 能代・山本医療圏で年次計画医師数に達している診療科は、小児科、脳神経外科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科で、年次計画医師数達成率が最も高いのは耳鼻咽喉科（200.0%）です。
- 年次計画医師数に達していない診療科は、内科、精神科、外科、整形外科、眼科で、年次計画医師数達成率が最も低いのは眼科（66.7%）です。

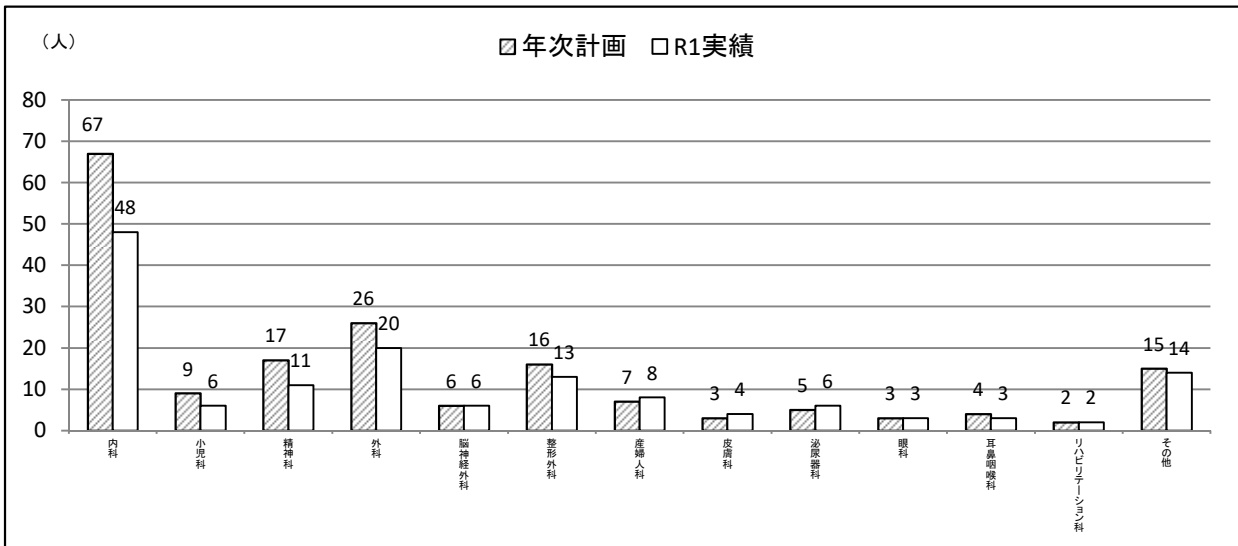
(5) 秋田周辺



診療科	内科	小児科	精神科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	その他
年次計画	222	29	59	65	25	43	23	9	19	10	11	13	64
R1実績	194	33	60	66	25	36	21	6	22	7	11	10	56
達成率	87.4%	113.8%	101.7%	101.5%	100.0%	83.7%	91.3%	66.7%	115.8%	70.0%	100.0%	76.9%	87.5%

- ・ 秋田周辺医療圏で年次計画医師数に達している診療科は、小児科、精神科、外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科で、年次計画医師数達成率が最も高いのは泌尿器科（115.8%）です。
- ・ 年次計画医師数に達していない診療科は、内科、整形外科、産婦人科、皮膚科、リハビリテーション科で、年次計画医師数達成率が最も低いのは皮膚科（66.7%）です。

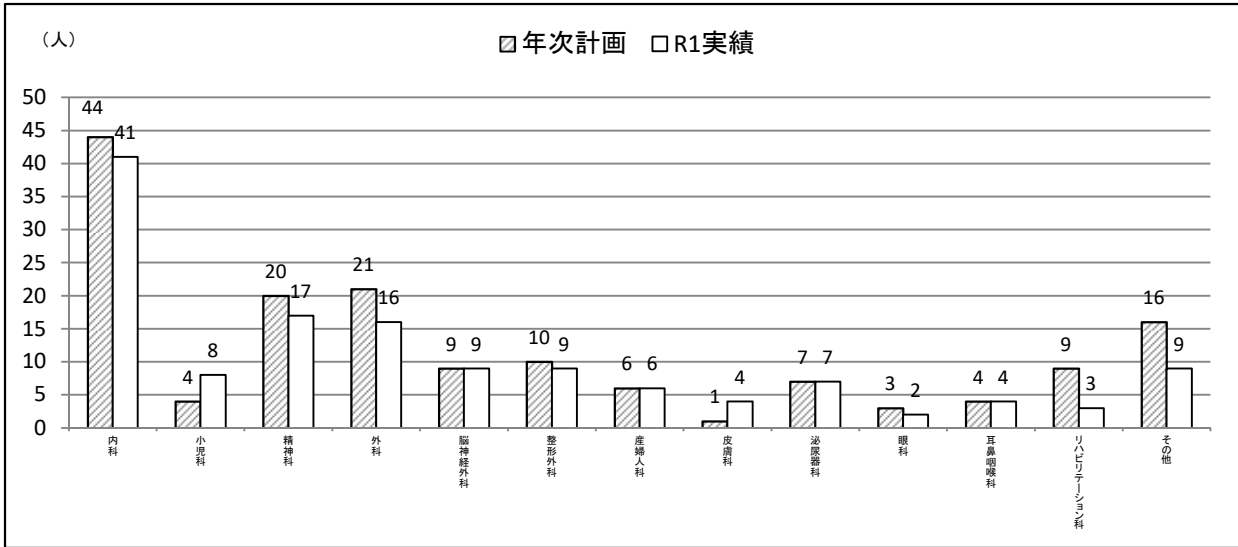
(6) 由利本荘・にかほ



診療科	内科	小児科	精神科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	その他
年次計画	67	9	17	26	6	16	7	3	5	3	4	2	15
R1実績	48	6	11	20	6	13	8	4	6	3	3	2	14
達成率	71.6%	66.7%	64.7%	76.9%	100.0%	81.3%	114.3%	133.3%	120.0%	100.0%	75.0%	100.0%	93.3%

- ・ 由利本荘・にかほ医療圏で年次計画医師数に達している診療科は、脳神経外科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、リハビリテーション科で、年次計画医師数達成率が最も高いのは皮膚科（133.3%）です。
- ・ 年次計画医師数に達していない診療科は、内科、小児科、精神科、外科、整形外科、耳鼻咽喉科で、年次計画医師数達成率が最も低いのは精神科（64.7%）です。

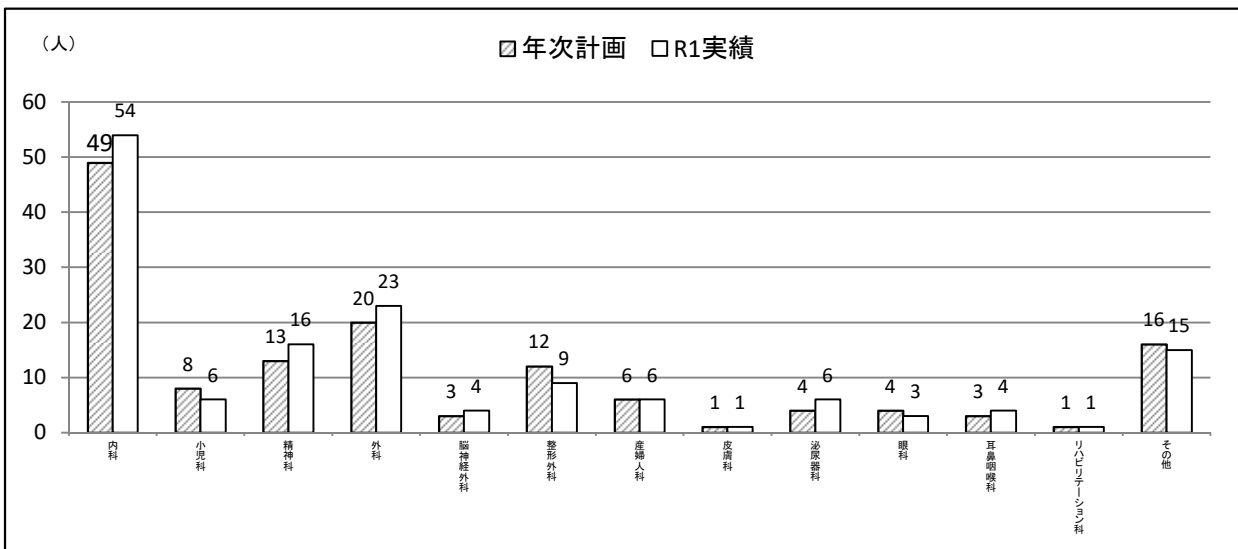
(7) 大仙・仙北



診療科	内科	小児科	精神科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	その他
年次計画	44	4	20	21	9	10	6	1	7	3	4	9	16
R1実績	41	8	17	16	9	9	6	4	7	2	4	3	9
達成率	93.2%	200.0%	85.0%	76.2%	100.0%	90.0%	100.0%	400.0%	100.0%	66.7%	100.0%	33.3%	56.3%

- 大仙・仙北医療圏で年次計画医師数に達している診療科は、小児科、脳神経外科、皮膚科、耳鼻咽喉科で、年次計画医師数達成率が最も高いのは皮膚科（400.0%）です。
- 年次計画医師数に達していない診療科は、内科、精神科、外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、リハビリテーション科で、年次計画医師数達成率が最も低いのはリハビリテーション科（33.3%）です。

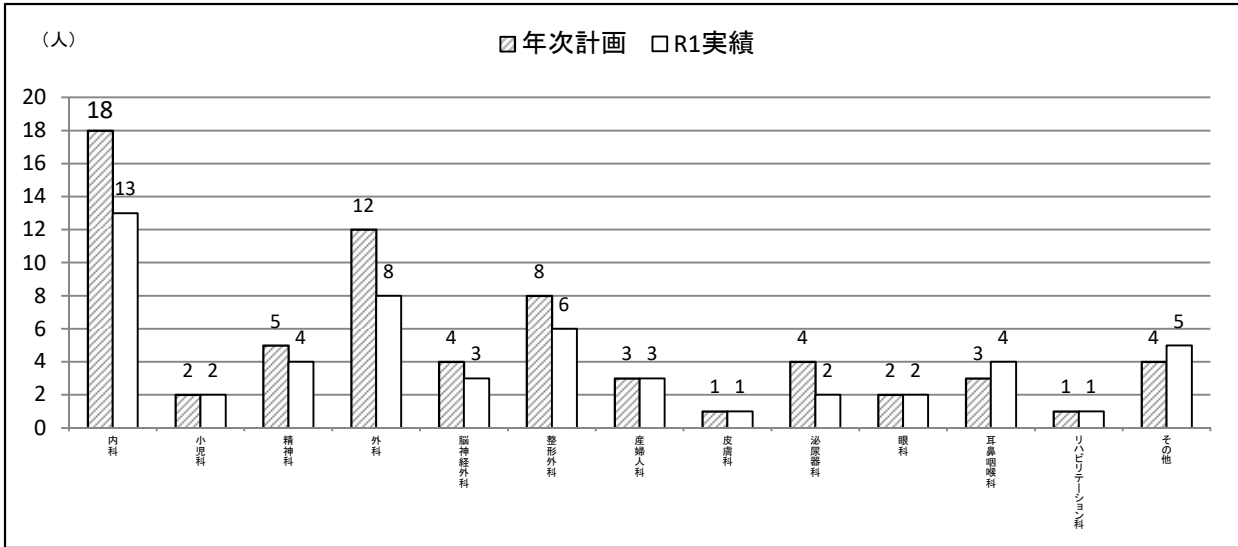
(8) 横手



診療科	内科	小児科	精神科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	その他
年次計画	49	8	13	20	3	12	6	1	4	4	3	1	16
R1実績	54	6	16	23	4	9	6	1	6	3	4	1	15
達成率	110.2%	75.0%	123.1%	115.0%	133.3%	75.0%	100.0%	100.0%	150.0%	75.0%	133.3%	100.0%	93.8%

- 横手医療圏で年次計画医師数に達している診療科は、内科、精神科、外科、脳神経外科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科で、年次計画医師数達成率が最も高いのは泌尿器科（150.0%）です。
- 年次計画医師数に達していない診療科は、小児科、整形外科、眼科で、年次計画医師数達成率はいずれの科も同じ（75.0%）です。

(9) 湯沢・雄勝

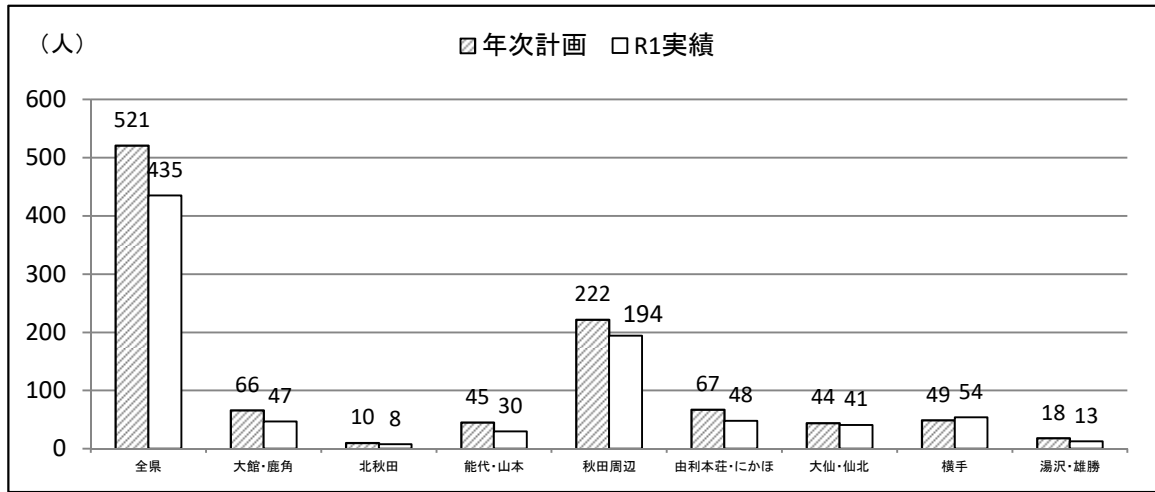


診療科	内科	小児科	精神科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	その他
年次計画	18	2	5	12	4	8	3	1	4	2	3	1	4
R1実績	13	2	4	8	3	6	3	1	2	2	4	1	5
達成率	72.2%	100.0%	80.0%	66.7%	75.0%	75.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	133.3%	100.0%	125.0%

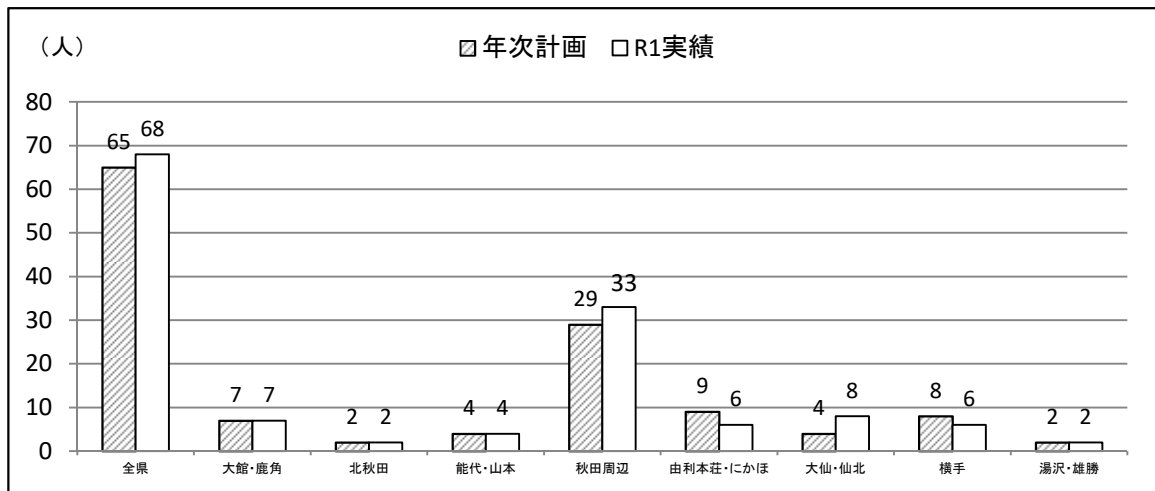
- ・湯沢・雄勝医療圏で年次計画医師数に達している診療科は、小児科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科で、年次計画医師数達成率が最も高いのは耳鼻咽喉科（133.3%）です。
- ・年次計画医師数に達していない診療科は、内科、精神科、外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科で、年次計画医師数達成率が最も低いのは泌尿器科（50.0%）です。

## 5 年次計画医師数・医師の現状値（診療科別・二次医療圏ごと）

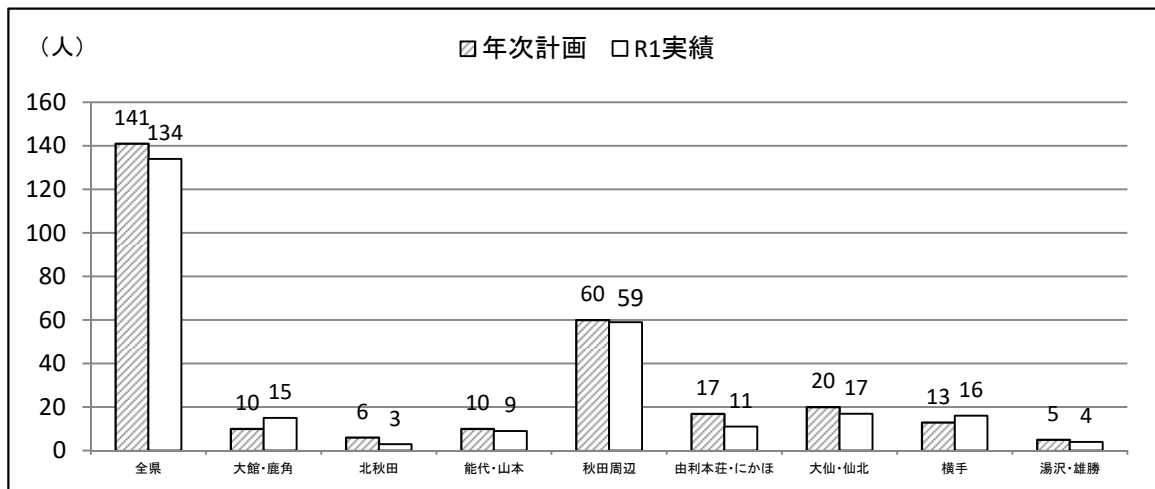
### (1) 内科



### (2) 小児科

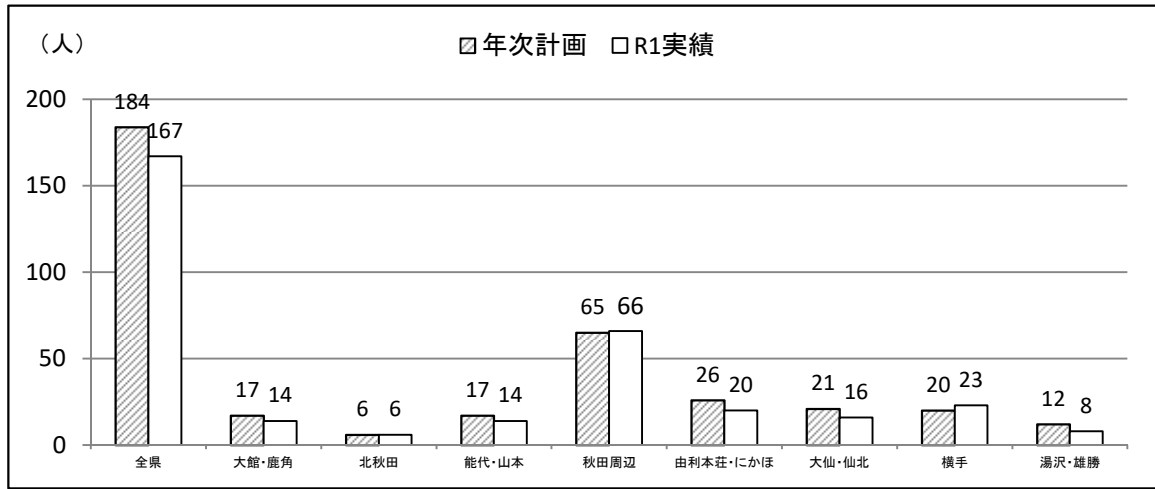


### (3) 精神科

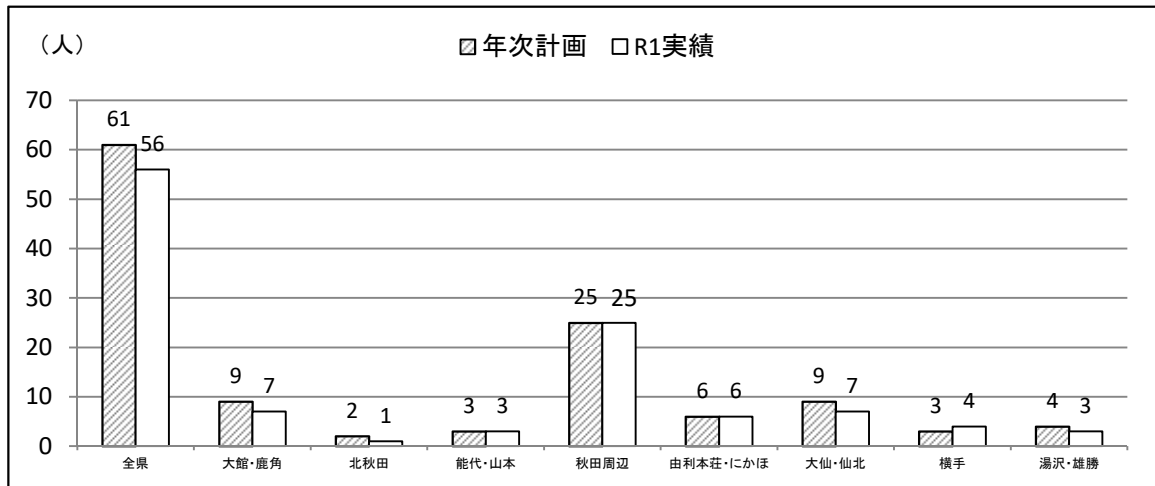




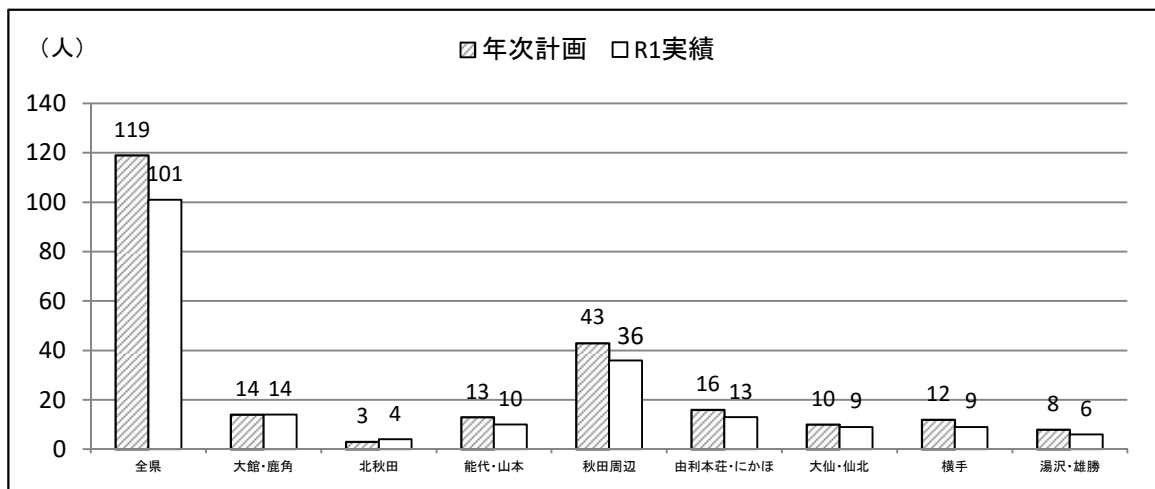
(4) 外科



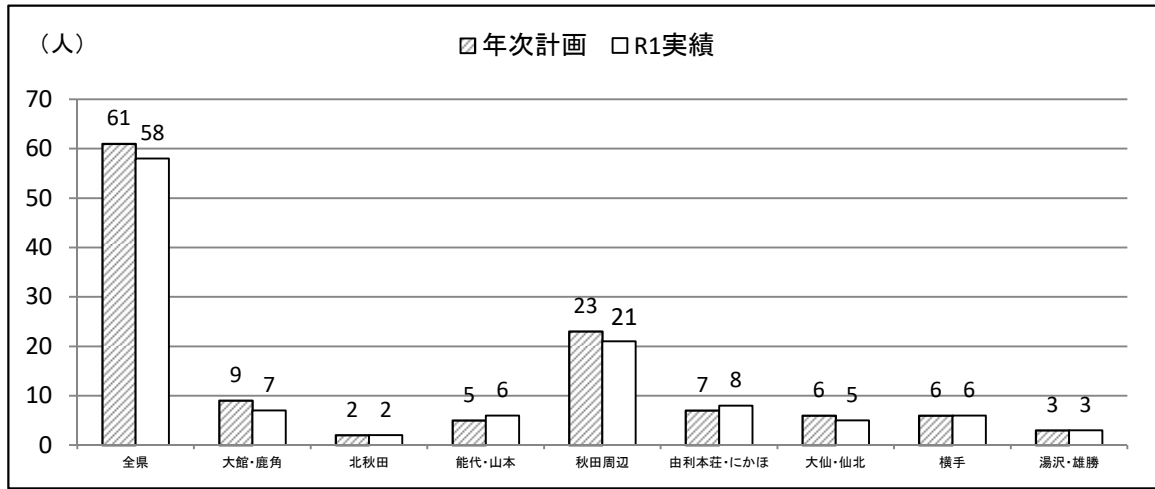
(5) 脳神経外科



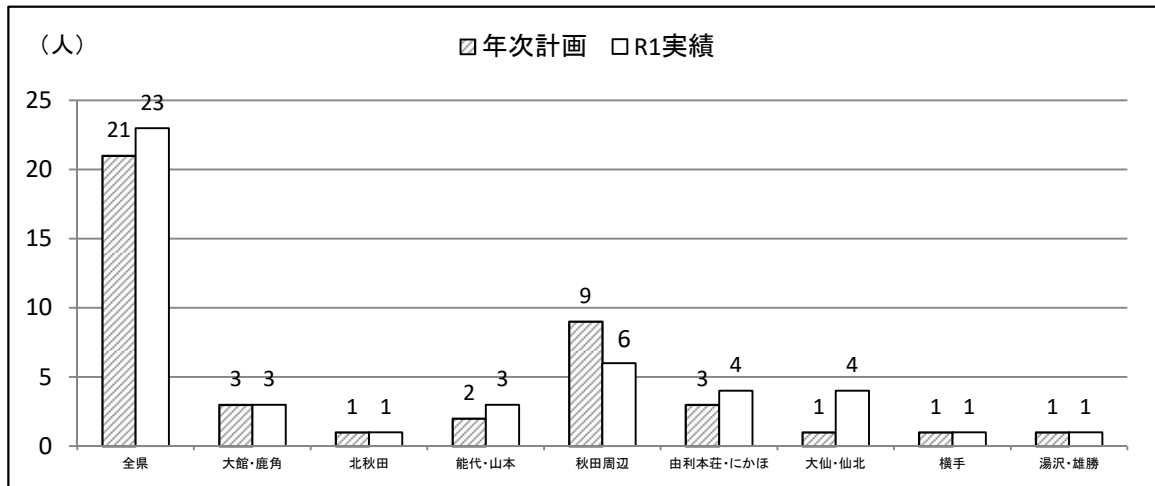
(6) 整形外科



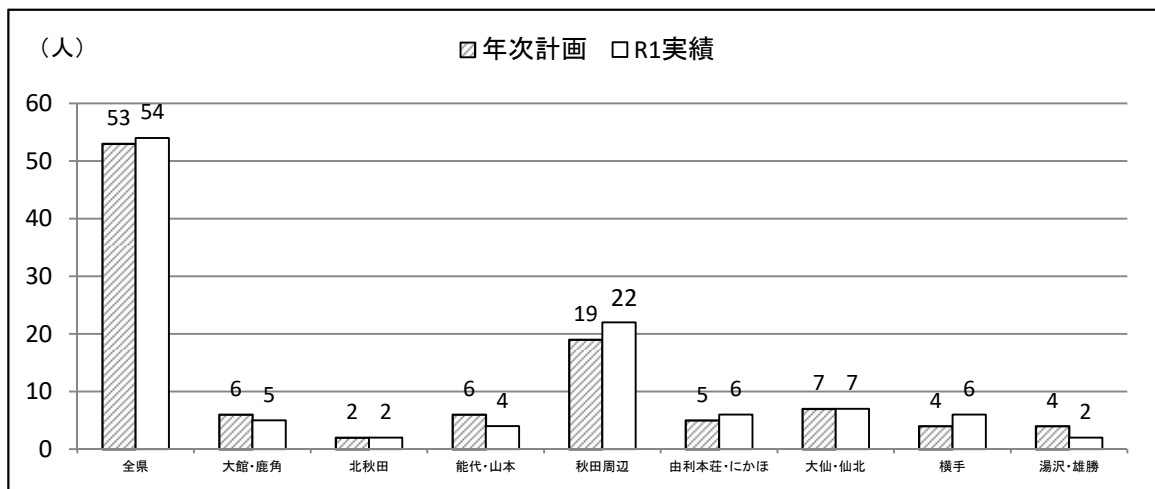
(7) 産婦人科



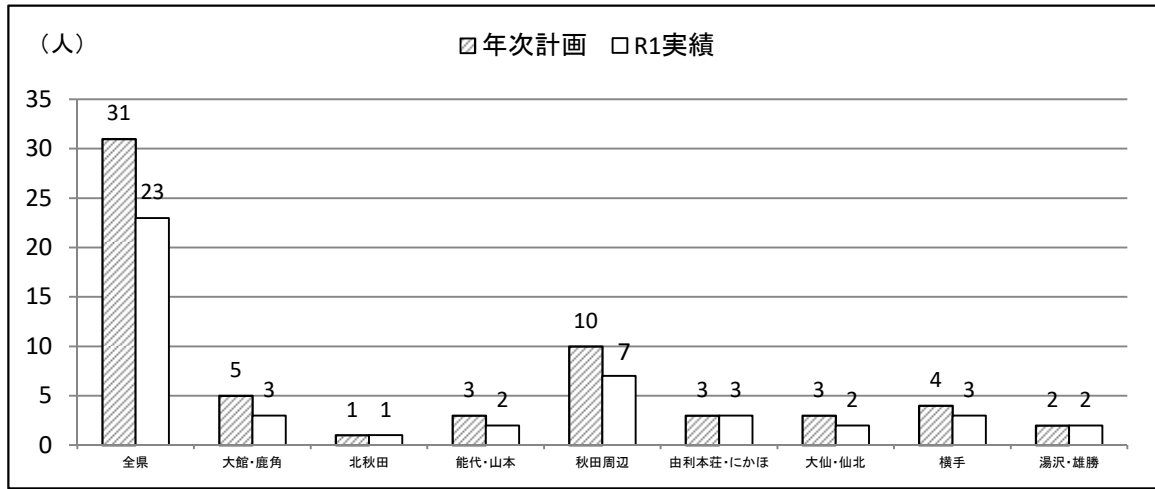
(8) 皮膚科



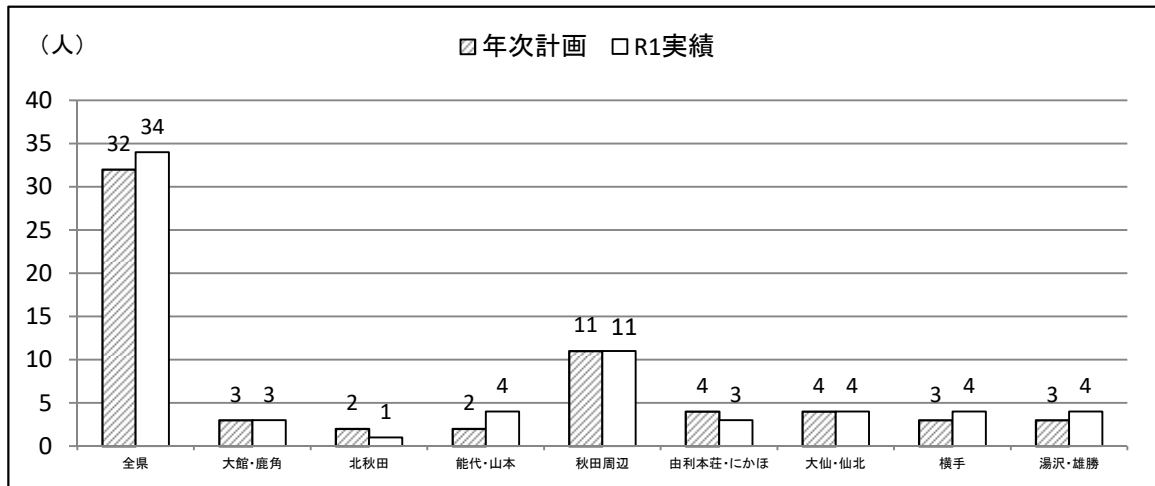
(9) 泌尿器科



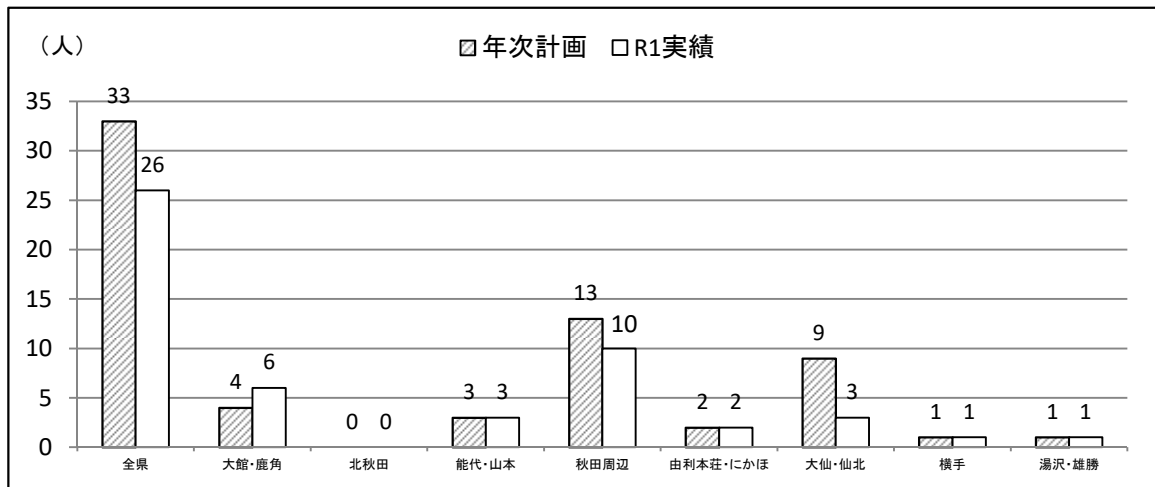
(10) 眼科



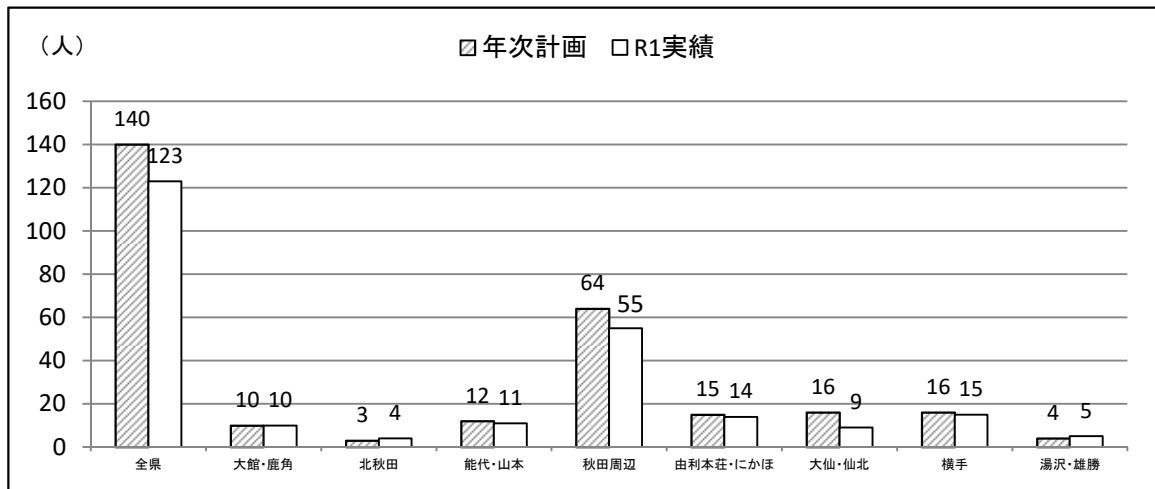
(11) 耳鼻咽喉科



(12) リハビリテーション科



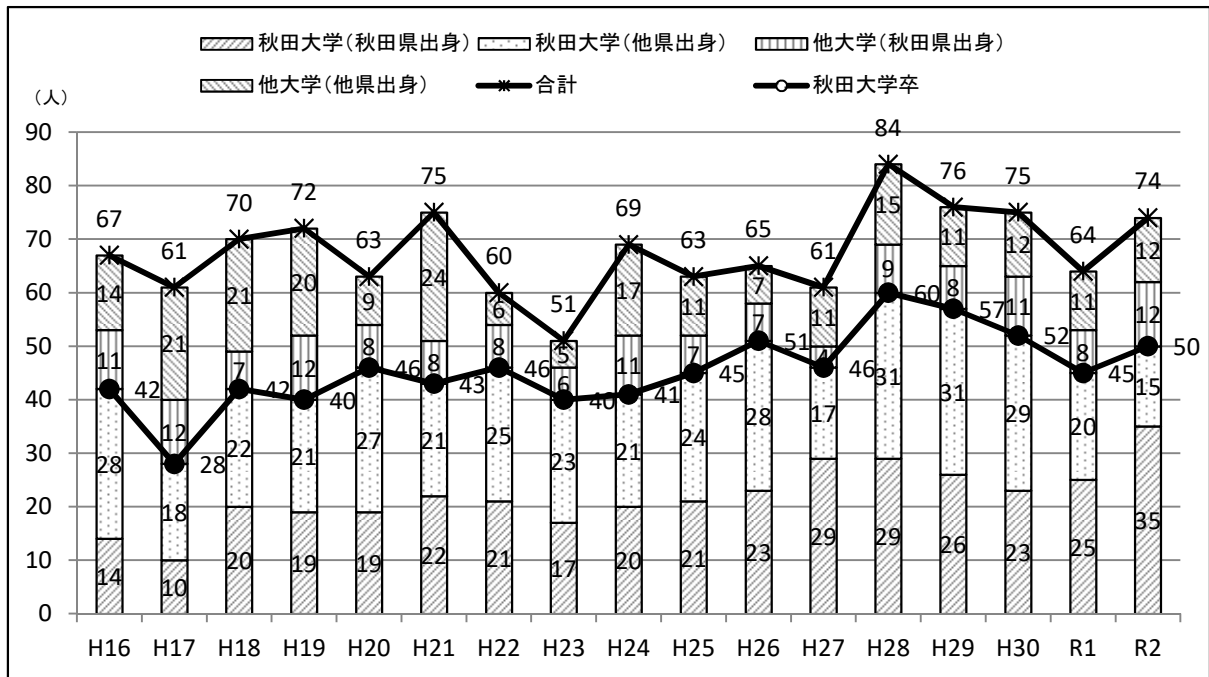
(13) その他



出典 「医師の充足状況調査」 (秋田県医療人材対策室)

## 6 秋田県における初期研修医（1年目）及び3年目の県内定着率の推移

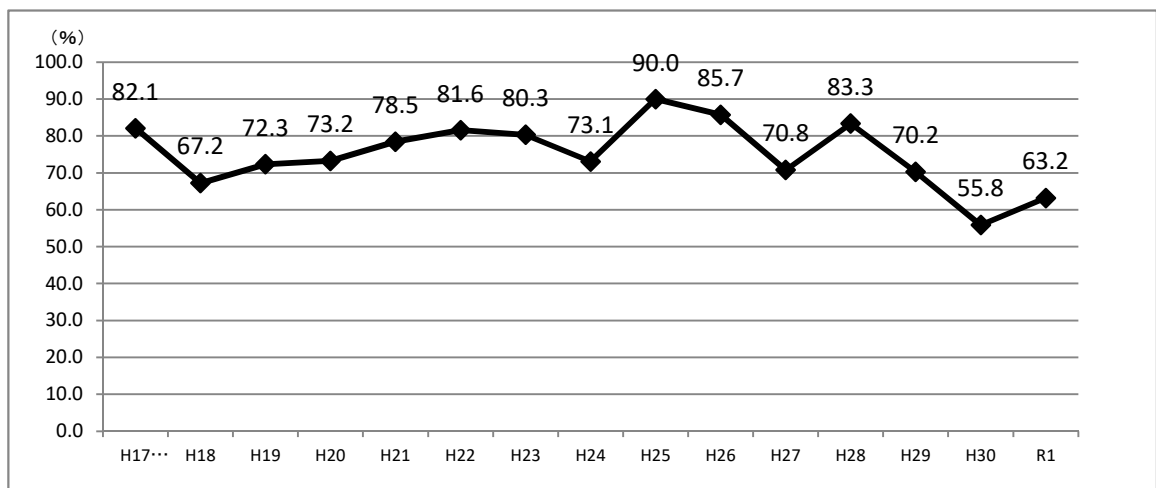
### (1) 初期研修医（1年目）の推移



出典 医療人材対策室による病院聴取調査  
(各年度4月1日時点)

- ・平成16年以降の初期研修医の平均は約67人で、最も多かったのは平成28年の84人、最も少なかったのは平成23年の51人です。
- ・令和2年は、秋田大学卒業生が前年に比較し5名増加するなどしたことから、令和元年度と比較して10名増加し、総数で過去5番目の74人となりました。

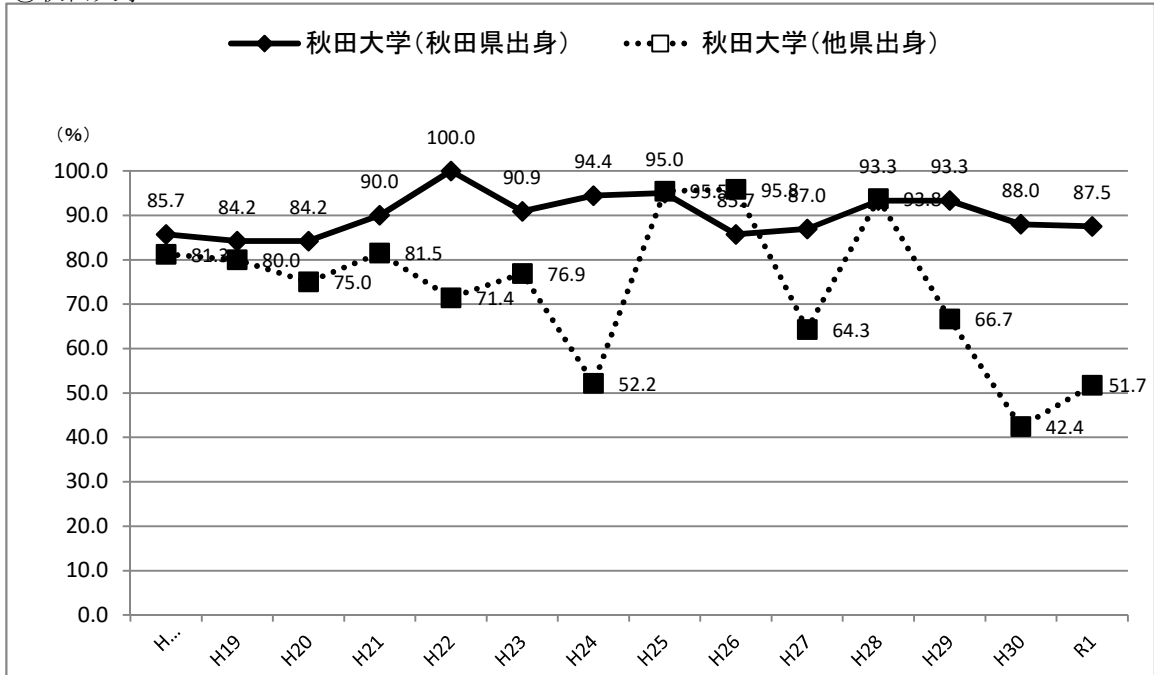
### (2) 初期研修医の3年目の県内定着率の推移



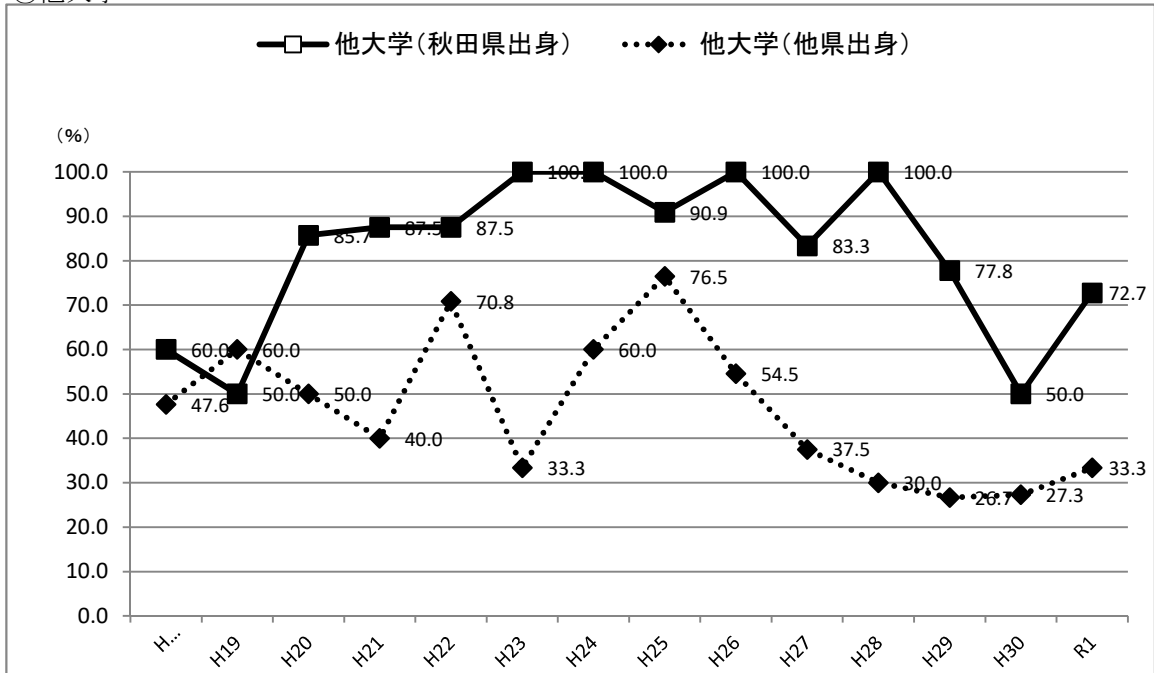
出典 医療人材対策室による病院聴取調査

- ・令和元年度に研修を修了した研修医の3年目の県内定着率は、新臨床研修制度が開始された平成16年度以降で2番目に低い63.2%となりました。平成30年度から新専門医制度が始まった影響により、それ以前と比べて明らかに定着率が低下しています。
- ・令和元年度末に県内病院で臨床研修を修了した医師76人のうち48人が、令和2年度も引き続き県内の医療機関に勤務しています。

出身大学（出身地別）の研修医の3年目の県内定着率  
①秋田大学



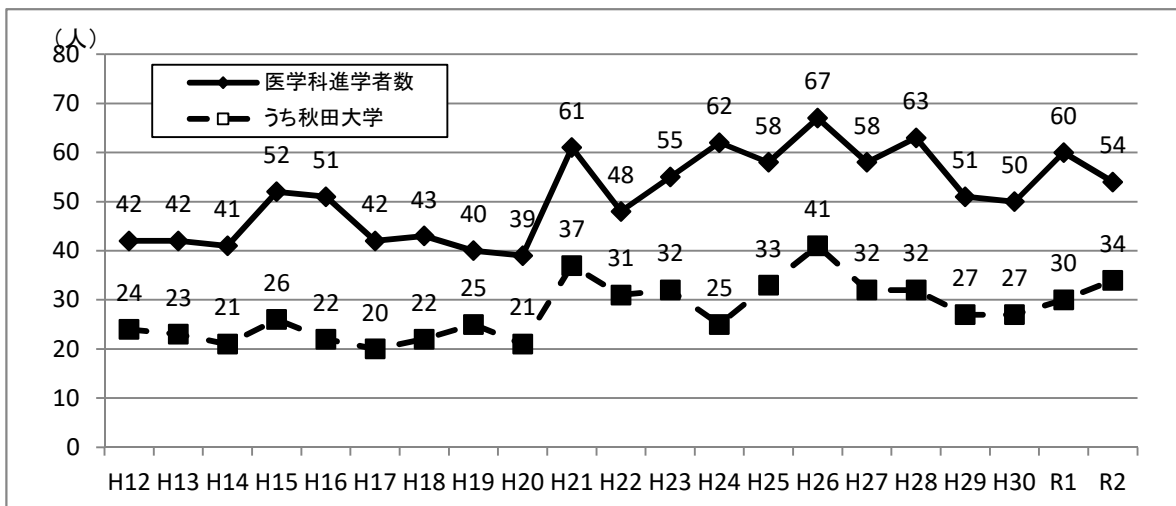
②他大学



出典 医療人材対策室による病院聴取調査

- 秋田大学卒業の秋田県出身者の3年目定着率は、平成21年度研修修了者以降平成25年度研修修了者まで90%前後で推移してきましたが、秋田大学卒業の県外出身者の3年目定着率は、以前も増減が見られるものの、平成30年度以降は50%前後まで減少しています。
- 県外大学卒業の秋田県出身者の3年目定着率は、72.7%となっています。
- 県外大学卒業の県外出身者の3年目定着率は33.3%となっています。

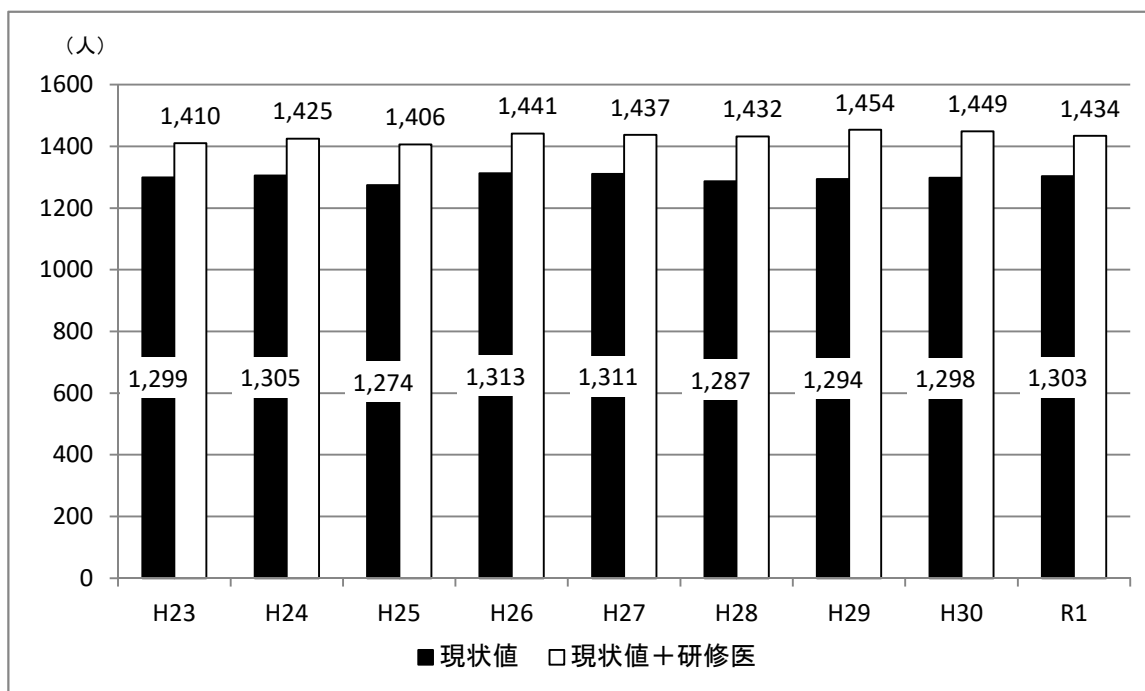
〈参考〉 医学部医学科への進学者数



出典：秋田県教育庁高校教育課からの聞き取り

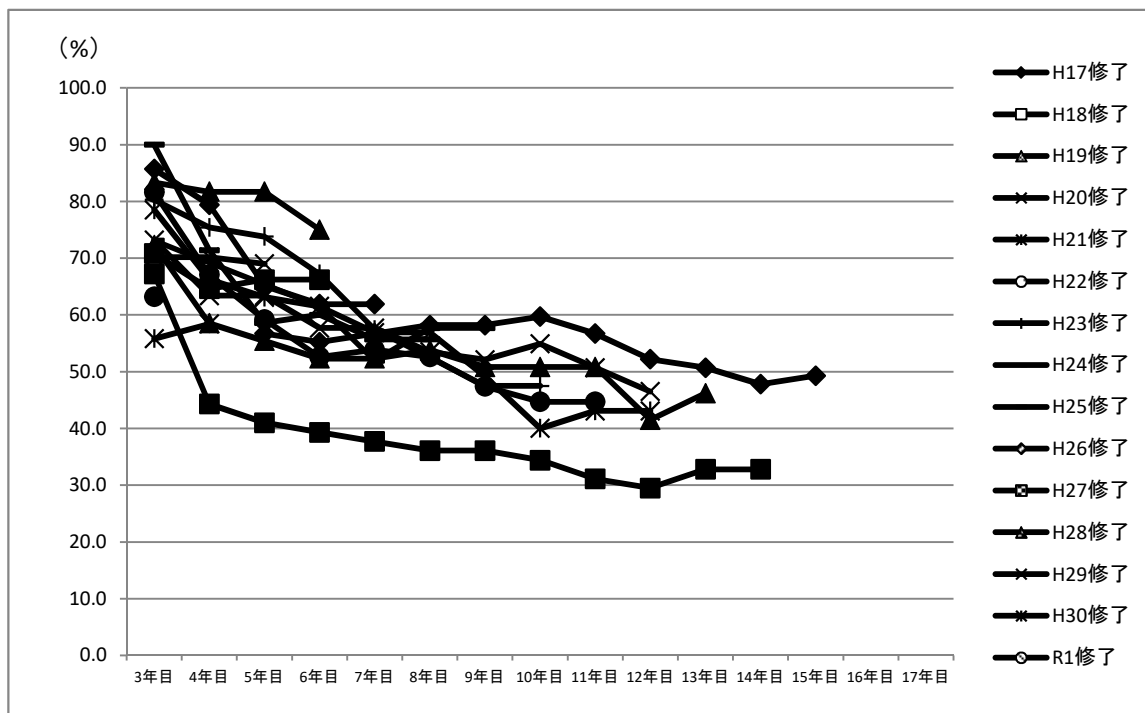
- ・ 令和2年4月の県内高校から医学部医学科への進学者は54人となり、前年度から6人減少しています。
- ・ そのうち、秋田大学への進学者は35人となり、前年度から4人増加しました。
- ・ 全国的な制度として地域枠制度が定着した平成21年度以降、それ以前と比べると、約10人以上医学部進学者が増加しています。

〈参考〉 研修医を含む医師数の推移



- ・ 初期臨床研修医を加えた医師数は、1,434人となりました。

〈参考〉 臨床研修修了後の県内定着率の推移



- 臨床研修修了後の県内定着率は、4～5年目までに5割台に低下し、以後、5割前後で推移しています。



## 7 重点推進方策のアクションプランの取組状況

### (1) 若手医師の地域循環型キャリア形成システムの構築

～システム構築支援から受入体制の整備に向けて～

ア 地域循環型キャリア形成システムをサポートするコーディネーターの配置や仕組みづくり  
【継続実施】

#### ● あきた医師総合支援センターの設置（平成25年4月1日）

大学と地域の病院等を循環しながら、医師としての研鑽を積むシステムの構築（地域循環型キャリア形成システム）など、若手医師等に対して支援することにより、医師不足や地域偏在の解消、そして医師の県内定着を図ることを目的に、平成25年4月に県と大学が共同して、あきた医師総合支援センターを設置しました。

センター長、副センター長と2名の専任医師等をスタッフとし、医師・医学生のスキルアップを目的としたセミナーの開催、医師のキャリア形成や医学生等の修学資金貸与に関する相談に応じるとともに、各種取組に関して様々な媒体を活用した情報発信などを進めています。

また、平成26年度からは、ハワイ大学やタイのマヒドール大学との遠隔医療教育ネットワークを接続し、グローバルに活躍できる医師の養成や、医療教育の双方向の提供を行うなど、新たな取組も行われています。

【キャリアパスのイメージ図（貸与を受けた期間が6年の場合）】



### イ 医学生・大学院生・研修医への修学資金の貸与

- ・ 県（地域枠、元気枠、市町村振興枠）や市町村、各病院等の修学資金貸与【継続実施】
- ・ 貸与医学生等のキャリアアップを図るための貸与制度の充実【実施済】

#### ● 県修学資金貸与の状況（令和元年度実績）

区分	貸与月額	新規	継続	計
医学生（秋大地域枠）	100・150千円	24人	117人	141人
県内		18人	95人	113人
全国		6人	22人	28人
医学生（元気枠）	200千円	0人	9人	9人
医学生（市町村枠）	150千円	4人	25人	29人
大学院生	300千円	0人	1人	1人
研修医	200千円	0人	0人	0人
計		28人	152人	180人

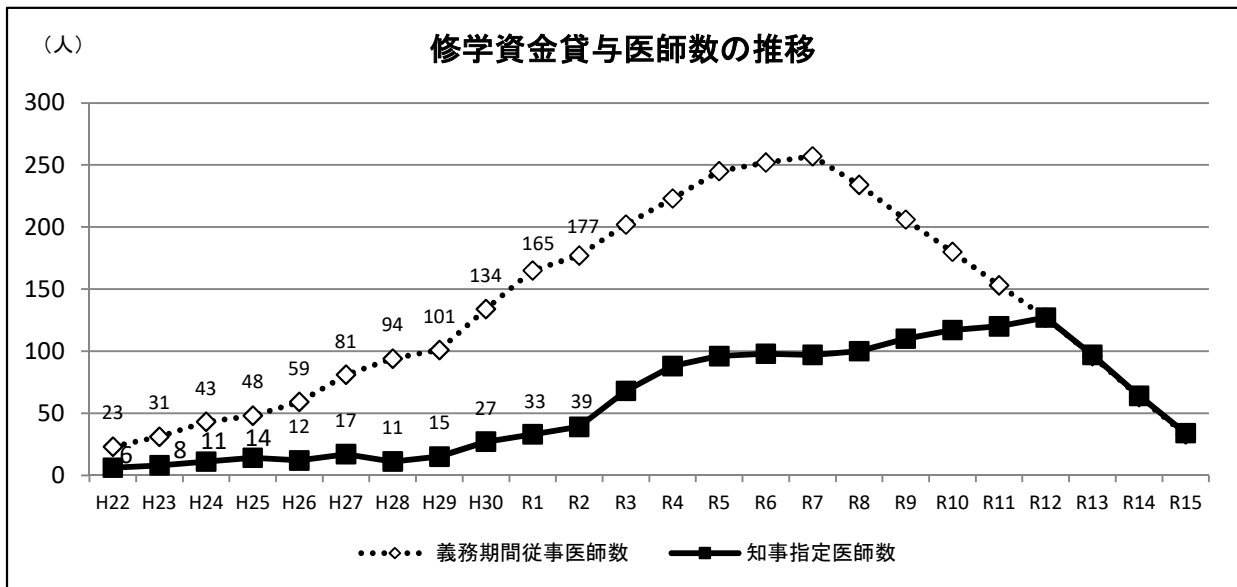
令和2年4月現在で、県の修学資金の貸与を受け、義務期間として県内の医療機関で勤務する医師は173名（うち初期研修医51名）となっています。

また、市町村では、大館市、男鹿市、鹿角市、由利本荘市、仙北市、東成瀬村の6市村で医学生又は医師への修学資金貸与制度を設けています。

#### ● 修学資金貸与制度の充実

平成25年度から、修学資金の貸与を受けた若手医師のキャリア形成を支援するため、義務期間内に通算して2年を上限に、県外の医療機関等での専門研修を可能にしました。

また、令和2年度からは、元気枠を廃止するとともに、秋田大学医学部の地域枠を5名増員することで、地域枠入学定員が29名に拡充されました。



※令和3年以降は推計値

ウ 総合医・不足診療科医師の養成

- ・ 秋田県総合診療・家庭医養成プログラムの推進【継続実施】
- ・ 秋田大学初期臨床研修プログラム増設による養成（総合内科、小児科・産科、麻酔科コースなど）【継続実施】
- ・ 秋田大学講座の改組【新規】

● 秋田県総合診療・家庭医養成プログラムの追加

県と厚生連は共同して、複数の疾患を横断的に診断・治療することができる総合的な診断能力を有し、各科専門医と連携できる病院総合医や家庭医を養成する総合診療・家庭医養成プログラムを実施しています。

平成26年度からは、プログラムに「Ver. 2」を追加したほか、平成30年度からは新専門医制度に対応したプログラムを追加しました。

● 総合診療・検査診断学講座の開設と新プログラムの開始

大学では、平成25年7月に、学内の基礎・臨床講座や、プライマリ・ケア・総合診療を研修できる学外の医療機関と連携し、総合診療専門医と臨床検査専門医の育成を目指す「総合診療・検査診断学講座」を設置しました。

同講座では、日本プライマリ・ケア連合学会から認定を受け、平成27年4月から「秋田大学アカデミック家庭医療・総合診療医育成プログラム」を開始しました。

また、秋田大学医学部附属病院の初期臨床研修プログラムが改訂され、平成27年度からは、「自由選択プログラム」、「小児科・産科重点プログラム」のほか、新たに総合診療医を目指す医師向けに「総合診療スーパーローテプログラム」がスタートしました（「小児科・産科重点プログラム」、「総合診療スーパーローテプログラム」は、平成31年度募集停止）。

● 中通総合診療・家庭医養成プログラム

中通総合病院では、日本プライマリ・ケア連合学会から認定を受け、平成27年4月から「中通総合診療・家庭医養成プログラム」を開始しました。

● 新専門医制度への対応

平成30年度に開始された新専門医制度の総合診療領域では、県内4病院（秋田大学医学部附属病院、秋田厚生医療センター、中通総合病院、市立大森病院）のプログラムが認定され、令和2年度時点で、3人が県内のプログラムに登録（R1 2名 R2 1名）し、研修しています。

● 秋田大学講座の改組

大学では、内科の研究指導體制の充実強化並びに県内内科診療体制の確保を図るため、循環器内科・呼吸器内科学講座を改組し、循環器内科学講座及び呼吸器内科学講座を独立させました。

エ 地域医療に熱意を持つ医師を育成するための医学教育の推進 【継続実施】

● 総合地域医療推進学講座の設置

県は、地域医療に必要な総合的な臨床能力を持った医師の育成教育と地域医療教育に関する研究を更に進めるため、秋田大学に「総合地域医療推進学講座」（平成25～30年度）を設置しました。

令和元年度以降は、同講座の事業のうち高校訪問等の事業を、あきた医師総合支援センターが引き継いでいます。令和元年度は、県内の4高校を訪問し、医師を目指す高校生に対して、医師という職業の使命やその魅力を説明するとともに、秋田大学医学部の先駆的な取組について、紹介しました。



オ 若手医師の派遣先である地域の病院における指導体制や受入体制の強化

- 指導医の派遣、派遣先病院の受入体制の強化と支援 【継続実施】

● 臨床研修病院への支援等

県は、臨床研修病院や医師の派遣先病院の受入体制を支援するため、指導医の負担軽減を図るための医療秘書の配置経費や医学生の病院見学経費の一部等を支援しています。（令和元年度決算額 47,691千円）

また、医師不足が特に深刻な地域の公的医療機関等に診療応援の医師を派遣し、その派遣医師が研修医等の指導を行うシステムを構築する「循環型医療教育システム学講座」（平成26～30年度）を秋田大学に設置しました。本講座は、令和元年度以降、「若手医師・女性医師支援学講座」として、若手医師・女性医師への支援体制づくりを重点的に行う講座となり、令和元年度は、10病院1診療所に延べ717回の診療応援（又は若手指導）を行いました。（令和元年度決算額 65,000千円）

● 指導医・看護職員・事務職員等の講習会の開催

県と医師会は、大学や医療機関と連携しながら、指導医やプログラム責任者が、質の高い研修プログラムを立案し、研修医を育成する能力を向上させるための講習会を開催するとともに、当該講習会に、研修医をサポートする立場にある医療スタッフ（看護職員・研修医を担当する事務職員）の参加を得て、研修医を取り巻く指導環境の更なる向上を図っています。

また、平成27年度から、臨床研修担当者ミーティングを開催し、臨床研修環境の充実に向けた意見交換を実施しています。



指導医講習会



臨床研修担当者ミーティング

カ 地域の病院勤務に係るインセンティブの創設・拡充と支援

- 給与、勤務手当等の現状把握とその拡充・住環境の整備 【継続実施】

● 地域勤務手当・分娩手当等の支給

県は、医療機関と連携して、医師不足地域の医療機関（かづの厚生病院、東成瀬村国民健康保険診療所等）で診療応援を行う非常勤医師に対して地域勤務手当を支給し（平成28年度に廃止）、地域医療の確保を図るほか、国や市町村、医療機関と連携して、分娩手当を支給し、不足する産科医の処遇の改善を図っています。（令和元年度決算額 分娩手当17,155千円）

- キ 医師とその家族をサポートし、感謝する運動や仕組みづくり
  - ・ 医師や医療スタッフへの感謝のメッセージ募集【継続実施】
  - ・ 住民と行政による医師とその家族への声かけ運動【継続実施】

● 住民啓発と住民運動

県は、「夜間救急マナー」や「かかりつけ医の重要性」をテーマとした適正受診に関するテレビCM（平成25年9～10月）やリーフレット10,000部を県内の園児と保護者に配付し、医師の負担軽減に資する住民意識の醸成を図るとともに、医師や医療スタッフへの感謝を伝える受診者やその家族で構成される「おらほの産科小児科を守る会」（能代市）の活動を紹介しています。

同会では、フェイスブック等を活用し、産科や小児科医に感謝の気持ちを表すとともに、小児の休日・夜間診療等に係る医療機関や、妊婦や出産後の母親の勉強会に関する情報等も発信しています。

また、「鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会」（鹿角市）でも、「お医者さんありがとう手紙」を募集し、同会ホームページ等で紹介するとともに、県内外の道の駅などの施設に「医師を求めるパンフレット」を配置し、行政や病院と連携しながら、医師の募集活動や住民理解の促進を進めています。

平成29年には、「鹿角の産婦人科を守る会」が結成され、かづの厚生病院への産科医師派遣を求める嘆願書を秋田大学に提出したほか、医師の負担軽減に向けて「医療を支える」という考え方を地域に浸透させるための行動を起こしています。

(2) 県外からの研修医の確保と初期臨床研修制度の改善

～初期研修医から後期研修医までの確保・定着に向けて～

ア 病院合同説明会の開催・拡充

- ・ 民間事業者主催の合同説明会（東京・大阪・福岡）【継続実施】
- ・ 北東北三県の連携による合同説明会（青森・岩手）【継続実施】

● 病院合同説明会の開催状況（令和元年度）

説明会	会場	開催時期	参加病院数	秋田ブース来場者	
eレジフェア	東京	5月	4	119	(109)
青森県合同説明会	弘前	6月	2	13	(13)
レジナビ大阪	大阪	7月	4	113	(44)
レジナビ東京	東京	6月	8	231	(195)
岩手県合同説明会	盛岡	5月	4	38	(31)
レジナビ仙台	仙台	10月	10	207	(110)

※1 人数は延べ人数。ただし、秋田ブース来場者欄の（ ）内は、実人数。

※2 青森県合同説明会の秋田ブース来場者は、秋田県ブースのみ（大館市立総合病院は別枠参加）

令和元年度中に病院見学を訪れた県外大学医学部生48名中20名は、病院合同説明会で秋田県ブースを訪問した医学生でした。

令和2年度から臨床研修を開始した県外大学（自治医大及び弘前大学を除く）出身医師14名中9名は、病院合同説明会で秋田県ブースを訪問したことがある方でした。

イ 医療人材斡旋事業者と連携した県外医学生集団面談会の拡充

- ・ 首都圏医学生との後期・初期研修医の面談会等【実施済】

● 首都圏医学生との面談会

県と臨床研修病院は連携して、医療人材斡旋事業者の医学生ネットワークを活用し、平成23年度から平成29年度まで首都圏医学生と県内の後期・初期研修医との集団面談会「医学Wills秋田」を開催し、秋田の初期研修の魅力や、秋田の病院の指導体制、秋田の研修医の暮らしなどを説明しました。

参加した医学生のうち県外医学生が、秋田で開催された「医学生のための実践セミナー」に参加し、秋田大学医学部の指導医や医学生と交流しました。

医学Wills秋田参加状況

	学生	研修医	計
H23	17	5	22
H24	16	6	22
H25	17	6	23
H26	13	6	19
H27	17	6	23
H28	19	6	25
H29	14	5	19
延べ計	113	40	153

ウ 新たな手法による県外医学生説明会（初期研修医向け）の開催と支援

- ・ 県外大学卒研修医のネットワークを活用した医学生進路相談会【継続実施】
- ・ 県人会、県外からの非常勤応援医師、県内勤務医・開業医、大学サークル等の多様なネットワークを活用した病院説明会【継続実施】

● 医学生グループ進路相談会

県と臨床研修病院は連携して、県内の研修医の卒業大学の後輩等に対し、大学（各学年）、サークル・部活、県人会のメーリングリストを活用し、参加を呼びかけ、指導医・研修医・事務職員による「医学生グループ進路相談会」を開催し、秋田の初期研修の魅力やプログラム内容、指導体制、秋田の暮らしなどを説明しました。

令和元年度は、熊本市、福岡市、新宿区、港区及び神戸市で開催し、計16名の医学生が参加しました。

これまでの参加者のうち、マッチングにより、10名が秋田県で初期臨床研修を行っています。



エ 県外からの後期研修医のスカウト活動の強化

- ・ 秋田大学卒の県外初期研修医や本県出身で県外大学卒の県外初期研修医を対象とした個別訪問と病院説明会【継続実施】

● 後期研修医のスカウト活動

県では、首都圏に在住する秋田大学卒医師等を個別訪問し、秋田へのUターンを勧誘するとともに、その聴取調査や各種名簿等を活用し、秋田に縁のある医師等のデータベースを作成するなどのスカウト活動を進めています。

また、大学と医療機関が連携し、民間事業者が主催する後期研修医募集のための病院合同説明会に参加し、秋田の後期研修の魅力やその内容を説明しました。

オ 県内の初期研修医の定着（後期研修）に向けたセミナー等の開催

- ・ 初期研修医（2年目）を対象とした研修医スキルアップセミナー【実施済】
- ・ 初期研修医（2年目）を対象とした後期研修合同説明会【継続実施】

● 専門研修スキルアップセミナー&パワーアップミーティングの開催

平成25年度・26年度に、県と大学（あきた医師総合支援センター）と医療機関は連携し、医学生及び初期研修医（2年目）を対象とした初期・後期研修合同説明会とスキルアップセミナーを開催しました。

平成26年度のスキルアップセミナーでは、シミュレーション教育センターを会場に、専門医・指導医が延べ16セミナーを開講し、専門研修についての理解を深めました。また、パワーアップミーティングでは、大学の各診療科や県内の研修病院が32ブースを設置し、研修プログラムの説明等を行いました。

● レジデントスキルアップキャンプによる専門研修に係る情報提供

初期研修医を対象に開催されるレジデントスキルアップキャンプにおいて、新専門医制度に関する最新の情報を提供しました。（平成30年度以降）

● 専門研修プログラム説明会等の開催

初期研修医を対象に新専門研修プログラム説明会を開催し、県内の専門研修プログラム内容を説明しました。

【専門研修プログラム専攻医採用・登録状況】

研修開始	内科	小児科	皮膚科	精神科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	脳神経外科	放射線科
H30	16	5	4	3	10	3	3	2	1	5	3	2
R1	16	4	0	2	8	4	1	2	0	1	2	0
R2	12	1	2	7	5	4	3	2	4	4	1	3

研修開始	麻酔科	病理	臨床検査	救急科	形成外科	リハ科	総合診療	計
H30	3	0	0	0	0	0	0	60
R1	3	4	0	0	0	0	2	49
R2	3	2	0	1	0	0	1	55

● レジデントフォーラムの開催

あきた医師総合支援センターは、医師会、医療機関と連携し、初期研修医・医学生を対象とした講習会「レジデントフォーラム in AKITA」を開催しました。（平成27年度参加者 74名）

カ 研修病院のPR手法や他県の先進事例をテーマとした研修医確保のための講演会・研修会の開催  
【継続実施】

● 東北厚生局による臨床研修制度の見直しについての説明会

臨床研修制度が一部改正され、平成27年度の初期臨床研修から適用となることを受け、秋田県臨床研修協議会では、平成26年度に東北厚生局の職員を講師として、改正の概要等についての説明会を実施しました。平成30年度にも同様の説明会を開催しました。

説明の内容は、研修プログラムにおける基幹型臨床研修病院群のあり方や、募集定員の設定方法の見直しなどです。

● 新専門医制度説明会等の開催

秋田大学では、平成27年度に18の診療科が一堂に会し、県内病院向けに新専門医制度に関する説明会を開催しました。

また、自治医科大学卒業医師のキャリア形成を支援するため、県内自治体病院長が総合診療専門医に関する勉強会を開催しました。

平成28年度は、新専門医制度の導入に当たり、地域医療体制を維持するため、厚生労働大臣及び日本専門医機構に対し、適切な制度構築を求める意見書を提出しました。

平成29年度は、新専門医制度の開始に向けて、県内専門研修プログラム内容を確認し、必要な改善を求める意見書を厚生労働省及び日本専門医機構に提出しました。

平成30年度は、募集定員の調整に関する意見書を厚生労働省へ提出しました。

令和元年度は、募集定員のシーリング等に関する意見書を厚生労働省へ提出しました。

キ 病院合同説明会後の来訪医学生等へのアプローチの強化【継続実施】

- ・説明会に来訪した医学生等を対象とした特別合同説明会
- ・説明会に来訪した医学生等への個別訪問、個別病院説明会への開催と支援
- ・情報発信の強化（ホームページ、YouTube（PR動画マップ）、フェイスブック、メールマガジンの配信等）
- ・医学生等の病院見学に要する病院経費の支援

● 情報発信の強化・病院見学への支援

県と医療機関、あきた医師総合支援センターでは、ホームページ（あきたの医療情報「みてたんせ」）やPR動画、メールマガジンによる配信、フェイスブック（あきた医師総合支援センター）、などを活用し県内の臨床研修病院の特徴や病院見学の疑似体験、指導体制や医師への支援策に関する情報発信を強化しています。

また、県では臨床研修病院に対し、県外からの病院見学者（医学部4～6年生）の交通費及び宿泊費の一部を助成するとともに、複数の病院見学を希望する医学生に対し、スケジュール調整や送迎を行うアクセスサービスを実施しています。

ク 秋田の医療をPRする熱意あふれる優秀な指導医等の紹介と魅力の伝達

- ・指導医、研修医のプロフィール紹介、コラム、リレートーク、応援メッセージ等【継続実施】

● 研修医や指導医の情報発信

県と医療機関では、広報誌（あきたの地域医療通信・病院広報誌）や病院のホームページを活用して、熱意あふれる指導医や頑張る研修医のメッセージ、コラム、研修の様子などを情報発信しています。

また、あきた医師総合支援センターでは、あきたの医療を担う様々な分野の第一線で活躍する「エキスパートドクター」をホームページで紹介し、各専門診療科の魅力や、先輩医師の海外留学体験、臨床の業務内容、秋田の暮らしなどを紹介し、若手医師や医学生に魅力の伝達を進めています。



ケ 創意工夫した研修プログラムや研修環境を整備する病院への支援【実施済】

● 女性医師・若手医師の勤務環境改善事業を実施する病院等への支援

県では、平成26年度まで、市町村や病院が独自に実施する女性医師や若手医師の勤務環境・研修環境を改善し、働きやすい職場づくりに対する取組を支援する「女性医師等勤務環境改善事業」を実施しました。（平成25年度 採択件数4件 補助総額4,574千円、平成26年度 採択件数6件 補助総額7,133千円）

コ 研修医の県内定着に向けた地域との交流や出会いの場の創出【継続実施】

● 研修医の地域との交流（病院祭）・出会いの場の創出

医療機関では、医療従事者と地域住民の交流や、地域に親しまれる病院づくりを目的として秋に「病院祭」を開催しています。

医療施設の見学、医師による予防セミナーの聴講、健康相談に訪れた地域住民との触れ合いやバザー・産直販売などのイベントを通じて、研修医が秋田の風土への理解を深め、秋田への愛着を醸成し、県内定着に繋がるように努めています。

● 研修医の地域との交流（地域住民の健康教室）

秋田大学では、平成25年度から、初期研修プログラムの地域医療の研修先に、地域の診療所を追加しています。

小出診療所（にかほ市）では、大学病院から派遣された研修医が医療スタッフとともに、地域の高齢者を対象に、寸劇を交えた健康教室を開催しました。

研修医が地域住民とのふれあいを通じて、地域に根ざした医療への理解を深めるよう努めています。

(3) 女性医師への更なる支援

～ライフステージに応じた女性医師の支援に向けて～

ア 男女共同参画意識の醸成【継続実施】

- ・秋田大学医学部における啓発教育
- ・県医師会のセミナー開催による意識の醸成

● 男女共同参画意識の啓発教育と意識の醸成

県と秋田大学は、男女共同参画意識の醸成に関する医学教育と女性医師支援に関する研究を進めるため、「総合地域医療推進学講座」（寄附講座・平成25～30年度）を設置し、秋田大学医学部で医学生の早期段階から啓発教育を進めています。

また、あきた医師総合支援センターでは、全県の先輩医師と医学生が、将来のライフスタイルやキャリア形成など、様々な悩みを相談できる「Career Cafe」を実施しています。

さらに、医師会では、医学生、研修医、指導医、病院管理者等を対象とした女性医師のキャリア形成や、家庭と仕事の両立支援を目的としたセミナーを開催しています。

#### イ 女性医師間の多様なネットワークの形成【継続実施】

- ・ 職場の枠を越えた女性医師の情報交換の場づくり
- ・ ホームページへの女性医師リレーエッセイの掲載、若手・女性医師セミナー

#### ● 子育てファミリー交流会等の開催

あきた医師総合支援センターでは、「女性医師・夫婦支援」という観点から職場の枠を超えた女性医師とその家族が集い、男女の家庭の役割分担や育児に関する情報を交換するための「子育てファミリー交流会」を開催しています。

#### ● 女性医師のエッセイの掲載

あきた医師総合支援センターでは、女性医師が、医師としてのキャリアアップや、結婚、出産、子育てとのバランスを考えていくための情報提供の場として、ホームページに県内で活躍する女性医師のエッセイや、秋田大学医学部の蓮沼直子准教授による女性医師支援活動報告レポートを掲載しています。

また、女性医師支援については、総合地域医療推進学講座のフェイスブックでも情報発信しています。

#### ウ 男女の出会いや交流の場づくり【継続実施】

#### ● 研修医等の出会いと交流の場づくり

医師会では、平成25年度から、新たに医師となった全県の初期研修医が一堂に会し、相互交流を深めるための「新医師歓迎レセプション」を開催しています。（令和元年度 13病院の研修医73名参加）

また、あきた医師総合支援センターでは、平成26年度に、秋田県内の独身の若手医師同士の交流を目的とした「名刺交換会」を実施し、県内若手医師11名が参加しました。

更には、県と臨床研修病院では、研修医が研修期間中に共通して直面する課題を解決する能力を身に付けるとともに、病院の垣根を越えた交流を深め、研修医のネットワークを構築することを支援するための「レジデントスキルアップキャンプ」を開催しています。（令和元年度 12病院58名参加）

#### エ 子育て中の女性医師への支援【継続実施】

- ・ 女性医師の離職防止・復職やキャリアアップ支援のための相談窓口
- ・ 保育施設等の情報提供、院内保育所や病児・病後児保育所等の設置と支援
- ・ ベビーシッター等の雇用・斡旋、家事のアウトソーシングの普及
- ・ 短時間勤務、ワークシェアリングの促進と支援
- ・ ホームページ等への子育て中の女性医師のエッセイの掲載、情報交換会などの情報発信の強化

#### ● 女性医師のキャリアアップ支援の相談窓口

県と医師会は連携して、女性医師の離職防止・復職支援やキャリアアップ支援のための相談窓口を継続して設置しています。

また、あきた医師総合支援センターにおいても、進路や働き方、子育て、介護、健康問題に関して悩む女性医師と、女性医師を部下に持つ指導医に対する相談を受け付けています。

#### ● あきた医師総合支援センターの女性医師支援

あきた医師総合支援センターでは、子育て中の女性医師等を対象としたセミナーを開催する際、参加者向けの無料託児所で子どもを預かるなどのサポートをしています。

また、県内の院内保育所、学童保育施設（保育園、学童児童クラブ）などの育児支援情報のHPによる紹介や、マタニティ白衣のレンタルも行っています。

#### ● 院内保育所の設置支援と周知

県と国では、院内保育所の施設整備費や運営費を医療機関に補助し、医療機関と連携して、女性医師等の働きやすい職場環境づくりを進めています。（令和元年度 6病院）



オ 女性医師の就労環境の改善【継続実施】

- ・ 女性医師の就労環境改善に取り組む病院への支援
- ・ 病院経営者・管理職員等の意識改革を図るためのセミナー
- ・ 女性医師の働き方、キャリアアップに係る住民理解を深めるための周知啓発

● 女性医師の就労環境改善に取り組む病院への支援

県は、平成26年度まで、女性医師等の離職防止や負担軽減、仕事と家庭の両立、働きやすい職場環境づくりに取り組む病院の事業又は施設・設備等の設置・改修等に要する経費を補助し、その取組を支援しました。（平成25・26年度補助額 10件・11,707千円）

事業採択された病院の主な取組内容は、女性医師専用シャワー室の設置や女性医師更衣室の電子施錠化（由利組合総合病院）、女性医師の育児休暇等に対応するための診療応援に要する代替医師の任用（中通総合病院・本荘第一病院）、女性医師・若手医師の定着等に向けた研修会の開催や手当の支給（秋田赤十字病院・本荘第一病院・由利組合総合病院・にかほ市）、女性医師等の交流の場づくり（秋田赤十字病院）などです。（再掲）

● 病院経営者・管理職員等の意識改革を図るためのセミナーの開催

医師会は、平成27年度に、県、あきた医師総合支援センターと連携して、県内で働くすべての医療人が、生き生きと輝きながら働き暮らせる環境の実現を図るため、医師・看護師等を対象とした「イクボスセミナー」を開催しました。

(4) (1)～(3)を支える取組

ア 医学部進学者を増やすための取組【継続実施】

- ・ 大学と連携した「中・高校訪問セミナー」
- ・ 高校生の医療体験実習
- ・ 秋田大学・岩手医科大学・自治医科大学オープンキャンパス体験支援

● 秋田大学と連携した高校訪問セミナーの開催

秋田大学総合地域医療推進学講座では、将来医師を目指す高校生や保護者を対象に、医師という職業の魅力やその使命、秋田大学医学部のカリキュラムや先駆的な取組を医学教員（医師）が説明する高校訪問セミナーを開催しています。

高校訪問セミナー参加者数

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	計
大館鳳鳴	5	30	25	8	8	20	11	107
能代	24	28	24	14	21	23		134
秋田	36	56	43	68	38	64	60	365
秋田南	25	15	31		15	11	19	116
(中等部)	-	-	-	-	-	8		8
秋田北	8	16						24
本荘	15	18	29	12	10			84
横手	33	57	29	39	33	61	78	330
湯沢				4		9		13
明桜			1					1
計	146	220	182	145	125	196	168	1,036

● 岩手医科大学オープンキャンパス体験ツアー等の開催

県、鹿角市及び小坂町が共同で岩手医科大学医学部に開設した地域医療推進学講座（鹿角地域）では、医師を目指す小中高生や保護者を対象に、医育機関や医療機関に対する理解を深めて貰うため、岩手医科大学オープンキャンパス体験ツアーを実施しました。（平成28年度 40名参加、平成30年度 21名参加）

平成29年度と令和元年度には、かづの厚生病院を会場に、小学生を対象とした手術室見学ツアーが開催されました。

- 医師を志す中学校・高校生向けの体験学習等  
大学や医療機関が、高校等と連携し、地域医療を支える人材を育成するため、医療実習・体験学習や、病院見学などを実施しました。

- ・メディカルセミナー（秋田大学 令和元年度 計134名）  
高校1.2年生向けの院内見学、シミュレータ操作体験、医学部紹介 等
- ・高校生による大学見学（秋田大学 令和元年度 約100名）  
医学部紹介、入試制度紹介、シミュレータ操作体験 等
- ・高校生病院見学会（大館市立総合病院 134名）  
模擬講義、院内見学、現場体験 等
- ・能代高校インターンシップ（秋田赤十字病院 4名）  
院内見学、研修医との交流、カンファレンス参加、シミュレータ操作体験 等
- ・高校生一日医師体験（中通総合病院 令和元年度 32名）  
院内見学、医師による講演、ギプス巻き体験、内視鏡体験
- ・能代高校インターンシップ（能代厚生医療センター 1名）  
院内見学、医師による講演 等
- ・湯沢雄勝☆みらいデザインU15（雄勝中央 会場全体270名）  
地域振興局主催の職業体験イベントに医療食の魅力を発信するブースを設置

イ 研修医確保・定着のための取組【継続実施】

- ・秋田大学と連携した病院合同説明会の充実
- ・医学生スキルアップセミナー、研修医講習会、指導医・看護・事務職員講習会
- ・医療シミュレーション教育センターの活用
- ・研修医に係る学会参加や実習経費の支援

- 秋田大学病院合同説明会・医学生のための実践セミナー等の開催

研修医の確保と定着に向けて、県と大学、県内の臨床研修病院が一体となって、秋田大学医学生を対象とした病院合同説明会を開催しました。（令和元年9月20日、令和2年2月7日 参加学生計144名）

また、秋田大学医学生と県外医学生を対象に医学講習を実施するとともに、両医学生の相互交流を図り、秋田での初期研修を促す「医学生のための必修・実践セミナー」を開催しました。（平成29年度 参加者 秋田大学生2名・県外医学生11名 計13名）

- 医療シミュレーション教育センターの活用

医療技術の習得や医療従事者の連携強化を目的に、医学生、看護学生、研修医、指導医、看護師などを対象として、医療シミュレーション教育センターを活用した講義や研修会が実施されています。

平成26年度に、シミュレーションを用いた臨床実技と推論について、臨床実習での学習成果を競う「第1回シムリンピック」が和歌山県で開催され、本県から参加した「秋田大学チーム」が全国12チームの激戦を制し、見事優勝しました。

シミュレーション教育センター利用実績（人）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
講義	425	260	281	276	323	365	536	579
実習	158	-	-	-	-	-	-	-
自習	-	178	148	71	83	172	161	151
セミナー	141	116	134	161	205	260	171	168
見学	-	-	-	-	-	157	86	86
その他	61	92	196	166	116	149	236	215
計	785	646	759	674	727	1,103	1,190	1,199

- 臨床研修病院に対する支援

県は、指導医の負担軽減を図るために医療秘書を配置したり、研修医を学会や地域医療研修に参加させるなどの研修体制の充実に向けた取組を行う臨床研修病院に対し、助成しています。

（令和元年度決算額 医療秘書配置等経費 47,691千円 ）

ウ 勤務医の負担軽減のための取組【継続実施】

- ・ 医療秘書の配置促進と支援
- ・ 病診連携（開業医による診療応援等）
- ・ 医師の負担軽減のための住民への意識啓発
- ・ 時間内受診の推進、かかりつけ医の普及、定期的な健診受診の推進、健康講座の受講

● 医療秘書等の配置促進の支援

県では、平成22年度から平成27年度まで、病院に勤務する医師の負担軽減を図るため、専ら医師の業務を補助することを職務とする職員（医療秘書等）を新たに採用する経費や、医療秘書の資格取得に要する経費に対し、助成を行いました。（延べ84病院、医療秘書新規配置数342名、資格取得講座受講者 40名）

また、令和元年度から医療秘書の養成及び県内での導入促進を目的として養成施設への補助を行っています。

● 勤務医の負担軽減のための病診療連携

医師会は、地域の中核病院等と連携して、休日・夜間の小児救急医療に係る診療応援や、在宅当番医制度などの病診連携を実施しています。

在宅当番医制度の病診連携実績（令和2年6月）

	二次医療圏名	参加医療機関数
1	大館・鹿角	12
2	北秋田	13
3	能代・山本	39
4	由利本荘・にかほ	
5	大仙・仙北	3
6	横手	38

コロナウイルス感染症対策のため、休止中

出典 県内医師会ホームページ

エ 自治医科大学卒医師の定着のための取組【継続実施】

- ・ 自治医科大学卒医師のネットワークづくり（医学生スキルアップセミナー、研修医講習会、指導医講習会）
- ・ 総合医・専門医資格の取得などのキャリア形成支援
- ・ 自治医科大学卒医師の指導体制の強化と複数派遣等による就労環境改善

● 地域に寄り添う医師・医学生キャリアアップセミナーの開催

県とあきた医師総合支援センターは、自治医科大学生、秋田大学医学生、東北医科薬科大学生及び県内で活躍する自治医科大学卒医師等を対象として、地域医療に熱意を持った医師を養成し、かつ、医師・医学生間の相互交流を促し、県内定着を図ることを目的に、地域に寄り添う医師・医学生キャリアアップセミナーを開催しています。（令和元年度参加者 自治医科大生12名、秋田大学生4名、東北医科薬科大学生3名、自治医大卒医師7名、秋田大卒医師3名等 計35名）



● 自治医科大学卒の県職員医師の配置とキャリア形成支援

県は、自治医科大学卒の県職員医師との意見交換会を開催し、医師の複数派遣による指導体制の強化や就労環境の改善、キャリア形成支援を進めています。

また、自治医科大学卒業医師のキャリア形成を支援するため、平成27年度には県内自治体病院長が総合診療専門医に関する勉強会を開催し、平成28年度には新専門医制度の開始に向けた対応策を検討する会議を開催しました。

《派遣状況》

	R1	R2	増減
市立扇田病院	2	1	△ 1
北秋田市民病院	3	4	1
男鹿みなと市民病院	1	1	0
市立角館総合病院	3	3	0
市立田沢湖病院	1	1	0
市立大森病院	2	4	2
町立羽後病院	2	2	0
合計	14	16	2
後期研修	3	3	0
育児休業	0	0	0

● 自治医科大生の夏期実習と義務年限明けの自治医大卒医師への感謝状の授与

県は医療機関と自治医科大学と連携して、本県出身の自治医科大学生が県内の地域医療活動の実態を学び、将来、地域医療に従事する医師として、その役割と責任を自覚することを目的に、7病院（市立扇田病院、市立大森病院等）を実習先として、1年生から5年生を対象に夏期実習を実施しています。

また、県では、9年間の義務期間を県内の公的医療機関等で勤務された自治医科大卒医が地域住民の健康と医療の充実に寄与されたことに対し、感謝状を授与しています。

オ 医師とその家族を取り巻く地域住民の応援する取組 《再掲》

- ・ 医師とその家族をサポートし、感謝する運動や仕組みづくり（(1)ーキ）
- ・ 研修医の県内定着に向けた地域との交流や出会いの場の創出（(2)ーコ）
- ・ 男女の出会いや交流の場づくり（(3)ーウ）
- ・ 女性医師の働き方・キャリアアップに係る住民理解を深めるための周知啓発（(3)ーオ）
- ・ 医師の負担軽減のための住民への意識啓発（(4)ーウ）
- ・ 時間内受診の推進、かかりつけ医の普及、定期的な健診受診の推進、健康講座の受講（(4)ーウ）

カ その他の取組 【継続実施】

- ・ ドクターバンクの設置
- ・ 県職員医師の採用、自治医科大学卒医師の派遣
- ・ 分娩手当への補助

● ドクターバンク

県は、秋田県医師無料職業紹介所（ドクターバンク）を設置し、県内の病院又は診療所での勤務を希望する医師に対して、就職先の斡旋や紹介※を行っています。

ドクターバンク（常勤・非常勤）のほか、1日単位での求人・求職を受け付ける「ドクター・ショートサポートバンク」も開設し、病院勤務医の負担軽減を図っています。

※ 令和元年度実績

ドクターバンク・ショートサポートバンク求職者数（7名）、ドクターバンク求人数（291名）、あっせん件数（累計18件）

● 分娩手当への補助

県は、市町村と連携して、分娩手当を支給する医療機関に対し補助し、不足する産科医の処遇の改善を図りました。（令和元年度決算額 分娩手当17,155千円）（再掲）

● 大館市による大館・北秋田地域医療推進学講座の設置

大館市では、地域における医療連携や大学と地域との循環による地域医療を担う人材育成など、大館・北秋田地域の医療の充実に図るため、弘前大学に「大館・北秋田地域医療推進学講座」（平成25～29年度）を設置しました。

平成30年度からは、研究テーマに新たに「大館・北秋田地域の医療機関への救命救急センターの構築に関する研究」を加え、二期目の寄附講座（平成30年～R4年度）が設置されました。

● 由利本荘市・にかほ市による寄附講座の設置

由利本荘市とにかほ市は、平成26年4月から東京医科大学に消化器がん研究のための寄附講座（東北由利本荘・にかほ地域消化器がん研究寄附講座）を設置しました。同講座では、由利組合総合病院に医師を派遣し、同病院で診療応援しながら、3カ年計画で消化器がんの早期診断や効率的な治療体制の構築を目指していましたが、寄附講座の責任者が日本大学に転出することに伴い平成27年度で終了し、平成28年度から平成30年度まで日本大学に寄附講座（消化管がん予防・検診・治療学講座）を設置しました。

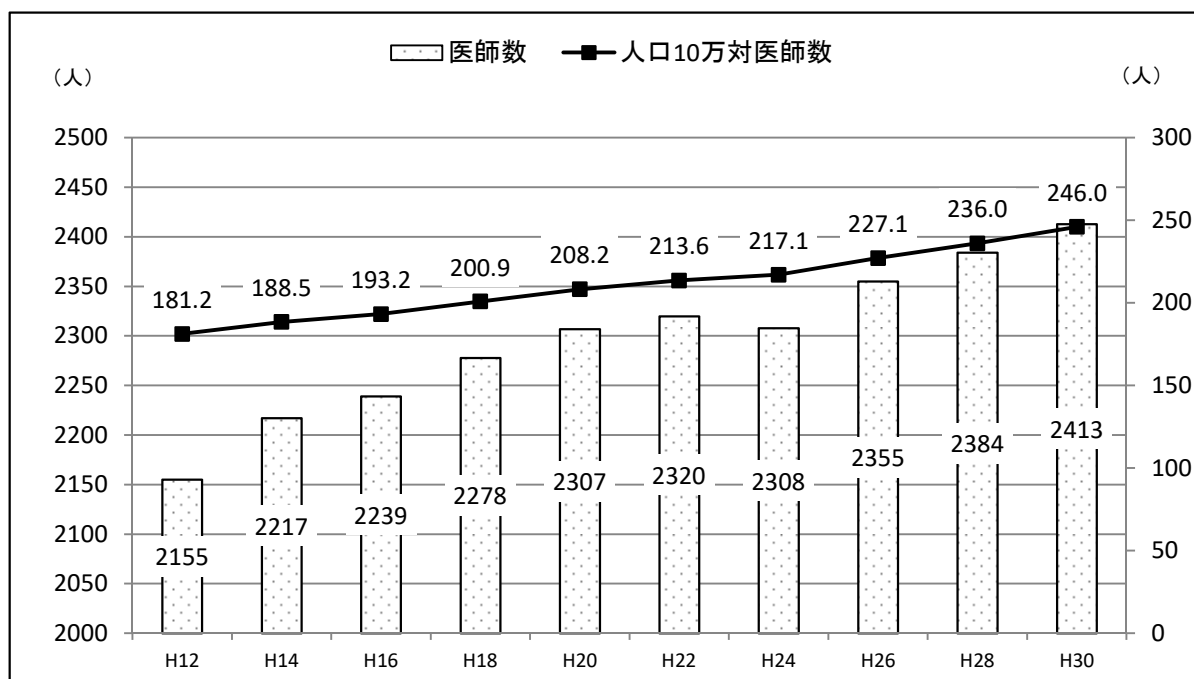
● 県内高校出身の医学部進学者への情報提供

県では、県内の高校の協力の下、平成26年度から医学部進学者に対するアンケート調査を実施しています。当調査により県内高校出身の医学部在籍者の状況を把握し、「あきたの地域医療通信」や医学生進路相談会の開催案内を送付する等、定期的にコンタクトを取ることであり、卒業後の初期臨床研修を県内病院に誘導します。

〈参考〉

「医師・歯科医師・薬剤師調査・統計」の状況について

1 秋田県における医師数・人口10万対医師数の推移



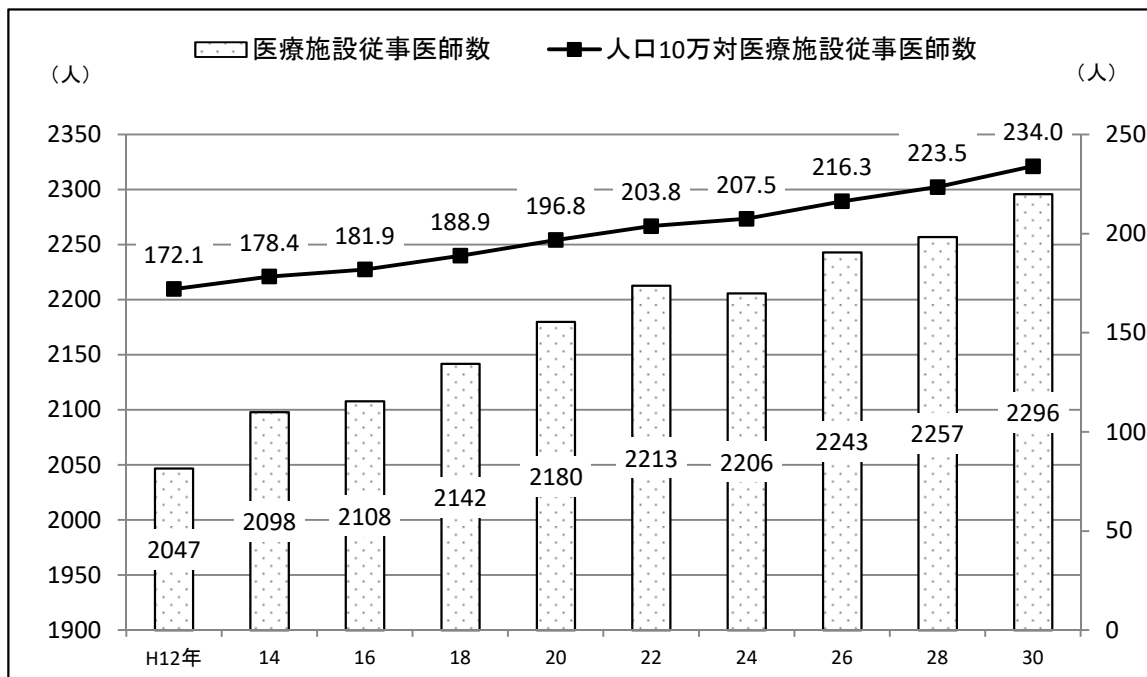
出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査・統計（隔年12月31日現在）」（厚生労働省）  
「人口推計（平成30年10月1日現在）」（総務省）

- ・ 医師数は、前回調査に比較して29人（1.2%）増加し、過去最高の2,413人となっています。  
（全国の医師数 ㊸319,480人 → ㊸327,210人 7,730人（2.4%）増加）
- ・ 医師の増加数の全国上位は、①東京（1,256人）、②神奈川（778人）、③埼玉（756人）となっています。  
また、前回調査から医師数が減少したのは、沖縄（△20人）の1県です。
- ・ 人口10万対医師数は、医師数の増加及び人口の減少（㊸1,010千人 → ㊸981千人 △29千人）に伴い、増加（㊸236.0人→㊸246.0人）しています。
- ・ 東北6県の前回調査から今回調査での医師の増減状況は、次のとおりです。

	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
H28	2,702	2,631	5,653	2,384	2,597	3,888
H30	2,712	2,673	5,792	2,413	2,614	3,993
増減	10	42	139	29	17	105

出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査・統計」（厚生労働省）

## 2 秋田県における医療施設従事医師数・人口10万対医療施設従事医師数の推移



出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査・統計」(厚生労働省)  
「人口推計」(総務省)

- 医療施設従事医師数は、前回調査に比較して39人(1.7%)増加し、過去最高の2,296人となっています。

(全国の医療施設従事医師数 ㊸311,963人 → ㊺319,480人 7,204人(2.3%)増加)

- 医療施設従事医師の増加数の全国上位は、①東京(1,052人)、②埼玉(776人)、③神奈川県(708人)となっています。  
また、前回調査から医療施設従事医師数が減少したのは、沖縄(△13人)の1県です。

- 人口10万対医療施設従事医師数は、医療施設従事医師数の増加及び人口の減少(㊸1,010千人 → ㊺981千人 △29千人)に伴い、増加(㊸223.5人→㊺234.0人)しています。

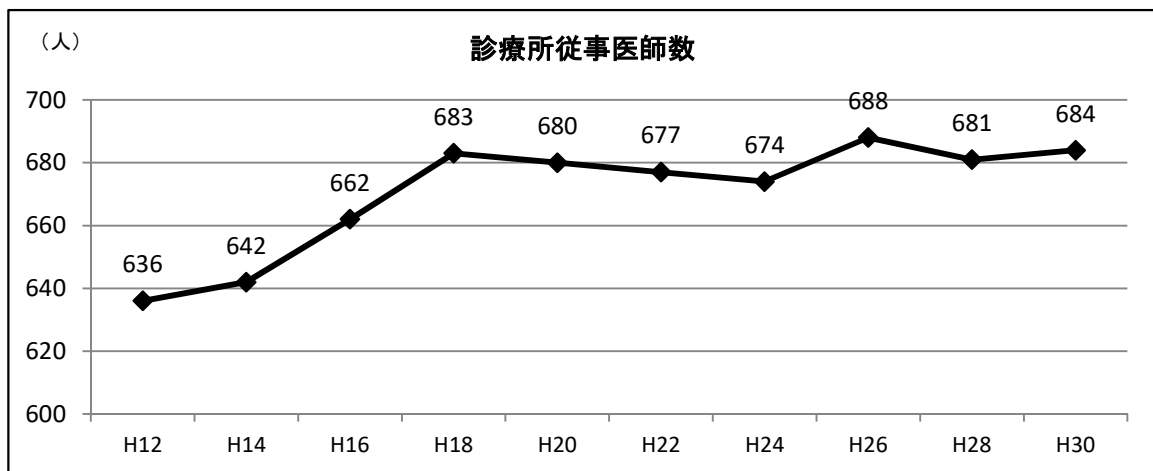
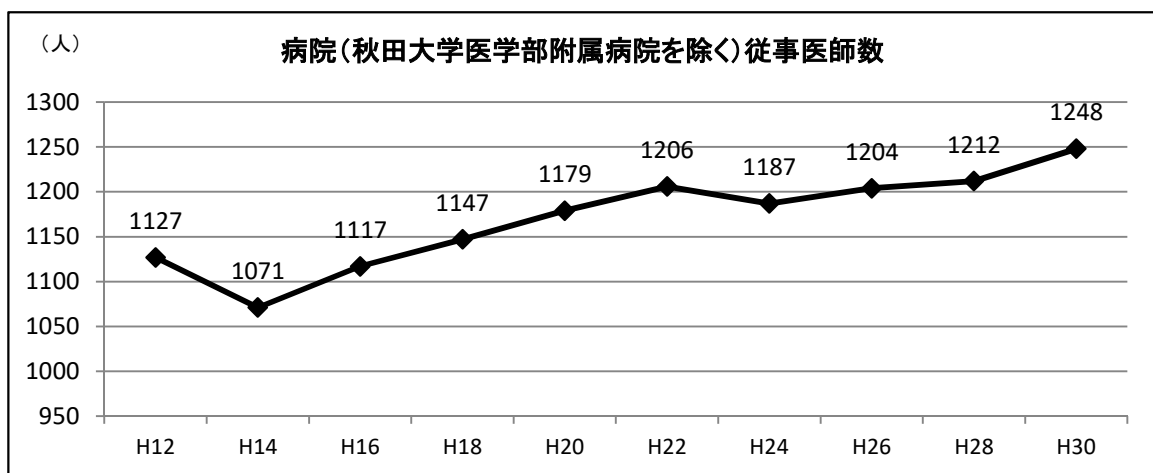
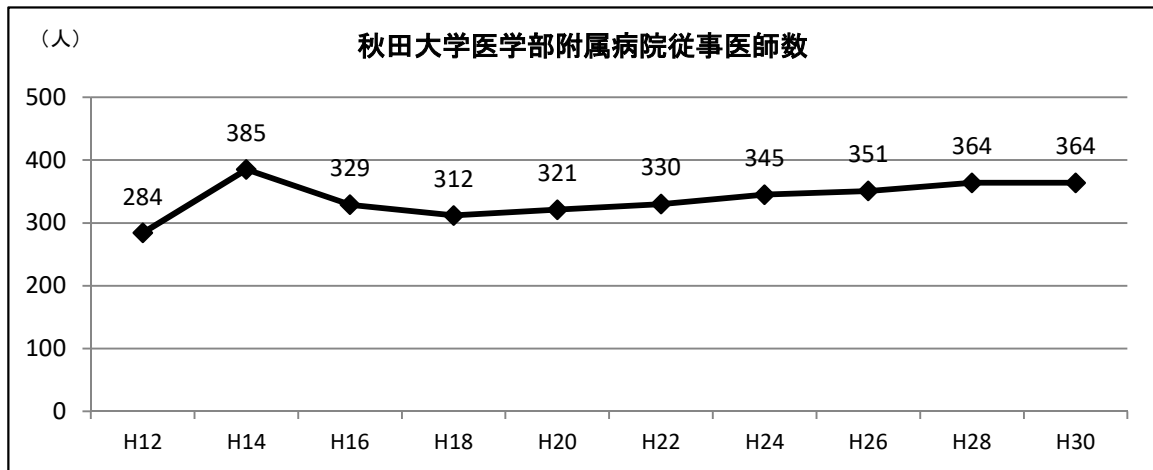
- 東北6県の前回調査から今回調査での医療施設従事医師数の増減状況は、次のとおりです。  
(人)

	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
H28	2,563	2,458	5,404	2,257	2,443	3,720
H30	2,568	2,503	5,521	2,296	2,463	3,819
増減	5	45	117	39	20	99

出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」(厚生労働省)



#### 4 秋田大学、病院（秋田大学医学部附属病院を除く）と診療所従事医師数の推移

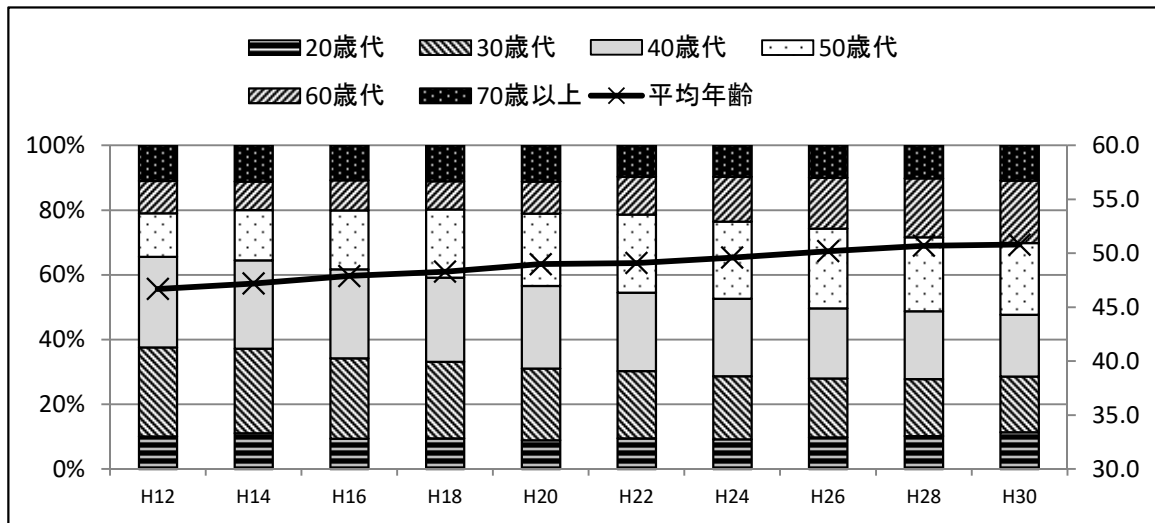


出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」(厚生労働省)

- ・ 秋田大学医学部附属病院の医師数は、平成14年から平成18年まで減少傾向にありましたが、その後、増加に転じています。
- ・ 病院（秋田大学医学部附属病院を除く）従事医師数は、平成24年調査で減少しましたが、増加に転じ、平成30年は過去最高になりました。
- ・ 診療所従事医師数は、平成18年から平成24年まで減少し、平成26年に一旦増加しましたが、それ以降は横ばいに推移しています。



## 5 医師の年齢構成・平均年齢の推移



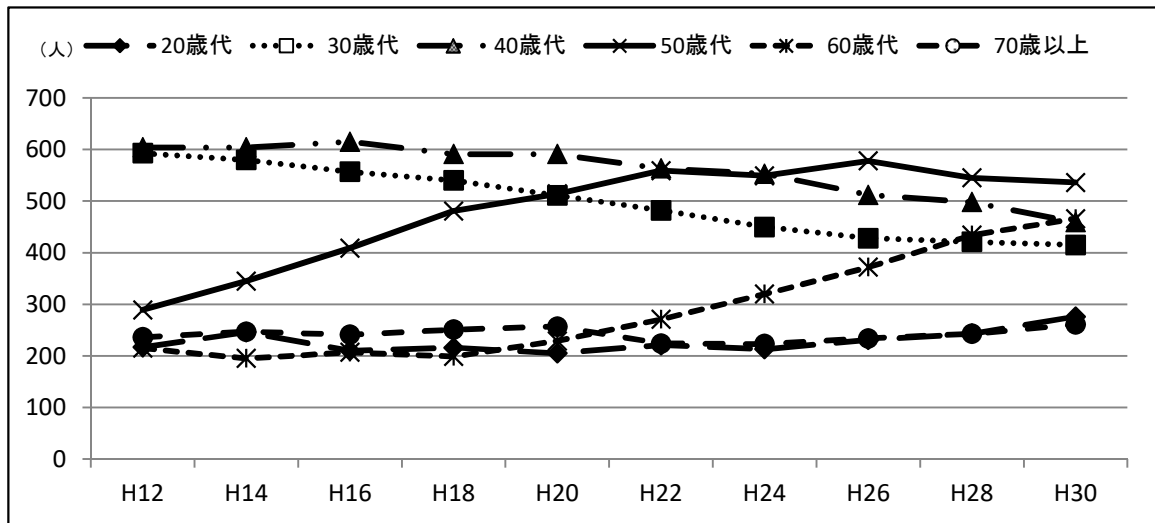
(%、歳)

	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30
70歳以上	11.0	11.1	10.8	11.0	11.1	9.7	9.7	9.9	10.2	10.8
60歳代	10.0	8.8	9.2	8.7	9.9	11.7	13.9	15.8	18.2	19.3
50歳代	13.4	15.6	18.3	21.1	22.3	24.1	23.8	24.5	22.9	22.2
40歳代	28.0	27.2	27.5	25.9	25.6	24.3	24.0	21.7	20.9	19.0
30歳代	27.5	26.2	24.9	23.7	22.1	20.8	19.5	18.2	17.7	17.2
20歳代	10.1	11.1	9.4	9.5	8.9	9.5	9.2	9.8	10.2	11.4
平均年齢	46.7	47.2	47.9	48.3	49.0	49.1	49.6	50.2	50.7	50.8

出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」(厚生労働省)

- ・平成30年の県内医師の年齢構成のうち、60歳代(19.3%)、50歳代(22.2%)、40歳代(19.0%)で全体の約2/3(60.5%)を占めています。
- ・平成12年から平成24年まで、40歳代の占める割合が最も高い状況が続いていましたが、平成26年以降は50歳代の占める割合が最も高くなっています。
- ・50歳代の占める割合は、平成12年(13.4%)から平成30年(22.2%)にかけて、8.8ポイント上昇しています。
- ・60歳代の占める割合は、平成12年(10.0%)から平成30年(19.3%)にかけて、9.3ポイント上昇しています。
- ・30歳代の占める割合は、平成12年(27.5%)から平成30年(17.2%)にかけて、10.3ポイント低下しています。
- ・20歳代の占める割合は、新臨床研修制度が始まった平成16年から平成26年まで、10%に満たない状況が続いていましたが、平成30年は11.4%と、この20年間で最大となりました。
- ・平均年齢は、平成10年以降上昇を続けており、平成30年は50.8歳となりました。

## 6 年齢階級別医師数の推移



	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30	28-30増減
20歳代	217	246	210	216	205	221	213	231	243	276	33
30歳代	593	580	557	540	511	482	450	428	421	415	△ 6
40歳代	604	604	615	591	591	563	553	512	498	459	△ 39
50歳代	289	345	409	481	514	559	549	578	545	536	△ 9
60歳代	215	195	207	199	229	271	320	372	434	466	32
70歳以上	236	247	241	251	257	224	223	234	243	261	18
合計	2,154	2,217	2,239	2,278	2,307	2,320	2,308	2,355	2,384	2,413	29

出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」(厚生労働省)

- ・ 年齢階級別の医師数を前回調査と比較すると、30歳代(△6名)、40歳代(△39名)、50歳代(△9人)が減少し、その他の年代では増加しています。
- ・ 平成16年の新臨床研修制度開始以降低調に推移していた20歳代は276人となり、初めて、新臨床研修制度開始前の平成14年を上回りました。
- ・ 30歳代は一貫して減少傾向にあります。また、40歳代は平成16年をピークに減少が続き、50歳代も前回よりも減少しました。
- ・ 60歳代は、平成14年を底として、増加傾向が続いています。

## 【5歳階層区分別の推移】

(1) 総数

(人)

	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30	28-30増減
24歳以下	2	6	2	6	5	1	5	10	10	5	△ 5
25～29	215	240	208	210	200	220	208	221	233	271	38
30～34	275	262	271	252	241	219	230	222	207	204	△ 3
35～39	318	318	286	288	270	263	220	206	214	211	△ 3
40～44	307	304	317	305	296	264	260	246	224	221	△ 3
45～49	297	300	298	286	295	299	293	266	274	238	△ 36
50～54	177	218	262	287	283	287	273	296	282	263	△ 19
55～59	112	127	147	194	231	272	276	282	263	273	10
60～64	109	95	113	103	132	172	205	238	258	271	13
65～69	106	100	94	96	97	99	115	134	176	195	19
70～74	123	106	91	95	95	75	74	85	83	109	26
75～79	68	96	93	82	79	69	71	68	66	61	△ 5
80～84	28	30	41	59	64	59	52	46	55	49	△ 6
85歳以上	17	15	16	15	19	21	26	35	39	42	3
合計	2,154	2,217	2,239	2,278	2,307	2,320	2,308	2,355	2,384	2,413	29

出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」(厚生労働省)

- ・ 5歳階層区分別に前回調査と比較すると、「30～54歳」の各年代及び「75～84歳」の各年代で減少しています。
- ・ 平成30年調査の「35～39歳」と平成20年調査の「25～29歳」を比較すると微増(+11名)となっています。そのほかの年代では、10～15%程度の減少が見られることが窺えます。

(人)		(人)	
H20		H30	増減
25～29	200	35～39	211 11
30～34	241	40～44	221 △ 20
35～39	270	45～49	238 △ 32
40～44	296	50～54	263 △ 33
45～49	295	55～59	273 △ 22
50～54	283	60～64	271 △ 12
55～59	231	65～69	195 △ 36
60～64	132	70～74	109 △ 23

## (2) 男女別

## ① 男性

(人)

	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30	28-30増減
24歳以下	1	6	1	3	4	1	4	7	7	1	△ 6
25～29	157	175	151	152	144	156	142	158	154	172	18
30～34	226	210	214	192	181	160	172	159	150	144	△ 6
35～39	281	288	245	237	216	202	171	152	153	147	△ 6
40～44	273	265	279	274	256	221	208	196	175	169	△ 6
45～49	276	276	264	249	263	268	256	223	221	188	△ 33
50～54	161	201	246	264	255	249	237	263	249	228	△ 21
55～59	101	118	131	180	213	252	250	246	229	242	13
60～64	104	85	103	92	123	157	189	224	233	244	11
65～69	103	96	91	90	87	89	107	121	166	177	11
70～74	109	97	86	91	91	71	67	75	74	101	27
75～79	62	87	80	70	71	64	67	64	61	53	△ 8
80～84	28	29	38	56	58	51	45	42	51	47	△ 4
85歳以上	14	11	13	12	16	18	23	28	31	35	4
合計	1,896	1,944	1,942	1,962	1,978	1,959	1,938	1,958	1,954	1,948	-6

## ② 女性

(人)

	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30	28-30増減
24歳以下	1	0	1	3	1	0	1	3	3	4	1
25～29	58	65	57	58	56	64	66	63	79	99	20
30～34	49	52	57	60	60	59	58	63	57	60	3
35～39	37	30	41	51	54	61	49	54	61	64	3
40～44	34	39	38	31	40	43	52	50	49	52	3
45～49	21	24	34	37	32	31	37	43	53	50	△ 3
50～54	16	17	16	23	28	38	36	33	33	35	2
55～59	11	9	16	14	18	20	26	36	34	31	△ 3
60～64	5	10	10	11	9	15	16	14	25	27	2
65～69	3	4	3	6	10	10	8	13	10	18	8
70～74	14	9	5	4	4	4	7	10	9	8	△ 1
75～79	6	9	13	12	8	5	4	4	5	8	3
80～84	0	1	3	3	6	8	7	4	4	2	△ 2
85歳以上	3	4	3	3	3	3	3	7	8	7	△ 1
合計	258	273	297	316	329	361	370	397	430	465	35

出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」(厚生労働省)

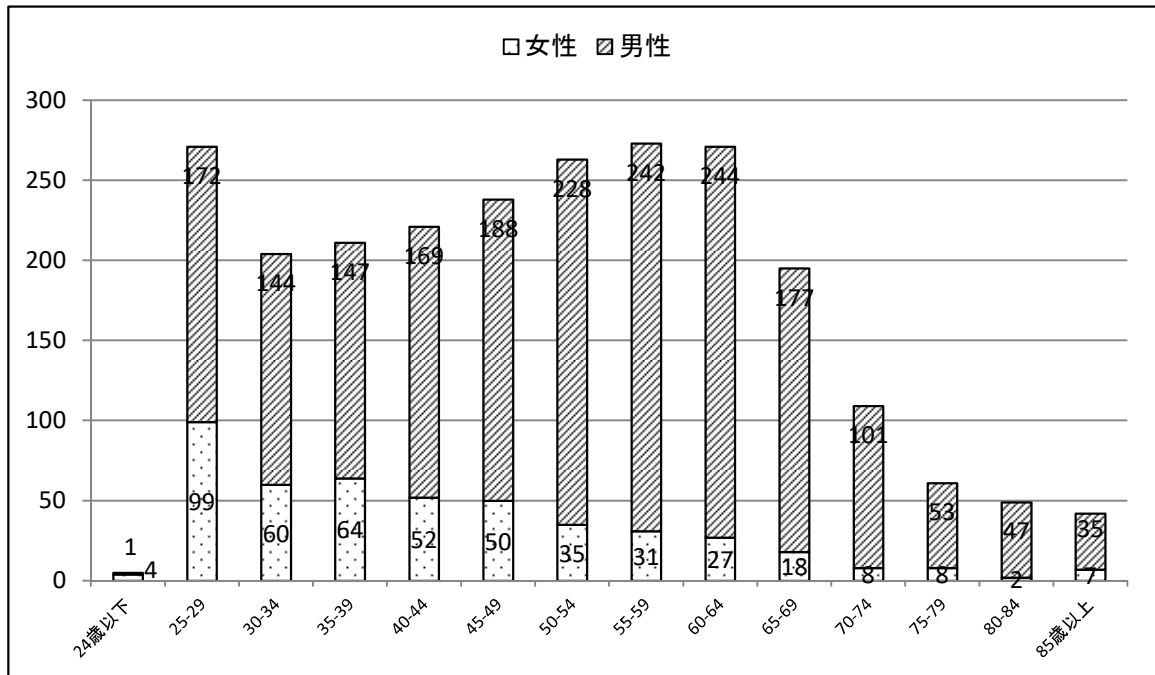
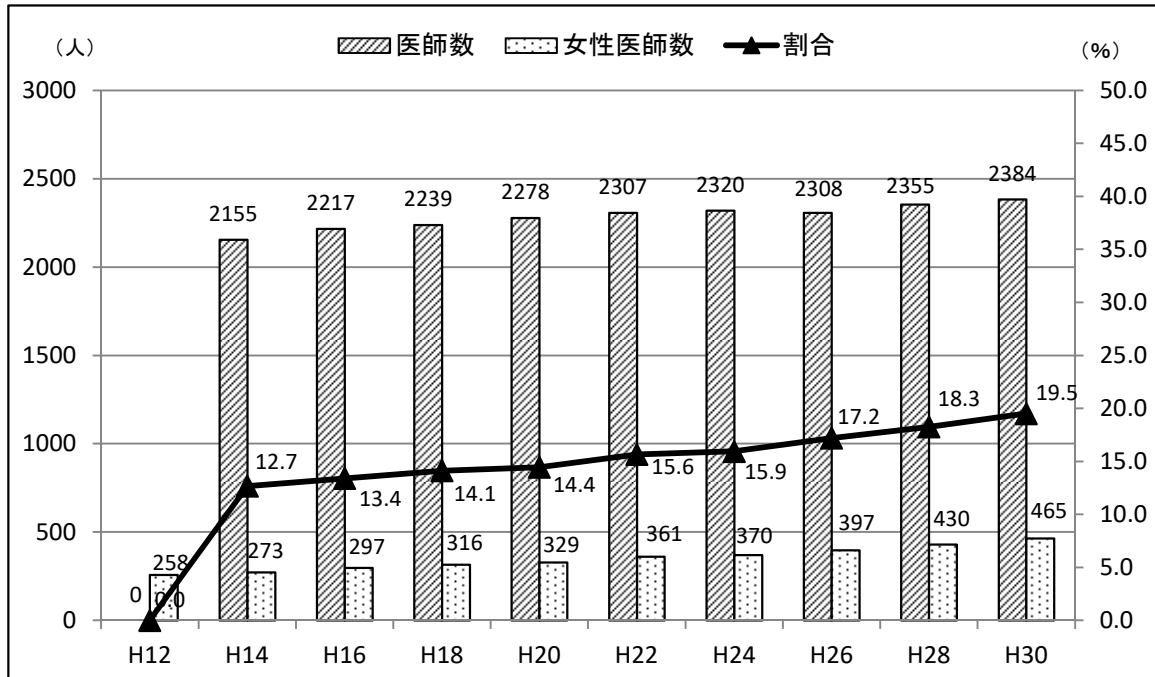
## 【10年前の相当年代との比較(男性)】

H20 (人)		H30 (人)		増減
25～29	144	35～39	147	3
30～34	181	40～44	169	△ 12
35～39	216	45～49	188	△ 28
40～44	256	50～54	228	△ 28
45～49	263	55～59	242	△ 21
50～54	255	60～64	244	△ 11
55～59	213	65～69	177	△ 36
60～64	123	70～74	101	△ 22

## 【10年前の相当年代との比較(女性)】

H20 (人)		H25(推計) (人)		増減
25～29	56	35～39	64	8
30～34	60	40～44	52	△ 8
35～39	54	45～49	50	△ 4
40～44	40	50～54	35	△ 5
45～49	32	55～59	31	△ 1
50～54	28	60～64	27	△ 1
55～59	18	65～69	18	0
60～64	9	70～74	8	△ 1

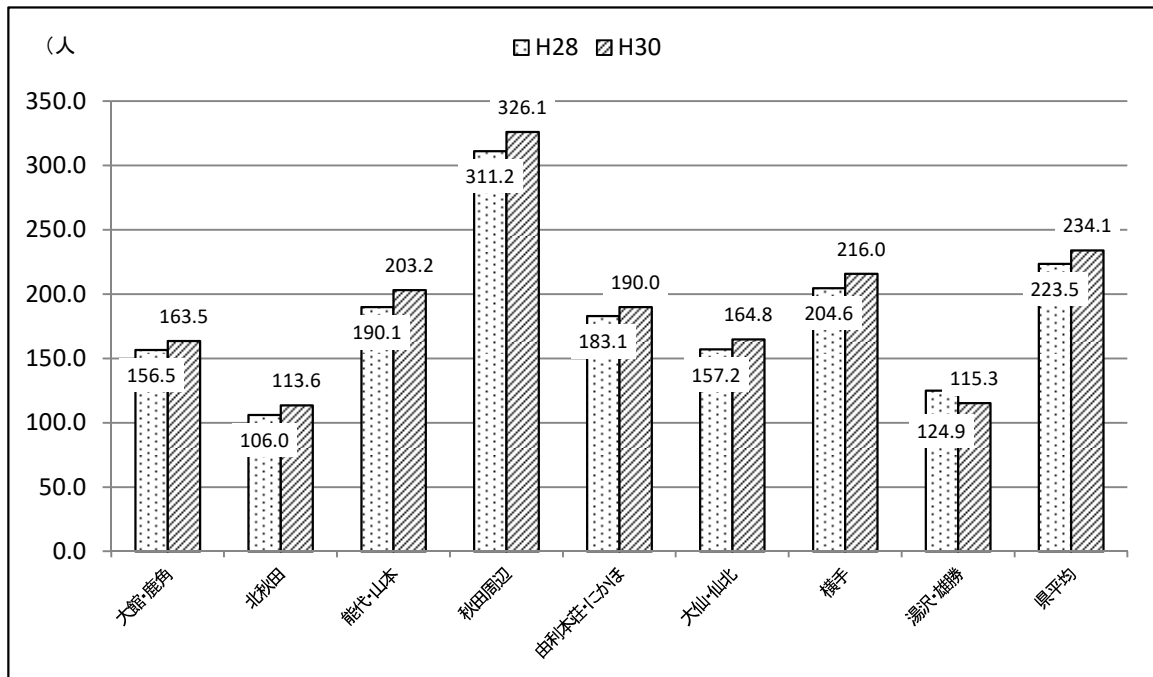
## 7 女性医師の推移と年齢区分別医師数（平成30年）



出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」 (厚生労働省)

- ・ 医師総数に占める女性医師の割合は年々上昇し、平成30年は19.3% (全国21.9%) となっています。
- ・ 女性医師の割合は「25～29歳」36.5% (99人)、「30～34歳」29.4% (60人)、「35～39歳」30.3% (64名)、「40～44歳」23.5% (52人) となっています。

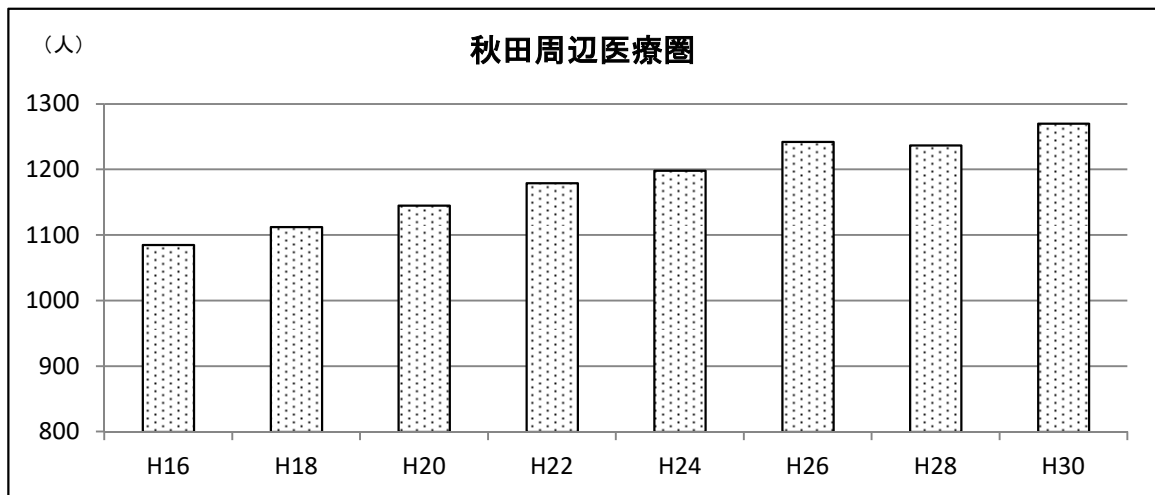
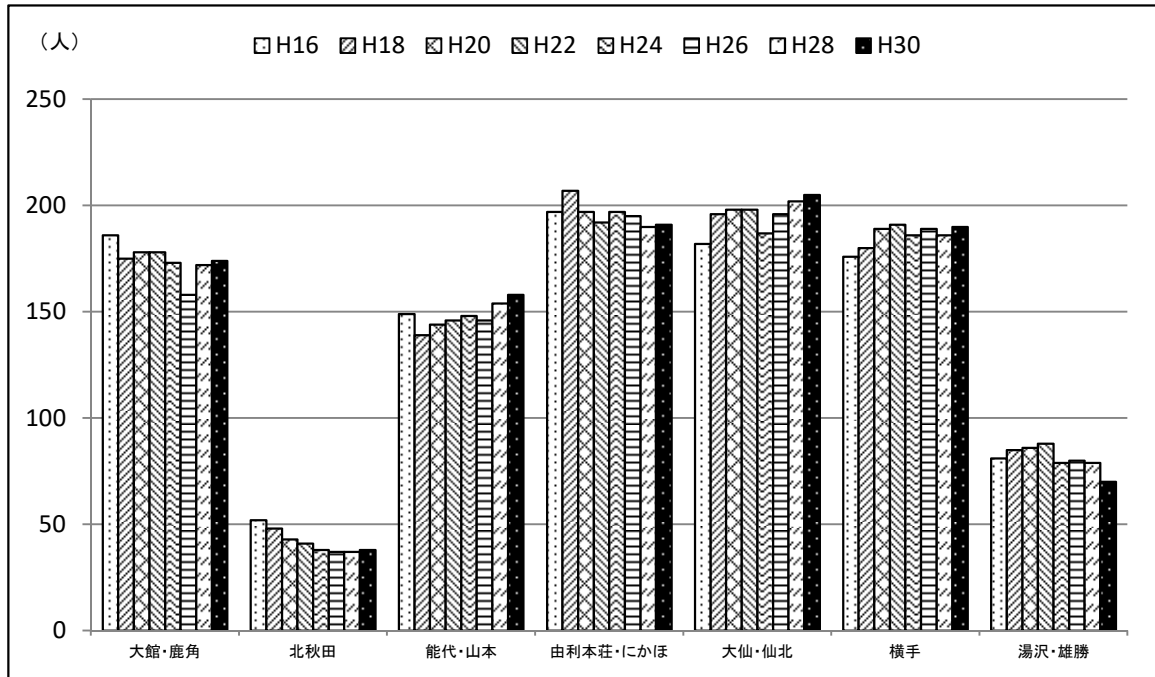
## 8 二次医療圏別の人口10万対医療施設従事医師数（平成28・30年）



出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」（厚生労働省）  
「人口流動調査」（秋田県）

- ・ 秋田県内の二次医療圏別に人口10万対医療施設従事医師数を比較すると、依然として「秋田周辺医療圏」に医師が集中しており、他の7つの二次医療圏では、県平均（234.1人）及び全国平均（246.7人）を下回っています。
- ・ 平成28年と平成30年の数値を比較すると、湯沢・雄勝医療圏だけ人口10万対医療施設従事医師数が減少しており、その他の二次医療圏では人口10万対医療施設従事医師数が増加しています。

## 9 二次医療圏別の医療施設従事医師数の推移



(人)

	大館・鹿角	北秋田	能代・山本	秋田周辺	由利本荘・にかほ	大仙・仙北	横手	湯沢・雄勝
H16	186	52	149	1085	197	182	176	81
H18	175	48	139	1112	207	196	180	85
H20	178	43	144	1145	197	198	189	86
H22	178	41	146	1179	192	198	191	88
H24	173	38	148	1198	197	187	186	79
H26	158	37	146	1242	195	196	189	80
H28	172	37	154	1237	190	202	186	79
H30	174	38	158	1270	191	205	190	70

出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」 (厚生労働省)

- ・平成28年と平成30年の数値を比較すると、医師9名の減少が見られた湯沢・雄勝医療圏を除く、全ての二次医療圏で医師数が増加しています。

【参考】

①二次医療圏別病院従事医師数 (人)

	大館・鹿角	北秋田	能代・山本	秋田周辺	由利本荘・にかほ	大仙・仙北	横手	湯沢・雄勝
H16	129	31	85	793	143	102	111	52
H18	117	29	82	801	149	110	119	52
H20	116	23	87	842	138	114	127	53
H22	120	21	90	869	135	114	132	55
H24	113	17	91	895	139	105	122	50
H26	105	16	88	915	139	115	127	50
H28	118	18	98	918	135	118	124	47
H30	122	19	103	945	134	122	128	39

②二次医療圏別診療所従事医師数 (人)

	大館・鹿角	北秋田	能代・山本	秋田周辺	由利本荘・にかほ	大仙・仙北	横手	湯沢・雄勝
H16	57	21	64	292	54	80	65	29
H18	58	19	57	311	58	86	61	33
H20	62	20	57	303	59	84	62	33
H22	58	20	56	310	57	84	59	33
H24	60	21	57	303	58	82	64	29
H26	53	21	58	327	56	81	62	30
H28	54	19	56	319	55	84	62	32
H30	52	19	55	325	57	83	52	31

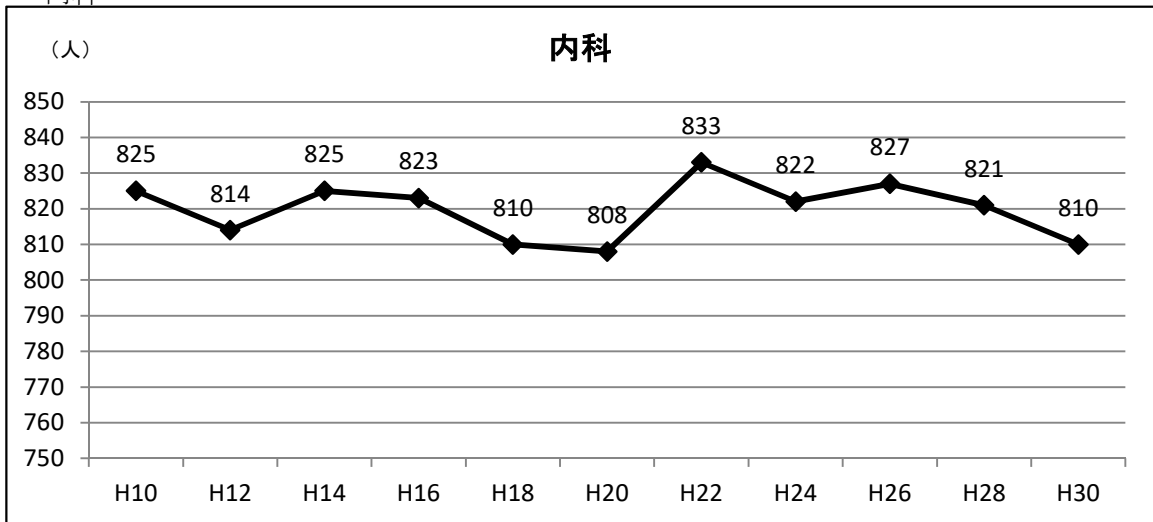
出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」 (厚生労働省)

10 診療科別の医療施設従事医師数 (推移)

※ 診療科について、次のとおり整理集約して分類しています。

内科	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科 (胃腸内科)、腎臓内科、神経内科、糖尿病内科 (代謝内科)、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、感染症内科
精神科	精神科、心療内科
外科	外科、呼吸器外科、循環器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科 (胃腸外科)、肛門外科
産婦人科	産婦人科、産科、婦人科

(1) 内科

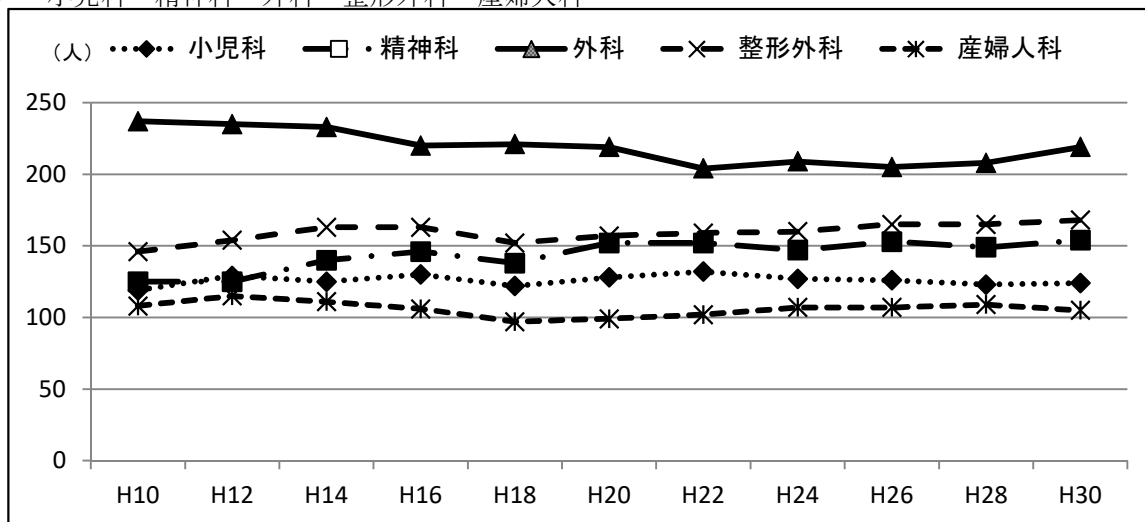


出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」 (厚生労働省)

- 内科については、平成10年以降、概ね820人前後で推移してきましたが、平成30年度には810名と落ち込みを見せています。
- 専門診療科について、平成28年と平成30年を比較すると、内科 (3人)、呼吸器内科 (4人)、血液内科 (4人) 等で増加し、循環器内科 (△3人)、消化器内科 (△15人)、腎臓内科 (△7人)、神経内科 (△3人) で減少しています。



(2) 小児科・精神科・外科・整形外科・産婦人科

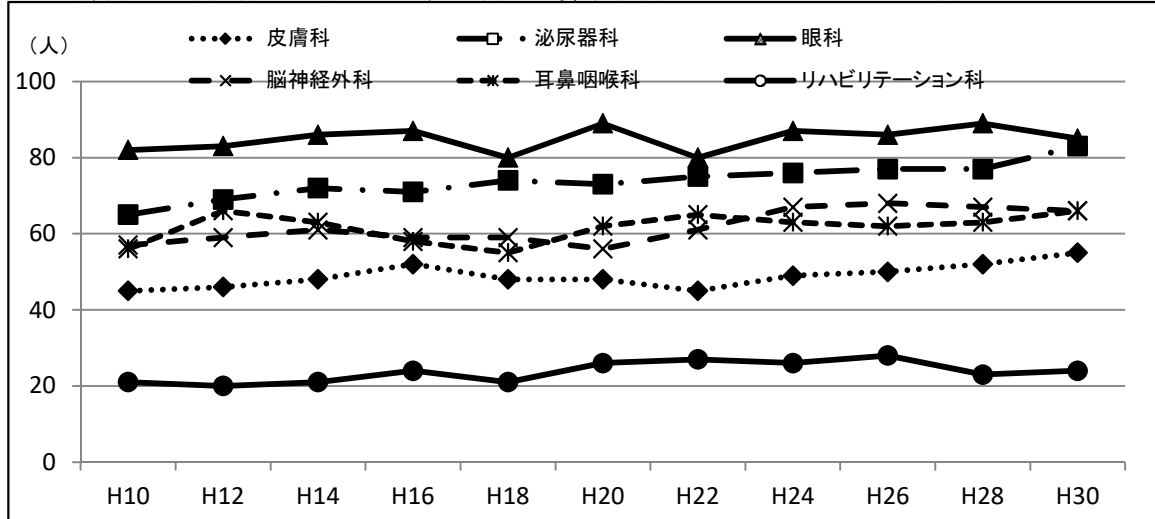


	(人)										
	H10	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30
小児科	119	129	125	130	122	128	132	127	126	123	124
精神科	125	125	140	146	138	152	152	147	153	149	154
外科	237	235	233	220	221	219	204	209	205	208	219
整形外科	146	154	163	163	152	157	159	160	165	165	168
産婦人科	108	115	111	106	97	99	102	107	107	109	105

出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」(厚生労働省)

- 外科は219人と前回に比較し11名増加し平成16年頃の水準まで回復しましたが、平成10年と比較すると20人程度少ない状況です。専門診療科の平成28年と平成30年の数値を比較すると、消化器外科(12人)、心臓血管外科(6人)、呼吸器外科(2人)、乳腺外科(2人)、肛門外科(1人)が増加しましたが、外科(△12人)が減少しています。
- 整形外科は168人と、前回調査時から3人増加し、平成10年と比較すると22人(15.1%)増加しています。
- 精神科は154人と、前回調査時より5人増加しており、平成10年と比較すると29人(23.2%)増加しています。
- 小児科、産婦人科は、平成10年以降、ほぼ横ばいで推移しています。

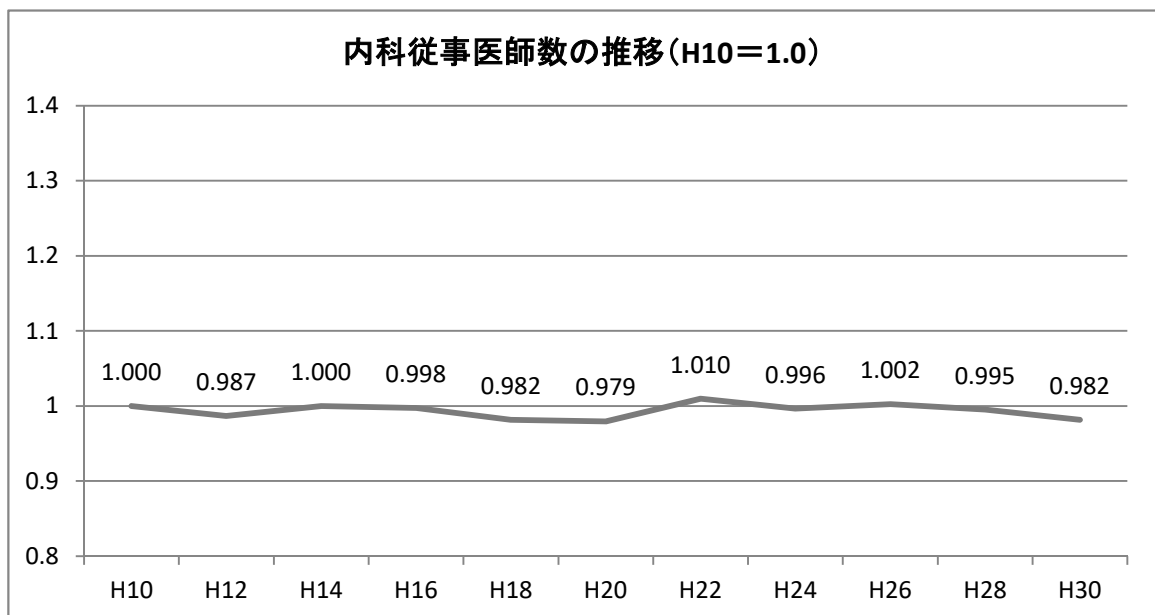
(3) 皮膚科・泌尿器科・眼科・脳神経外科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科



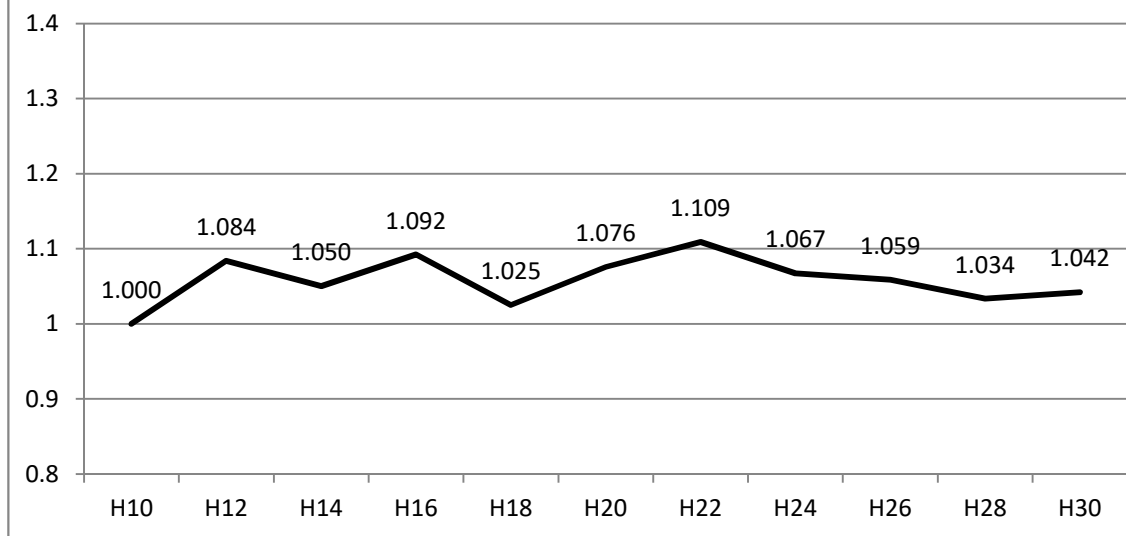
	H10	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30
皮膚科	45	46	48	52	48	48	45	49	50	52	55
泌尿器科	65	69	72	71	74	73	75	76	77	77	83
眼科	82	83	86	87	80	89	80	87	86	89	85
脳神経外科	57	59	61	59	59	56	61	67	68	67	66
耳鼻咽喉科	56	66	63	58	55	62	65	63	62	63	66
リハビリテーション科	21	20	21	24	21	26	27	26	28	23	24

出典 「医師・歯科医師・薬剤師調査」(厚生労働省)

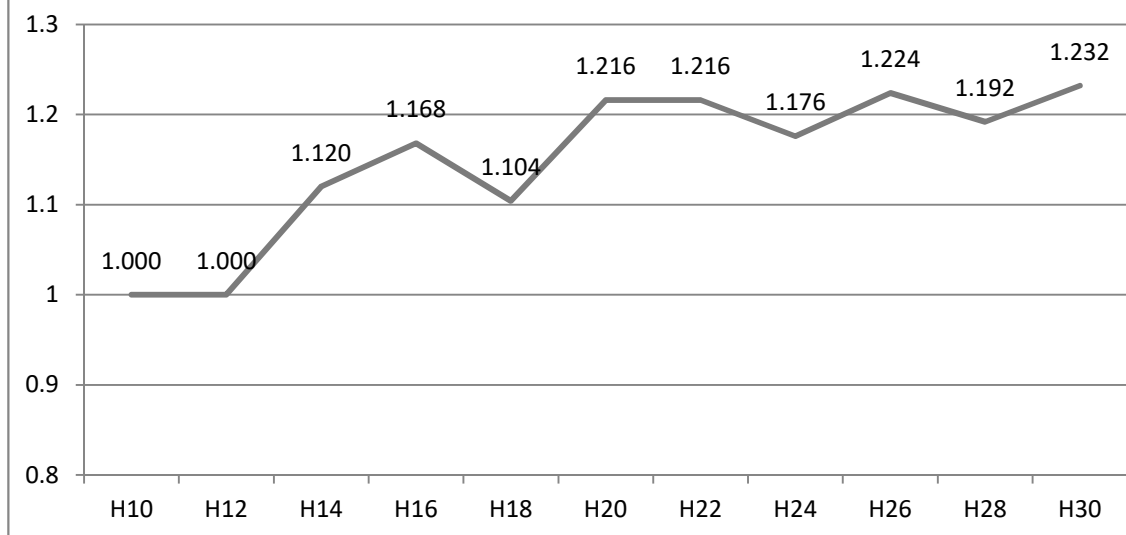
- ・泌尿器科は83人と、前回調査時より6名増加しており、平成10年に比較すると18人(27.7%)増加しています。
- ・皮膚科、脳神経外科、耳鼻咽喉科は、増減を繰り返していますが、近年は増加傾向にあり、平成10年に比較すると10人前後(20%前後)増加しています。
- ・眼科、リハビリテーション科は、増減を繰り返していますが、いずれも平成10年に比較し、平成30年は微増しています。



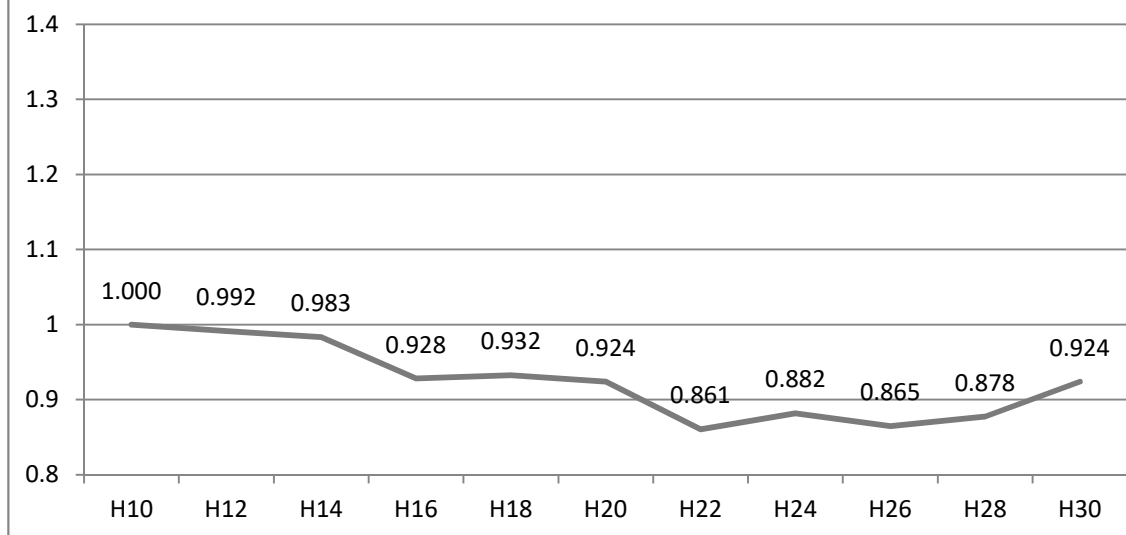
小児科従事医師数の推移(H10=1.0)



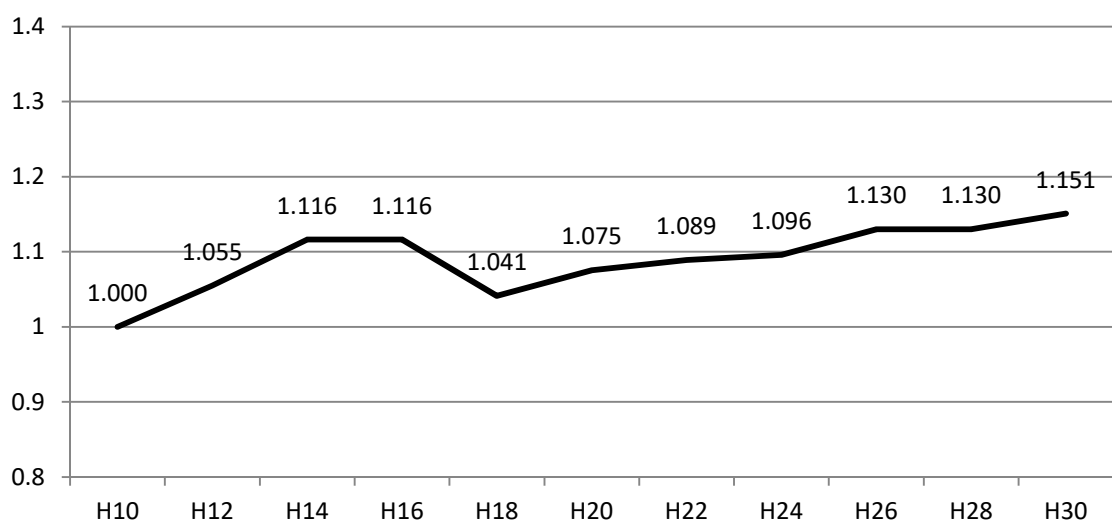
精神科従事医師数の推移(H10=1.0)



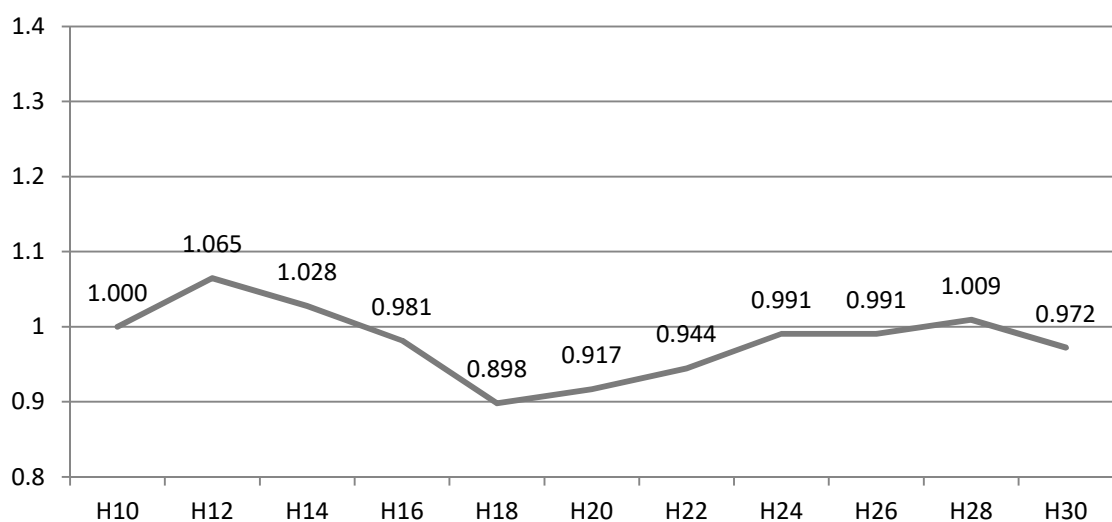
外科従事医師数の推移(H10=1.0)



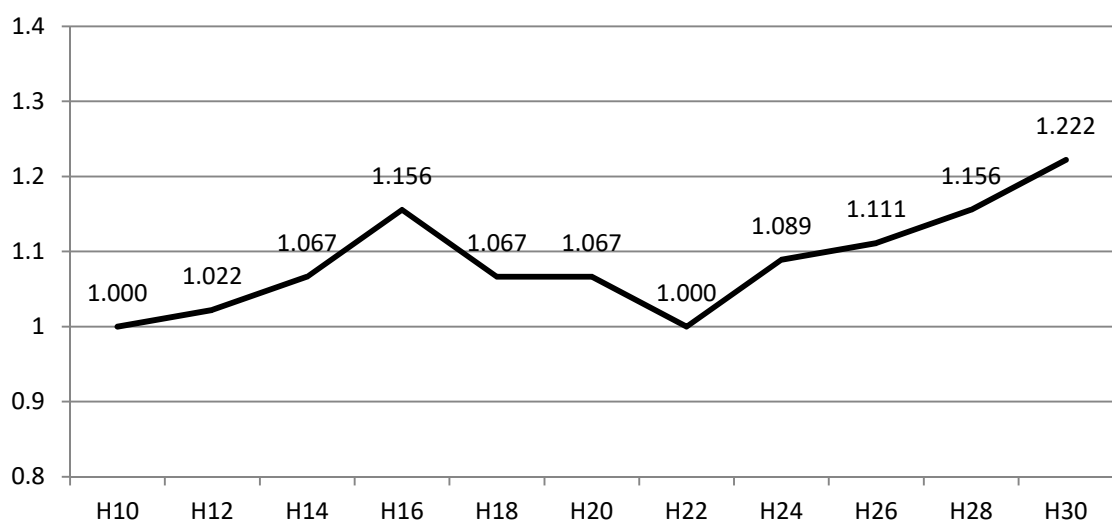
整形外科従事医師数の推移(H10=1.0)



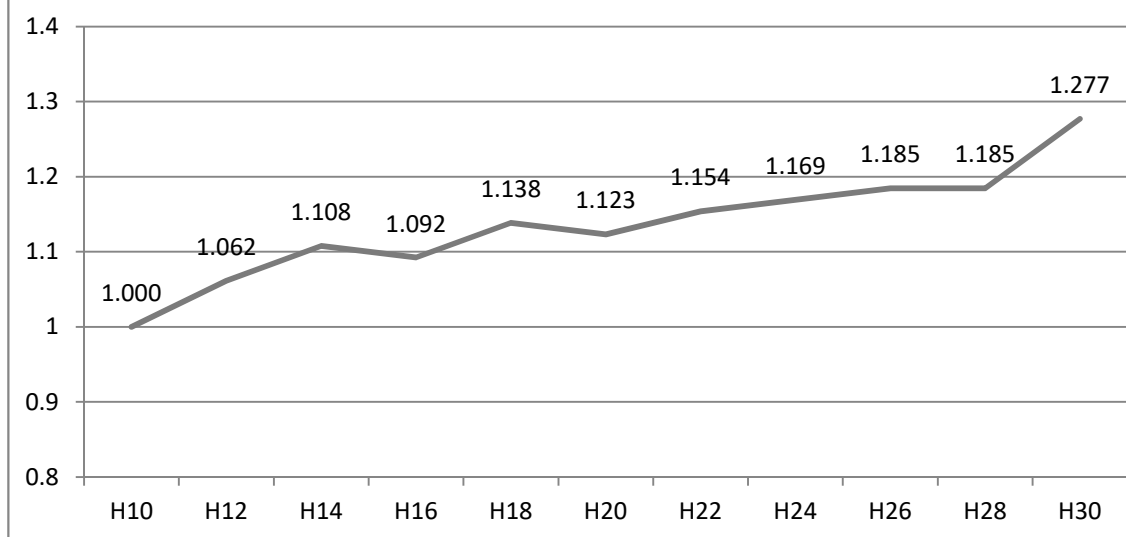
産婦人科従事医師数の推移(H10=1.0)



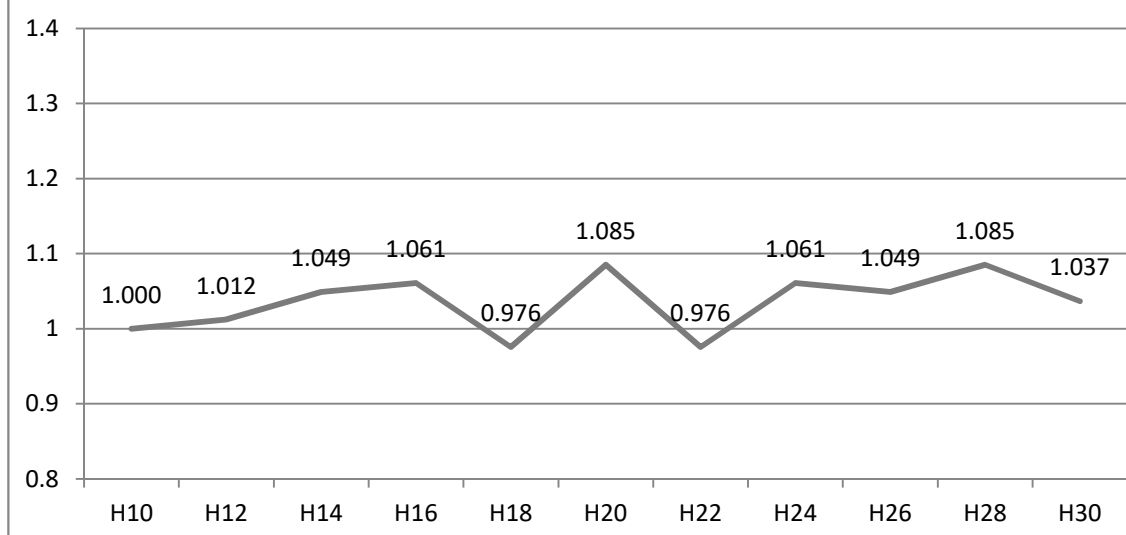
皮膚科従事医師数の推移(H10=1.0)



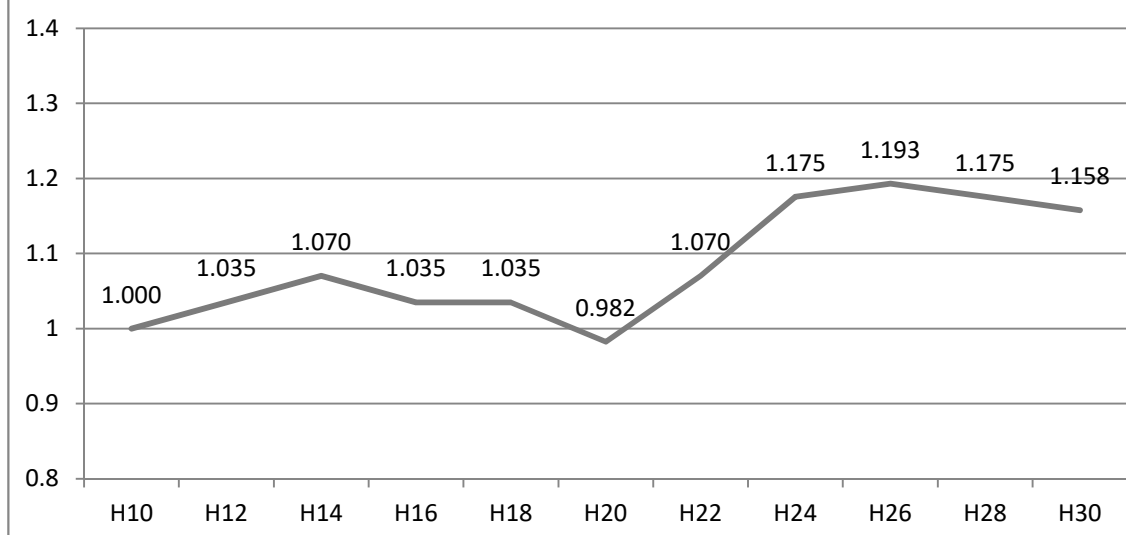
泌尿器科従事医師数の推移(H10=1.0)



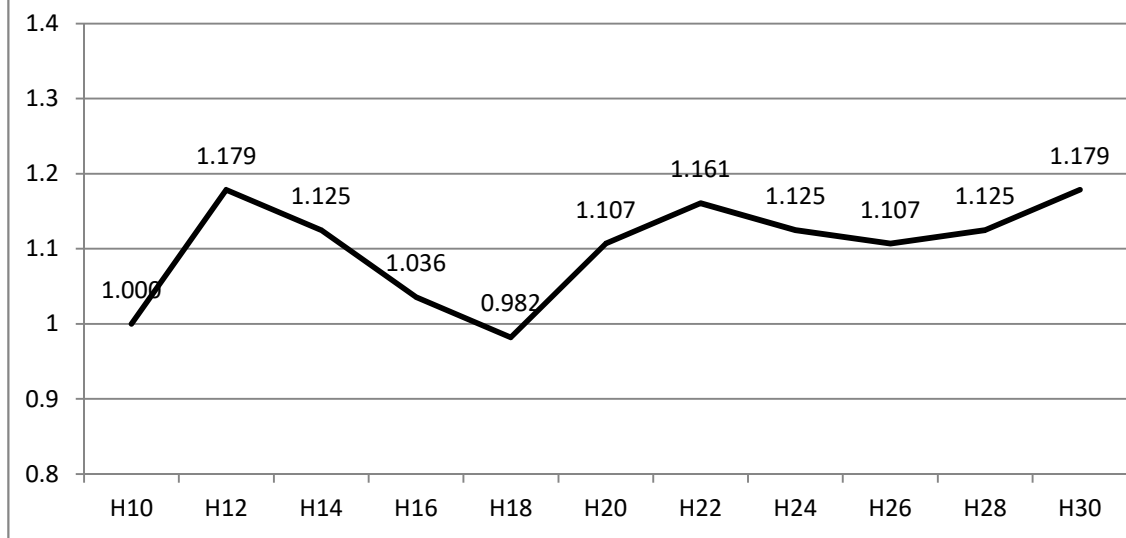
眼科従事医師数の推移(H10=1.0)



脳神経外科従事医師数の推移(H10=1.0)



耳鼻咽喉科従事医師数の推移(H10=1.0)



リハビリテーション科従事医師数の推移(H10=1.0)

